

検疫所ベクターサーベイランスデータ報告書(2010 年)
Report on Vector-Borne Infectious Diseases Pathogens and
Vector Surveillance for 2010

2011 年 5 月

厚生労働省医薬食品局食品安全部企画情報課検疫所業務管理室
成田空港検疫所検査課媒介動物検査室

目次

はじめに	5
I わが国を取り巻く媒介動物由来感染症の状況	6
国内の媒介動物由来感染症の発生状況.....	6
海外の媒介動物由来感染症の発生状況.....	7
II 検疫感染症及び媒介動物の侵入・生息調査の概要.....	11
調査実施検疫港・空港	11
調査対象感染症及び調査方法等	11
III 媒介動物侵入・生息調査の結果.....	12
蚊族調査.....	12
航空機調査	12
港湾区域等調査	12
ねずみ族調査.....	13
リスク評価とまとめ.....	14
蚊族媒介性感染症.....	14
ねずみ族媒介性感染症.....	15
IV 情報提供事業	15
V 参考資料.....	15
VI 表・グラフ・地図.....	23

はじめに

わが国では国内に常在しない感染症を検疫感染症及び検疫感染症に準ずる感染症として法令で定め、水際である国際港及び国際空港（以下、「検疫港」という。）で必要な措置を講じている。これらの感染症には動物が保有し、人へ感染させる動物由来感染症が多く含まれており、ラッサ熱、南米出血熱、腎症候性出血熱、ハンタウイルス肺症候群などねずみが媒介する感染症や、マラリア、デング熱、ウエストナイル熱、日本脳炎など蚊が媒介する感染症、そしてダニが媒介するクリミア・コンゴ出血熱、その他げっ歯類が病原体を保有し、ノミを介して人へ感染させるペストがある。これらの動物由来感染症は過去に大きな流行を引き起こしてきたが、その代表には、14世紀のヨーロッパにおけるペストの大流行が挙げられる。その被害は当時のヨーロッパの総人口の1/4が命を落としたと言われている¹。他方、我が国においても海外との交流が頻繁になった明治時代には神戸・大阪でペストの流行があり、昭和17年には長崎から侵入したデング熱が神戸、大阪まで広がり、感染者数は約17万人に達した^{2,3}。これらの流行は、外航船舶が入港する国際港により、病原体を保有した入国者あるいは船舶に潜む媒介動物が国内へ侵入し、加えて我が国に生息している媒介動物が感染拡大の原因ともなった。戦後、我が国では公衆衛生の向上、生活環境の変化に伴い媒介動物との接触は減少し、それに加え医療・環境の改善により患者数は激減した。しかしながら、世界に目を向けると、世界の人口の半分以上がマラリアの危険にさらされ、毎年、約2億4千万人の患者が発生し、約86万3千人が死亡している。デング熱においては熱帯と亜熱帯地域の都市部を中心に毎年5千万人の患者が発生している。アフリカを起源とし、その周辺国で発生していたウエストナイル熱は1999年に米国で突如として出現し、その後ウイルスは北米に定着している。1953年にタンザニアで発見されたチクングニア熱は、媒介蚊であるネッタイシマカの分布している地域を中心に発生していたが、2006年にはインド洋のレユニオン島の人口の1/3にあたる約27万人が感染し、250人以上が死亡する大きな流行を引き起こした。その後、チクングニア熱は周辺国へ拡大し続けており、旅行者による病原体の持ち込みによって、温帯地域であるイタリア、フランス国内においても流行を引き起こしている。

以上のように世界では媒介動物が関与する感染症は依然として存在し続けており、拡大の傾向にある^{4,5,6}。

このような状況に加え、地球温暖化により、デング熱などを媒介する蚊などの衛生害虫の生息地域の拡大が予想され、わが国においても、イタリア、フランス同様、媒介動物の侵入・拡大が懸念されている⁷。

このようなことから、海外との接点である検疫港では感染症患者の発見・措置に加え、媒介動物の侵入・生息状況について監視していることは極めて重要である。一方で、国際保健規則（IHR）によれば、わが国から海外に持ち出すおそれのある感染症（日本脳炎）の媒介動物についても監視が必要となっている。これらを踏まえ、検疫所では法令に基づき媒介動物の侵入・生息状況および病原体保有状況の調査（以下、「ベクターサーベイランス」という。）を行っている。

本報告書は全国の検疫港で実施したベクターサーベイランスを基に検疫港における媒介動物の生息・侵入する種類・分布状況と検疫感染症の流行の可能性を解析・評価した。このデータを各検疫所へ情報を還元することにより、感染症対策の一助となることを目的として作成したものである。

なお、本報告書は各検疫所のベクターサーベイランス担当職員及び集約作業に携わった港湾衛生調査担当者の協力及び海外での感染症情報を提供して頂いた神戸検疫所水田氏により完成した。

平成 23 年 5 月 1 日
成田空港検疫所検査課
媒介動物検査室

¹ 大友豊美、ペスト 防疫シリーズ、日本公衆衛生協会、pp4、(1963)

² 厚生労働省公衆衛生局、検疫制度百年史、ぎょうせい、pp51-55、(1980)

³ 長崎市医師会、長崎県の医療史 http://www.nagasaki.med.or.jp/about/history_05.htm（参照：2011-05-17）

⁴ WHO ホームページ、What is chikungunya fever?、<http://www.who.int/features/qa/63/en/>（参照：2011-05-17）

⁵ 国立感染症研究所、ホームページ、<http://www.nih.go.jp/vir1/NVL/NVL.html>（参照：2011-01-29）

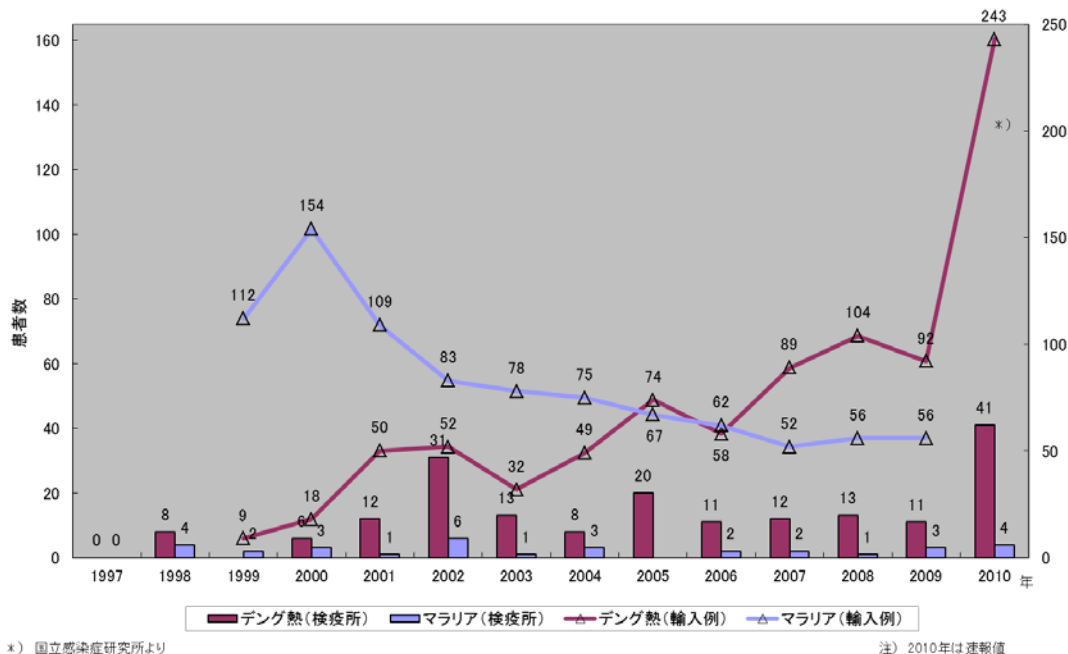
⁶ The European Centre of Disease Prevention and Control (ECDC). 2007. Mission Report 17 – 21 September 2007. Chikungunya in Italy.

⁷ IPCC. Climate Change 2007: Synthesis Report. pp51. (2007)

I. わが国を取り巻く動物由来感染症の状況

1. 国内の動物由来感染症の発生状況

わが国における蚊媒介性感染症の国内患者発生状況は、デング熱及びマラリアの海外での感染（輸入例）はあったものの国内での流行はなかった。デング熱の輸入例の状況を国立感染症研究所のホームページからのデータでは12月26日時点で243例（2009年：92例）の輸入例が報告されている。推定感染国の内訳はその殆どがアジアで、インドネシアが多く占めていた⁸。検疫所での発見例は41例で2009年の11例と比較し、国内と同様に大幅な増加が見られた（表A）。



表A 検疫所及び国内でのデング熱、マラリア患者の発見数

マラリアについては媒介動物検査室の調査で検疫所での発見例は関西国際空港2例、成田国際空港1例、中部空港1例の合計4例（2009年：3例）となり、2009年と同様に低い値となった^{9,10}。日本脳炎は毎年、僅かではあるが国内で患者が発生している。このような状況で国立感染症研究所では全国のブタの日本脳炎ウイルスに対するHI抗体を測定し間接的に日本脳炎ウイルスの蔓延状況等を調査している。2010年の状況は5月より沖縄県からHI抗体が確認された以降、多くの県で抗体を保有したブタが確認された¹¹（表A）。抗体保有状況から日本脳炎ウイルスが活動している地域では、ヒトへの感染の危険性が高くなっていると考えられるが現在では、ワクチン接種の普及及び媒介動物の減少等の影響で日本脳炎患者は毎年数名程度に止まっている。我が国では現在、ワクチンの定期接種、媒介蚊に刺される機会の減少、コガタアカイエカが増殖する水田の減少や稲作方法の変化により、コガタアカイエカの数が増加したことやウイルスの増幅動物であるブタの養豚場の集約等の変化により、近年では年間数名程度の発生にとどまっている¹²。しかし、HI抗体の保有状況の調査では依然として確認されており、毎夏に日本脳炎ウイルスを媒介する蚊は発生することから、国内でも感染の機会ゼロではない^{13, 14}。昨年の患者発生は長崎、山口、三重、高知県（2009年：熊本、大阪、高知県）において4例の感染が確認されている¹⁵。

⁸ 国立感染症研究所ホームページ.デングウイルス感染症情報. <http://www.nih.go.jp/vir1/NVL/NVL.html> (参照：2011-01-29)

⁹ 成田空港検疫所ホームページ.成田空港検疫所検疫実績及び病原菌等検出状況. <http://www.forth.go.jp/keneki/narita/> (参照：2011-01-29)

¹⁰ 国立感染症研究所ホームページ.感染症発生動向調査事業年報. <http://idsc.nih.go.jp/idwr/CDROM/Main.html> (参照：2011-01-29)

¹¹ 国立感染症研究所ホームページ.ブタの日本脳炎 HI 抗体保有状況調査. http://idsc.nih.go.jp/yosoku/JE/2010JEsw/JE10_17.html (参照：2011-01-29)

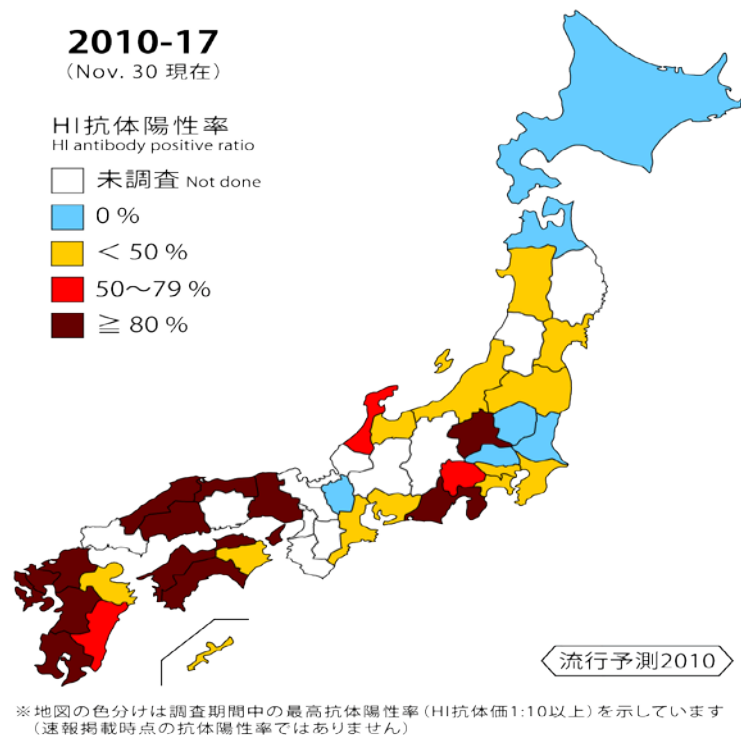
¹² 上村(1998),Med Entomol Zool 49(3): 181-185,

¹³ 国立感染症研究所ホームページ.わが国のブタにおける日本脳炎に対する抗体保有状況. <http://idsc.nih.go.jp/iasr/30/352/dj3522.html> IASR Vol.30 No.6 (No.352) June 2009 (参照：2011-01-29)

¹⁴ 国立感染症研究所ホームページ.ブタの日本脳炎 HI 抗体保有状況調査. (参照：2011-01-29)

http://idsc.nih.go.jp/yosoku/JE/2009JEsw/JE09_17.html

¹⁵ 国立感染症研究所ホームページ.2010年日本脳炎患者情報. <http://www.nih.go.jp/vir1/NVL/JEVMeeting.htm> (参照：2011-01-29)



図A ブタの日本脳炎 HI 抗体保有状況調査速報

出典：国立感染症研究所 ¹⁵

2. 海外の動物由来感染症の発生状況

世界に目を向けると多くの国で検疫感染症等に関わる動物由来感染症は発生している。マラリアについては、世界の人口の半分以上がマラリアの危険にさらされ、約2億4千万人の患者と約86万3千人の死者がある。その多くの患者はアフリカのサハラ以南で発生している。これらの地域で感染する旅行者は全世界でも年間3万人程度あるとされている。また、わが国との頻繁な交流がある西太平洋地区では患者の発生は減少傾向にあるが、依然として10の国で年間およそ40万人の患者が発生している¹⁶(図B)。

Malaria, countries or areas at risk of transmission, 2010



図B マラリア発生の危険がある地域 (2010 年)

出典：WHO; Global Health Observatory Map Gallery ¹⁷

¹⁶ World Health Organization. World Malaria Report 2009

¹⁷ World Health Organization. Global Health Observatory Map Gallery. <http://gamapserver.who.int/mapLibrary/app/searchResults.aspx> (参照：2011-01-31)

デング熱については世界の人口の5分の2の約25億人の人々がデング熱の危険にさらされ、5千万人のデング熱の感染が毎年発生している。アフリカ、南北アメリカ、東地中海、南東アジア及び西部太平洋地域における100以上の国で流行し、東南アジアと西太平洋は深刻な影響を受けている。また、アメリカ大陸でも2007年には89万人以上の感染と2万6千人のデング出血熱が発生している。ベネズエラでは8万人の患者と6千人のデング出血熱が発生し、翌年の2008年には感染者は91万人となりアメリカ大陸の発生数はブラジルが半数を占めていた。2009年同様にデング熱の感染者の拡大・増加傾向にある^{18,19}。また、2010年にはフランスでも国内での感染例の報告があるなど、我が国に広く生息しているヒトスジシマカが媒介したと思われるデング熱の発生がみられた²⁰ (図C、表18)。

Distribution of countries or areas at risk of dengue transmission, worldwide, 2008



図C デング熱発生の危険がある地域(2008年)

出典:WHO;Global Health Observatory Map Gallery²¹

ウエストナイル熱はアフリカ、ヨーロッパ、中東、中央アジア、西アジア、北米など広い地域に分布している。1999年に初めての患者を確認した米国では患者発生数がピーク時には3千名となったが、2005年を境に減少し2010年では患者981名、死者45名となっている。依然としてウイルスは媒介動物から検出されている^{22,23} (図D、表18)。その他、2010年にはギリシャ、マケドニアで大きな流行が確認されている。

¹⁸ World Health Organization. Dengue and dengue haemorrhagic fever. <http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs117/en/> (参照: 2011-01-29)

¹⁹ The Pan American Health Organization. Number of Reported Cases of Dengue & Dengue Hemorrhagic Fever (DHF) Region of the Americas" <http://www.paho.org/spanish/ad/dpc/cd/Dengue.htm> (参照: 2011-01-29)

²⁰ Eurosurveillance. FIRST TWO AUTOCHTHONOUS DENGUE VIRUS INFECTIONS IN METROPOLITAN FRANCE, SEPTEMBER 2010 Volume 15/ Issue 39. <http://www.eurosurveillance.org/ViewArticle.aspx?ArticleId=19676> (参照: 2011-05-13)

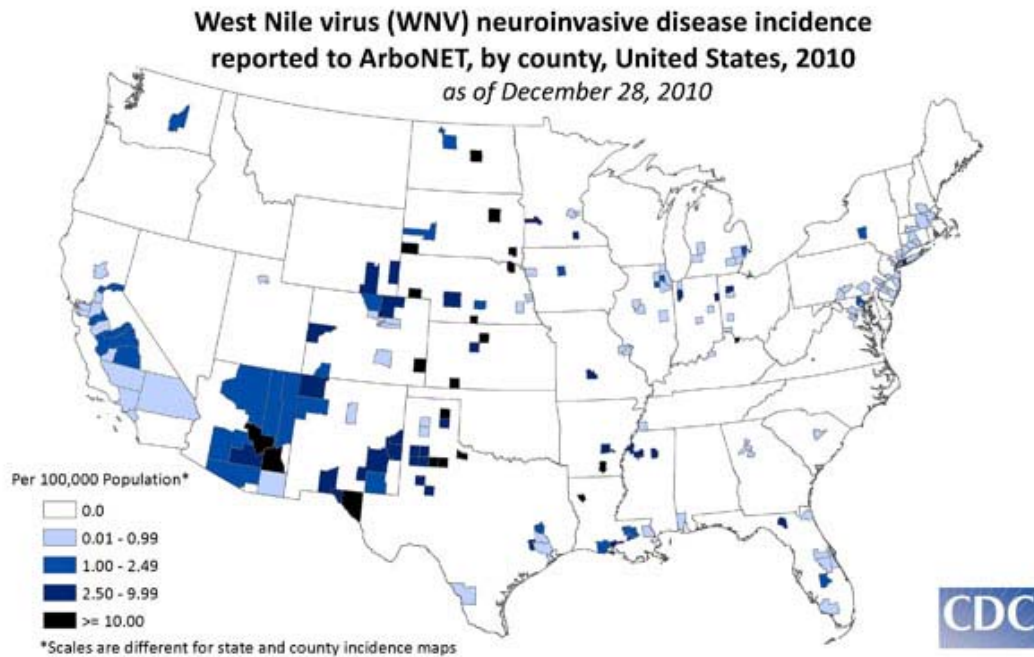
²¹ "Global Health Observatory Map Gallery"WHO. <http://gamapserver.who.int/mapLibrary/app/searchResults.aspx> (参照: 2011-01-31)

²² Centers for Disease Control and Prevention ホームページ.

<http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/Mapsactivity/surv&control09Maps.htm> (参照: 2011-05-13)

²³ Centers for Disease Control and Prevention ホームページ.

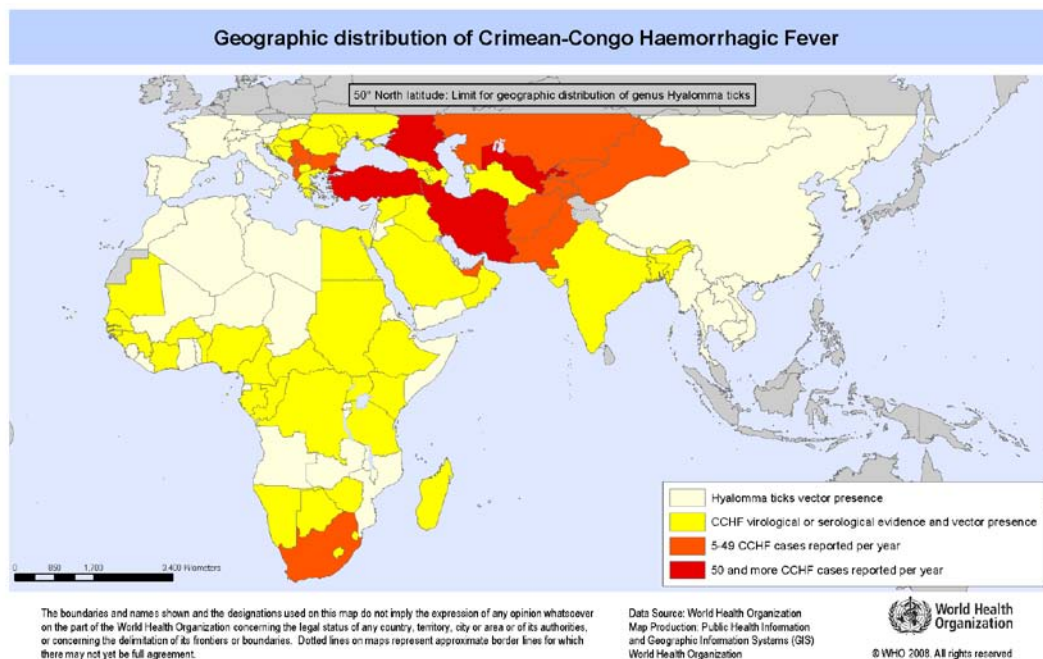
http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/surv&controlCaseCount10_detailed.htm (参照: 2011-05-13)



図D アメリカ合衆国ウエストナイル熱の発生状況(2010年)

出典: CDC; National Center for Infectious Diseases ²⁴

クリミア・コンゴ出血熱はロシアで 2000-2009 年の間に約 1,300 の患者が確認されている。2009 年はグルジア、カザフスタン、タジク、イラン、パキスタン、アルバニア、ブルガリア、キプロス、フランス、ギリシヤ、イタリア、コソボ、モルドバ、ポルトガル、ルーマニア、ロシア、セルビア、スペイン、トルコ及びウクライナから患者が確認されているが 2010 年にはProMED情報によるとカザフスタン共和国、コソボ、ロシア、ナミビア、パキスタンでの発生が報告された²⁵ (図E、表 18)。



図E クリミア・コンゴ出血熱の発生状況

出典: WHO; Crimean-Congo haemorrhagic fever (CCHF) ²⁶

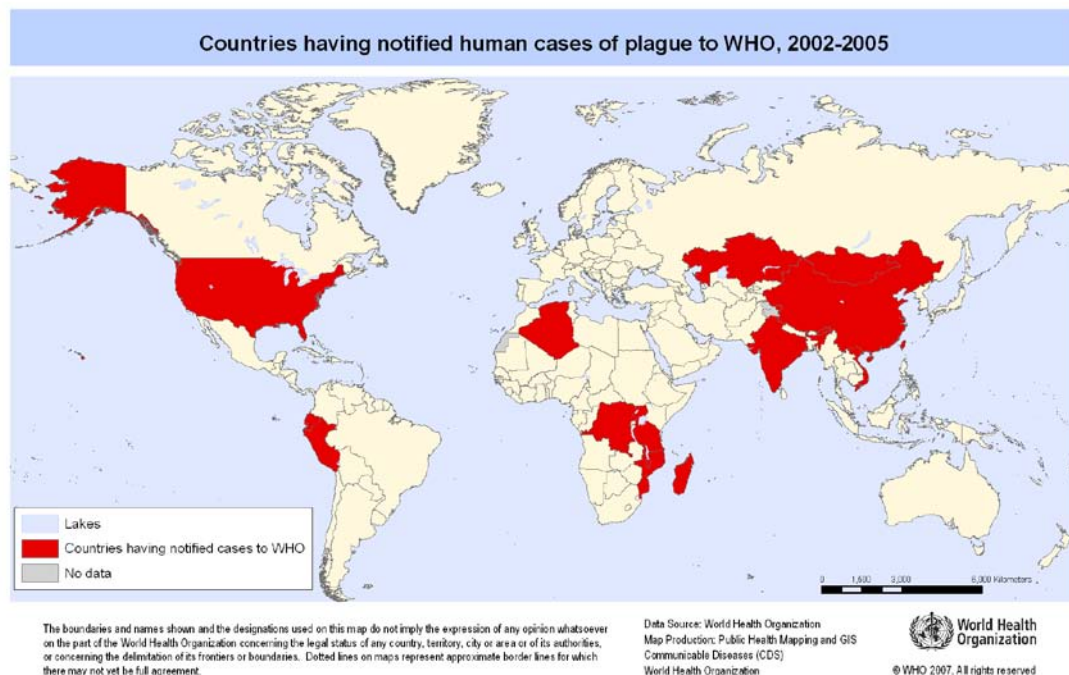
²⁴ Centers for Disease Control and Prevention ホームページ.

<http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/Maps/incidence/surv&control10IncidbyCounty.htm> (参照: 2011-05-13)

²⁵ The European Centre of Disease Prevention and Control (ECDC). 2010. urosurveillance, Volume 15, Issue 10, 11 March 2010. Crimean-Congo hemorrhagic fever in Europe: current situation calls for preparedness

²⁶ World Health Organization. Crimean-Congo haemorrhagic fever (CCHF). http://www.who.int/csr/disease/crimean_congoHF/en/index.html (参照: 2011-05-13)

ペストはアフリカの多くの国、旧ソ連、アメリカ大陸及びアジアの風土病である。2010 年では中国の甘肅省、アクサイカザフ族自治県、酒泉市で腺ペストの疑い例の場合を発見し、敗血症型腺ペストを確認した。WHO の Global Alert and Response (GAR)でペルーから 17 例の患者報告があり、その他、ミャンマーの首都ヤンゴンでは 10 年ぶりにペストの病例を発見し、モンゴルのバヤンウルギー県 ツェンゲル郡でマーモットに接したことによるペストの感染例があった。その他、ゴビ・アルタイ県エルデネ郡とチャンドマニ郡でも患者が確認された（図 F、表 18）。



図F ペスト患者の発生国(2002-2005 年)

出典:WHO ²⁷

腎症候性出血熱（HFRS）は Hantaan 型（中国、韓国、極東ロシア）、Seoul 型（中国、韓国、日本、米国、ヨーロッパ）、Dobrava 型（東ヨーロッパ）、Puumala 型（ヨーロッパ）が人へ HFRS を起こすが、ヨーロッパから中国、韓国や極東ロシアまでユーラシア大陸全域に渡り HFRS が存在し、アジア、ヨーロッパにおいては多くの国で患者の報告がある。

中国では毎年 10 万人、韓国では数百人、ヨーロッパでは数千人程度の患者発生があるとされている。²⁸ 2010 年では台湾の台北県五股郷で腎症候性出血熱に感染したことを確認した。その他、モルドバ共和国、ドイツのバーデンヴェルテンベルク州でプーマラウイルス感染による死亡例、ロシア、モスクワ州では 2010 年の前半期に 10 例が記録されたが、これは昨年同期の 3 倍である。タタリスタン共和国の主に首都カザンで 17 例が記録された。

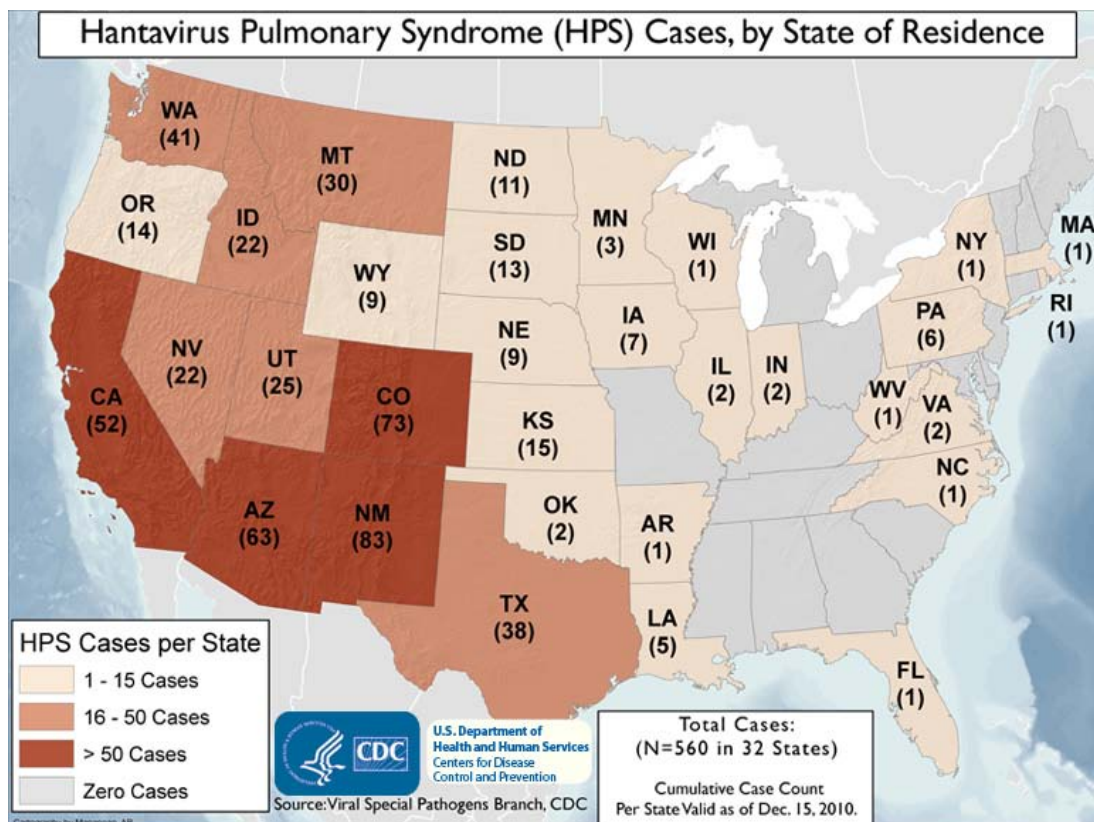
ハンタウイルス肺症候群（HPS）は、カナダ、米国、パナマ、ブラジル、ボリビア、パラグアイ、チリ、ウルグアイ、アルゼンチン等の南米において発生が確認されている。米国では毎年 20-40 例の患者報告があり 2010 年まで 560 例が確認されている。過去のデータから死亡率は約 36% と高く、患者の多くは農村部の住民であった^{29,30}（図 G、表 18）。

²⁷ World Health Organization. <http://gamapserver.who.int/mapLibrary/>（参照：2011-01-31）

²⁸ 国立感染症研究所ホームページ.http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k04/k04_51/k04_51.html

²⁹ Centers for Disease Control and Prevention .Hantavirus Pulmonary Syndrome (HPS) Cases, by State. <http://www.cdc.gov/ncidod/diseases/hanta/hps/noframes/caseinfo.htm>（参照：2011-01-31）

³⁰ Morbidity and Mortality Weekly Report (MMWR). 2010. March 19, 2010 / 59(10);304-317



図G 米国におけるハンタウイルス肺症候群の発生状況(2010年)

出典: CDC; Hantavirus Pulmonary Syndrome (HPS) Cases, by State³¹

II. 検疫感染症及び媒介動物の侵入・生息調査の概要

1. 調査実施検疫港・空港

本報告書に用いた調査データは小樽港、石狩湾新港、稚内港、留萌港、紋別港、網走港、花咲港、釧路港、苫小牧港、室蘭港、函館港、青森港、八戸港、宮古港、釜石港、大船渡港、気仙沼港、石巻港、仙台・塩釜港、秋田・船川港、酒田港、小名浜港、千葉港、東京港、川崎港、横浜港、直江津港、新潟港、伏木・富山港、金沢・七尾港、清水港、名古屋港、四日市港、舞鶴港、大阪港、岸和田港、神戸港、広島港、松山港、関門港、博多港、長崎港、鹿児島港、那覇港、石垣港の各海港及び新千歳空港、旭川空港、函館空港、釧路空港、帯広空港、青森空港、仙台空港、秋田空港、福島空港、成田国際空港、東京国際空港、新潟空港、富山空港、小松飛行場、中部国際空港、関西国際空港、広島空港、松山空港、福岡空港、那覇空港の各空港で合計、海港 45 (2009 年: 32 港) 及び空港で 20 港 (2009 年: 14 港)、合わせて 65 検疫港 (2009 年: 46 検疫港) の政令区域であった (地図 1、表 1-①～③)。

2. 調査対象感染症及び調査方法等

調査の対象の感染症は平成 17 年 8 月 3 日付、食安検発第 0803001 号「港湾区域等衛生管理業務の手引きについて」(以下、「衛生管理業務の手引き」という。)の通知の別添 1「港湾衛生管理ガイドライン」(以下、「ガイドライン」という。)の 2.「調査対象感染症のねずみ族及び蚊族調査」(以下、「調査マニュアル」という。)で示されているねずみ族、ノミ類及び蚊族で媒介される検疫感染症及び検疫感染症に準ずる感染症であるデング熱、日本脳炎、ウエストナイル熱、マラリア (以下、「蚊族媒介性感染症」という。)ペスト、腎症候性出血熱、ハンタウイルス肺症候群、ラッサ熱、南米出血熱 (以下、「ねずみ族媒介性感染症」という。)、とした。なお、法令変更により黄熱は対象から除外し、南米出血熱は追加した。

調査の方法は、衛生管理業務の手引きの別添 2 の「I ねずみ族調査マニュアル」及び別添 3 の「III 蚊族調査マニュアル」に基づき実施した (参考資料)。

³¹ Centers for Disease Control and Prevention. "Hantavirus Pulmonary Syndrome (HPS) Cases, by State" <http://www.cdc.gov/ncidod/diseases/hanta/hps/noframes/epislides/epislides.htm> (参照: 2011-01-31)

① 調査実施期間

平成 22 年 1 月 1 日～12 月 31 日

② 調査データの集約方法

平成 18 年 9 月 25 日付、食安検発第 0925001 号「「港湾区域等衛生管理業務の手引きについて」における調査結果の取扱いについて」に基づき、同通知の別添資料 1 の電子媒体の様式 1～7 (Microsoft® Excel) 及び資料 6-1、2 の評価マップ (Adobe® Acrobat PDF) の調査データを成田空港検疫所検査課媒介動物検査室へ送付し、全国検疫所の調査結果を一元化した。

Ⅲ. 媒介動物侵入・生息調査の結果

1. 蚊族調査

蚊族で媒介されるマラリア、デング熱、日本脳炎、ウエストナイル熱に対する浸淫度を追跡し、流行を推定する目的で航空機及び政令区域について媒介蚊の侵入・生息状況を把握した。

① 航空機調査

調査マニュアルに従い、到着航空機について機内の蚊の生息状況を目視及び捕虫網で捕集調査を実施した。調査空港は 18 空港で 35 ケ国・地域、79 路線(2009 年：24 ケ国・地域、65 路線)、合計 2,049 機(2009 年：1,621 機)であった。その内訳は中国 479、韓国 325、グアム・アラスカを除く米国 277、台湾 241、タイ 131、ベトナム 85、フィリピン 75、インドネシア 70、シンガポール 59、インド 58、マレーシア 41、ロシア連邦 35、ルクセンブルグ 29、パキスタン 12、スリランカ 11、カタール 11、メキシコ 10、フランス 10、ニューカレドニア 9、イラン 9、アラブ首長国連邦 9、イタリア 8、オーストラリア 7、フィンランド 6、トルコ 6、カナダ 6、オランダ 6、エジプト 6、ドイツ 5、サイパン 4、フランス領ポリネシア 3、モンゴル 2、ニュージーランド 2、ニューギニア 1、カザフスタン 1 であった。そのうち、10 ケ国、13 路線(2009 年：10 ケ国、13 路線)の合計で 33 機 1.61%、110 個体(2009 年：15 機 0.93% 30 個体)から蚊の生息を確認した(表 2、3、グラフ 1、地図 2)。

捕集比率が高い路線(最終寄港地)はフランス領ニューカレドニア(NUO)が 9 機中 5 機 55.6%で最も高く、次いでインド(BOM)が 30 機中 8 機 26.7%、中国(MFM)8 機中 1 機 12.5%、マレーシア(KUL)41 機中 4 機 9.8%、カタール(DOH)11 機中 1 機 9.1%、パキスタン(KHI)12 機中 1 機 8.3%、米国(ANC)17 機中 1 機 5.9%、タイ(BKK)131 機中 6 機 4.6%、中国(HKG)77 機中 2 機 2.6%、ベトナム(SGN,HAN)各 42 機中 1 機 2.4%、米国(SFO)61 機中 1 機 1.6%、韓国(ICN)283 機中 1 機 0.4%の順であった(表 3、グラフ 1、地図 2)。

これら捕集した蚊の種の内訳は *Culex pipiens* Complex (アカイエカ群)が 21 機 61 個体(2009 年：6 機 6 個体)で最も多く、その中で日本脳炎及びウエストナイル熱の媒介が疑われる *Cx. pipiens quinquefaciatus* (ネッタイエカ)が 58 個体と多くを占めていた。最終寄港地は BOM(36 個体)、NUO(11 個体)、KUL(4 個体)、BKK(3 個体)、HKG、HAN、SGN、KHI(各 1 個体)であった。次いで日本脳炎の媒介種である *Cx. gelidus* が 5 機 27 個体で最終寄港地は全て BKK であった。続いて、日本脳炎の主要媒介種である *Cx. tritaeniorhynchus* (コガタアカイエカ)が 5 機 15 個体で、最終寄港地は BKK(12 個体)、HKG(2 個体)、MFM(1 個体)であった。また、数は少ないがウエストナイル熱を媒介するとされている *Aedes vexans vexans* (キンイロヤブカ)及び *Ochlerotatus nigromaculis* が米国 ANC 及び SFO で各 1 機(1 個体)捕集されている。

以上、捕獲した蚊族 110 個体中 76 個体についてデング熱及びウエストナイル熱の病原体保有検査を行ったが全て陰性であった。(表 2、3)。

3 レターコード

NOU：ヌメア、BOM：ボンベイ、MFM：マカオ、KUL：クアラルンプール、DOH：ドーハ、KHI：カラチ、ANC：アンカレッジ、BKK：バンコック、HKG：香港、SGN：ホーチミン、HAN：ハノイ、SFO：サンフランシスコ、ICN：インチョン

② 港湾区域等調査(蚊族成虫及び幼虫調査)

調査マニュアルに従い、各検疫港内に標準地域メッシュ・システム(昭 48.7.12 行政管理庁告示第 143 号「統計に用いる標準地域メッシュ及び標準地域メッシュコード」である 1 km 四方の区域を調査区域(以下、「調査区」という。))とし、その区域に蚊の捕集機器であるライトトラップを設置し、捕集調査を行った。蚊を誘引する目的でドライアイス誘引剤として加えた(以下、「成虫調査」という。)

成虫調査を実施した検疫港は 44 海港、18 空港、合計 62 検疫港(2009 年：32 海港、14 空港、合計 46 検疫港)、延べ調査区数で 2,124 調査区(2009 年：1,666 調査区)について調査を行った。その結果、海港

で 41 港、93.5% (2009 年：29 検疫港 91%)、空港で 17 空港 94.4% (2009 年：13 検疫空港 93%)、合計 58 検疫港 94% (2009 年：42 検疫港・空港 91%) と多くの検疫港及び検疫空港（以下、「検疫港」という。）で蚊の生息を確認した。捕集した蚊の内訳は 7 属 22 種群及び不明種、13,534 個体(2009 年：8 属 22 種群及び不明種、13,350 個体)であった。そのうち 6 属 15 種群、13,480 個体 99.6% (2009 年：6 属 15 種群、13,299 個体 99.6%) が検疫感染症に関わる媒介種であった (表 4)。

また、蚊の定着状況について調査する目的で調査区に水を張った人口容器 (オビトラップ) を設置すると共に蚊の幼虫が生息する水溜りについて、蚊の幼虫の生息を確認した (以下、「幼虫調査」という。)。幼虫調査を実施した検疫港は 36 海港、18 空港、合計 54 検疫港 (2009 年：22 海港、12 空港、合計 34 検疫港)、延べ調査区域数で 1,748 調査区 (2009 年：1,413 調査区) について調査を行った。その結果、海港で 34 検疫港 94.4% (2009 年：20 検疫港 91%)、空港で 17 検疫港 94.4% (2009 年：11 検疫港 92%)、合計で 51 検疫港 94.4% (2009 年：31 検疫港 91%) と多くの検疫港で蚊の生息を確認した。

捕集した蚊の種類は 7 属 20 種群及び不明種 (2009 年：6 属 15 種群及び不明種) で、そのうち 5 属 14 種群 (2009 年：4 属 10 種群) が蚊媒介性感染症の媒介種であった (表 5)。

成虫調査または幼虫調査で生息を確認した検疫港は 62 港中、60 港 97% (2009 年：46 港中、42 港 91%) となった。

生息状況の消長は、蚊の発生が盛んとなる期間で調査を開始する月の平均気温が概ね 10℃以上 (北海道：6-10 月、本州：3-12 月、南西諸島：1-12 月) となる期間に生息があり、亜熱帯に属する石垣港では概ね年間を通じて生息し、例年同様の傾向であった。(表 6-9)。

各感染症別に生息状況の結果を見ると、**デング熱**の主要媒介種であるヒトスジシマカが生息していた検疫港は北海道、青森港、青森空港、八戸港、秋田空港、横浜港、名古屋港、四日市港、岸和田港、東京国際空港を除く、39 検疫港 62.9% (2009 年：30 検疫港 65%) で生息が確認された。また、デングウイルスの媒介能力がある *Aedes stegomyia* に属する種 (ミスジシマカ、ヤマダシマカ) は石狩湾新港、小樽港で各 6、8 月に生息があり、デングウイルスの媒介種は 1 属 3 種、42 検疫港 67.7% (2009 年：1 種、30 検疫港 65%) と広く分布していた。デング熱の媒介種の成虫は 2,341 個体で捕集蚊の 17.3% (2009 年：1,675 個体 12.5%) を占めていた。

生息状況の消長は成虫の活動が盛んとなる平均気温の 10℃の月の前月あたりから生息が確認され、年間を通じて調査を行っている那覇港では最も気温が低い 1 月を除く月で生息していた。また、沖縄を除く多くの検疫港で気温が高くなる季節で媒介蚊の生息が確認された (表 4-6、地図 3)。

日本脳炎では主要媒介種であるコガタアカイエカが生息していた検疫港は青森港以南の 26 検疫港 41.9% (2009 年：19 検疫港 41%) で生息が確認された。また、病原体を媒介する可能性がある種の *Culex inatomii* (イナトミシオカ)、*Ochlerotatus japonicus japonicus* (ヤマトヤブカ) は北海道から九州北部までの 32 検疫港 51.6% で、日本脳炎の媒介種は合計、2 属 3 種 42 検疫港 67.7% の生息が確認され、成虫の捕集数は 664 個体、4.9% (2009 年：1,927 個体、14.4%) であった。分布状況はコガタアカイエカが青森港以南で確認され、イナトミシオカ、ヤマトヤブカを加えると北海道から南西諸島まで広い地域で生息が確認された。生息状況の消長は概ね気温が低い時期を除き平均気温の 10℃の月の前月あたりから生息が確認された。(表 4、5、7、地図 4)。

ウエストナイル熱では鳥類に嗜好性が高いイエカ属を中心に多くの種類が媒介種となっているが、苫小牧港、東京国際空港を除く 60 検疫港 96.8% (2009 年：42 検疫港、91%) で殆どの検疫港で生息が確認された。その種類は *Aedes* sp.、*Ochlerotatus* sp.、*Armigeres* sp.、*Culex* sp.、*Anopheles* sp.、*Mansonia* sp. の 6 属 14 種群で成虫の捕集数は 13,479 個体、99.6% (2009 年：6 属 14 種群、13,245 個体、99%) であった。その中でイエカ属に含まれる種は 10,792 個体、79.7% と高い比率で捕集された。分布状況も北海道から南西諸島まで日本全国の広い地域で生息が確認された。生息状況の消長は調査を開始する平均気温の 10℃の月に生息が確認され、冬季の気温が高い沖縄では昨年同様に 1 月から 12 月まで年間を通じて生息していた (表 4、5、8、地図 5)。

マラリアでは三日熱マラリアの媒介種である *Anopheles sinensis* (シナハマダラカ) が八戸港、宮古港、大船渡港、石巻港、仙台塩釜港、新潟港、旭川空港、仙台空港、秋田空港、福島空港、関西国際空港、広島空港で 12 検疫港 19.4% (2009 年：8 検疫港、17.4%)、の生息が確認された。捕集した媒介種の捕集数は 54 個体 0.4% (2009 年：73 個体 0.5%) と僅かであった。生息状況の消長は気温が高い 6 から 9 月であった (表 4、5、9、地図 6)。

以上、調査で捕集した日本脳炎、ウエストナイル熱 (フラビウイルス) の媒介種である 12,947 個体 (2009 年：13,191 個体) 及びマラリアの媒介種 48 個体 (2009 年：26 個体) について病原体遺伝子の保有検査を行ったが、全て陰性であった (表 4)。

2. ねずみ族調査 (港湾区域等調査)

ねずみ族及び寄生ノミにより媒介されるペストやねずみ族により媒介されるラッサ熱、ペスト、腎症候

性出血熱 (HFRS)、ハンタウイルス肺症候群(HPS) に対する浸淫度を追跡し、流行を推定する目的で政令区域についてねずみ族及び寄生ノミの侵入・生息状況を把握した。蚊族港湾区域等調査と同様に調査区を設定し、その区域内にねずみの捕獲器である籠及びシャーメントラップを設置し、ねずみの生息調査を行った。

調査検疫港は 43 海港、17 空港、合計 60 検疫港、(2009 年：30 海港、12 空港、合計 42 検疫港)、延べ調査区域数で 493 調査区 (2009 年：393 調査区) について調査が行われた。

その結果、海港で 40 港 93% (2009 年：24 港 80%)、空港で 13 空港、76.5% (2009 年：10 空港、83%)、合計で 53 検疫港 88.3% (2009 年：34 検疫港 81%) と多くの検疫港でねずみの生息を確認した。捕獲したねずみの種類は 4 属 6 種、447 個体 (2009 年：5 属 10 種、545 個体) で我が国に生息している種であった (表 10)。

寄生ノミについては *Nosopsyllus fasciatus* (ヨーロッパネズミノミ) 90 個体、*Monopsyllus anisus* (ヤマトネズミノミ) 12 個体及び不明種の合計 2 種 134 個体 (2009 年：*Nosopsyllus fasciatus* 及び不明種 40 個体) が確認された。1 調査区あたりの捕獲率は、調査回数は少ないものの、石狩湾新港が 14 頭と高く、青森港以北で高い傾向が見られた。

各感染症別に見ると、ペストでは全てのねずみが媒介種としているため 4 属 6 種、447 個体、全てが媒介種となった。生息分布は北の留萌、紋別から南は那覇まで広く捕獲された。また、ペストをヒトへ感染させる寄生ノミは小樽港、石狩湾新港、留萌港、網走港、苫小牧港、室蘭港、函館港、青森港、石巻港、仙台・塩釜港及び川崎港で捕獲したねずみから寄生が確認され、その種類は *Nosopsyllus fasciatus* (ヨーロッパネズミノミ) であった。捕獲した 447 頭のうち、420 頭についてペストの特異的抗体検査を行ったが全て陰性であった (表 10、11、地図 7)。

腎症候性出血熱では、捕獲されたねずみのうちドブネズミ、クマネズミが媒介種で *Apodemus*、*Clethrionomys* 属などのヤチネズミもウイルスの保有確認された例もあることから、これらを加えた場合、合計 366 頭 81.9% (2009 年：180 頭 33%) の媒介種等を捕獲している。生息分布もペストの媒介種と重複する種が多いため、全国に渡り広く分布していた。ペストと同様に HFRS の特異的抗体検査を行ったが全て陰性であった (表 10、12、地図 8)。

ハンタウイルス肺症候群、ラッサ熱、南米出血熱の媒介種は捕獲されなかった (表 10、13、14、15、地図 9-11)。

3. リスク評価とまとめ

① 蚊族媒介性感染症

海外から蚊の侵入状況について把握する目的で行われている航空機調査では 35 ケ国・地域、79 路線、合計 2,049 機 (2009 年：1,621 機) について調査が行われ 10 ケ国、13 路線 (2009 年：10 ケ国、13 路線) の合計で 33 機 1.61%、110 個体 (2009 年：15 機 0.93%、30 個体) から蚊の生息を確認した。昨年と比較し、調査対象機数、捕集機数及び個体数は増加した。また、捕集率も増加していた。捕集された航空機の多くは昨年同様に、近隣で交流が盛んなアジアから最終発航した航空機から 25 機 75.8% (2009 年：67%) で、そのうちインド、タイ、マレーシア、ベトナム等の検疫感染症等の流行地域が多く含まれている東南アジアが殆どを占めていた。その他、ニューカレドニアでは同空港の調査機数の半数以上の航空機から蚊の捕集があった。

捕集した蚊の種類はフィラリア症の主要媒介種で日本脳炎の媒介に関わるネッタイエカや日本脳炎の主要媒介種であるコガタアカイエカ、そして *Cx. geridus* (ゲリデュスイエカ) がこれらの地域から、捕集蚊全体の殆どを占めており、東南アジア便及びニューカレドニア便等からの航空機については特に注意する必要があると思われる。

政令区域の生息状況を把握する目的で行われている蚊族港湾区域等調査では、各検疫港の調査の頻度等に差はあるものの成虫調査では合計 62 検疫港、延べ調査区域数で 2,124 調査区について調査した。その結果、合計 58 検疫港 93.5% と多くの検疫港で蚊の生息を確認した。そのうち 6 属 15 種群、13,480 個体 99.6% が検疫感染症に関わる媒介種であった。また、幼虫調査では合計 54 検疫港、延べ調査区域数で 1,748 調査区について調査をし、その結果、合計で 51 検疫港 94.4% と多くの検疫港で蚊の生息を確認した。そのうち、5 属 14 種群が検疫感染症の媒介種であった。多くの検疫港で蚊の生息を確認したが、特に日本脳炎、デング熱、ウエストナイル熱の媒介種についてはこの調査において、2009 年同様にわが国の検疫港に広く分布していたことが判明した。また、例年同様であるが、一部の検疫港からマラリアの媒介種の生息も確認されている。しかしながら、いずれもわが国に生息する在来種で、病原体保有検査を行い全て陰性であった。

各感染症について評価すると、**デング熱**については主要媒介種であるヒトスジシマカは東北の宮古港以南で生息が見られ、昨年と同様の結果となった。しかしながら、国立感染症研究所の調査によると青

森県で生息が確認され、生息域は拡大傾向にある。ヨーロッパではヒトスジシマカが侵入・定着の後、デング熱やチクングニア熱の流行事例があり、また、我が国においても患者の輸入例は年々増加していることを考慮するとヒトスジシマカの動向に注意が必要と思われる。

以上の結果を蚊族媒介性感染症の発生の可能性を評価するため調査マニュアルの評価基準（A～D レベル）を当てはめると C レベルが 42 検疫港、67.8%（2009 年：67.4%）であったが、我が国に広く生息しているヒトスジシマカが要因となっている。

ウエストナイル熱の媒介種は我が国全体に生息している状況であるが、調査マニュアルの評価基準を当てはめると C レベルが 60 検疫港、96.8%（2009 年：91.3%）で 2009 年同様、わが国に最も多く広域に生息している *Culex* sp.、*Aedes* sp.等の種が媒介種となっているためである。しかしながら、患者の輸入例も低いレベルにあると思われ、発生するリスクは低い状況と推測する。

日本脳炎については主要媒介種であるコガタアカイエカが西日本以南を中心に捕集されている。合計で C レベルが 42 検疫港 67.8%、（2009 年：41%）となった。国内でのブタの日本脳炎 HI 抗体保有状況調査では北海道、青森県以南でウイルス感染を疑わせる HI 抗体が確認されている。そして、乳幼児及び成人以降の年齢相の抗体保有率の低下を考慮すると発生するリスクは低いとはいえない状況である。

マラリアについては C レベルが 12 検疫港 19.4%（2009 年：17.4%）となり、比較的低いリスクとなった。三日熱マラリアの媒介種であるシナハマダラカの生息が見られたが生息密度は少なく、患者の輸入例も増加傾向にはなく発生するリスクは低い状況と推測する。

以上のことから、各感染症の病原体を保有している蚊の捕集はなく、したがって D レベルの検疫港はなかったが、2009 年同様に気温が高い夏季に捕集件数及び捕集数が多いが、冬季間は生息があっても捕集数は極端に少ない状況にあったことから、気温が高い夏季については媒介種及び病原体の保有状況に注意し、継続的な監視が必要と思われる。

② ねずみ族媒介性感染症

政令区域のねずみの侵入・生息状況を把握する目的で行われているねずみ族港湾区域等調査では、各検疫港の調査の頻度等に差はあるものの、調査検疫港は 43 海港、17 空港、合計 60 検疫港、（2009 年：30 海港、12 空港、合計 42 検疫港）、延べ調査区域数で 493 調査区（2009 年：393 調査区）について調査が行われた。そのうち、53 検疫港 88.3%（2009 年：34 検疫港 81%）と多くの検疫港でねずみの生息を確認し、その多くが HFRS 及びペストを媒介する種であったが、いずれもわが国に生息する在来種であった。全体として捕獲数は少なく、1 調査区数の捕獲数 0.9 頭（2009 年：1.4 頭）と全体では 2009 年と比較し捕獲率が若干減少している。また、病原体保有検査を行ったが全て陰性であった。

ペストについては媒介種であるヨーロッパネズミノミが寄生していたねずみが北海道、東北及び関東の一部確認されたが、捕獲した 447 頭のうち、420 頭についてペストの特異的抗体検査を行ったが全て陰性であった。また、我が国と交流がある地域ではペストの流行がなかったこと、また患者の輸入例がないなど考慮すると発生するリスクは低い状況と推測する。以上、調査結果を検疫感染症の発生の可能性を評価するため調査マニュアルの評価基準を当てはめると B レベルが 53 検疫港、88.3%（2009 年：80.9%）となった。

腎症候性出血熱については重篤な症状を起こす Hantaan 型はセズジネズミが媒介種となっている。本調査で捕獲されたドブネズミ、クマネズミについては比較的軽微な Seoul 型及びヤチネズミが媒介する Dobrava 型であるが特異的抗体検査を行ったが全て陰性であった。また患者の輸入例がないなど考慮すると発生するリスクは低い状況と推測する。評価基準を当てはめると B レベルが 53 検疫港、88.3%（2009 年：80.9%）となった。

ハンタウイルス肺症候群、ラッサ熱については本調査の報告で媒介種の生息が確認されないため、ペスト及び腎症候性出血熱よりもリスクは低い状態であるが、評価基準を当てはめると B レベルが 53 検疫港、88.3%（2009 年：80.9%）となった。

また、調査マニュアルには対象感染症となっていないが新たに追加の検疫感染症となった南米出血熱もハンタウイルス肺症候群、ラッサ熱の同様の評価と言える（表 16）。

IV. 情報提供事業

全国から集約したサーベイランスの結果については定期的に速報値を各検疫所へ提供を行った。その方法は定期情報誌である「ベクターサーベイランス情報通信」を PDF ファイルで発行し、担当者へ電子メールで送付した。2010 年は調査が本格的に始まる春から、第 15～21 号を発行した。

V. 参考資料

1. 平成 17 年 8 月 3 日付、食安検発第 0803001 号「港湾区域等衛生管理業務の手引きについて」（本文抜粋）

- ① 「港湾衛生管理ガイドライン」
- ② 「I ねずみ族調査マニュアル」
- ③ 「III 蚊族調査マニュアル」

- 2. 平成 18 年 9 月 25 日付、食安検発第 0925001 号「「港湾区域等衛生管理業務の手引きについて」における調査結果の取扱いについて」（本文抜粋）（参考：調査結果の報告の流れ）

○検疫法（抜粋）

第一章 総則

（目的）

第一条 この法律は、国内に常在しない感染症の病原体が船舶又は航空機を介して国内に侵入することを防止するとともに、船舶又は航空機に関してその他の感染症の予防に必要な措置を講ずることを目的とする。（平一〇法一一五・一部改正）

（検疫感染症）

第二条 この法律において「検疫感染症」とは、次に掲げる感染症をいう。

- 一 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成十年法律第百十四号）に規定する一類感染症
- 二 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に規定する新型インフルエンザ等感染症
- 三 前二号に掲げるもののほか、国内に常在しない感染症のうちその病原体が国内に侵入することを防止するためその病原体の有無に関する検査が必要なものとして政令で定めるもの（昭三二法六六・昭四五法五九・平八法一〇七・平一〇法一一五・平一五法一四五・平一八法一〇六・平二〇法三〇・一部改正）

（検疫所長の行う調査及び衛生措置）

第二十七条 検疫所長は、検疫感染症及びこれに準ずる感染症で政令で定めるものの病原体を媒介する虫類の有無その他これらの感染症に関する当該港又は飛行場の衛生状態を明らかにするため、検疫港又は検疫飛行場ごとに政令で定める区域内に限り、当該区域内にある船舶若しくは航空機について、食品、飲料水、汚物、汚水、ねずみ族及び虫類の調査を行い、若しくは当該区域内に設けられている施設、建築物その他の場所について、海水、汚物、汚水、ねずみ族及び虫類の調査を行い、又は検疫官をしてこれを行わせることができる。

2 検疫所長は、前項に規定する感染症が流行し、又は流行するおそれがあると認めるときは、同項の規定に基づく政令で定める区域内に限り、当該区域内にある船舶若しくは航空機若しくは当該区域内に設けられている施設、建築物その他の場所について、ねずみ族若しくは虫類の駆除、清掃若しくは消毒を行い、若しくは当該区域

内で労働に従事する者について、健康診断若しくは虫類の駆除を行い、又は検疫官その他適当と認める者をしてこれを行わせることができる。

3 検疫所長は、前項の措置をとったときは、すみやかに、その旨を関係行政機関の長に通報しなければならない。（昭三二法六六・昭四五法五九・平一〇法一一五・一部改正）

○検疫法施行令（抜粋）（昭和二十六年十二月十四日）（政令第三百七十七号）

（政令で定める検疫感染症）

第一条 検疫法（以下「法」という。）第二条第三号の政令で定める感染症は、デング熱、鳥インフルエンザ（病原体がインフルエンザウイルス属インフルエンザウイルスであつてその血清型がエ五二であるものに限り、別表第二において「鳥インフルエンザ（エ五二）」という。）及びマラリアとする。（平一五政四五九・追加、平一八政二〇九・平一九政四四・平二〇政一七五・一部改正）

（検疫感染症に準ずる感染症）

第三条 法第二十七条第一項の政令で定める感染症は、ウエストナイル熱、腎症候性出血熱、日本脳炎及びハンタウイルス肺症候群とする。（平一五政四五九・全改）

（調査を行う区域）

第四条 法第二十七条第一項に規定する区域は、別表第三の通りとする。（昭三二政一八四・一部改正）

○港湾区域等衛生管理業務の手引きについて

「平成一七年八月三日食安検発第08030
01号 各検疫所長宛 検疫所業務管理室長通知」

検疫法第27条の規定に基づき、検疫所長の行う調査及び衛生措置については、「港湾区域及び空港区域の衛生対策について」（平成一一年九月三日付け生衛発第1415号生活衛生局長通知）に伴い、「港湾衛生管理ガイドライン」及び調査項目ごとに「調査マニュアル」（平成一一年九月三日付け衛検第240号検疫所業務管理室長通知）を策定し、同年一〇月一日より施行していること

ころであるが、今般、「港湾衛生管理ガイドライン」及び調査マニュアルのうち、「ねずみ族調査マニュアル」及び「蚊族調査マニュアル」を別添の通り改訂したので、港湾区域等衛生管理業務の実施に当たっては、これにより実施することとされたい。

なお、「港湾区域等衛生管理業務手引きについて」（平成一一年九月三日付け衛検第240号検疫所業務管理室長通知）は、廃止する。

記

- 別添一 港湾衛生管理ガイドライン
- 別添二 ねずみ族調査マニュアル
- 別添三 蚊族調査マニュアル
- 別添四

港湾衛生管理ガイドライン

1. 目的

近年、海外における新興・再興感染症の流行が現実的な問題となっており、さらに、交通手段の迅速化、大型化等により、数日でそれらの感染症が地球規模で流行拡大を起こすことが多く経験されている。このような感染症のグローバル化のなかで、我が国に常在しない感染症の侵入・定着が危惧されているところである。これらの状況から、船舶や航空機を介して国内に侵入・定着する可能性のある検疫感染症及び検疫感染症に準ずる感染症（以下「検疫感染症等」という。）並びに検疫感染症等を媒介するねずみ族や蚊族といった動物等（以下「媒介動物等」という。）の国内への侵入・まん延防止等について、従来から実施されてきた港湾衛生対策について、さらなる効果的な運用を図るための見直しが必要となってきた。このガイドラインは、検疫感染症等の侵入に大きく関与するそれら流行地域から来航する船舶や航空機並びにその中に生息する媒介動物等に対して合理的、かつ効果的に対策を講じるとともに、海外からの船舶及び航空機が出入りする港湾区域等における媒介動物等の生息状況、侵入実態等について調査、監視を行い、我が国への検疫感染症等の侵入を防止し、的確な港湾衛生対策を実施することを目指す。港湾衛生対策は、ねずみ族や蚊族

等の媒介動物対策及び海水調査、飲料水調査等の環境衛生対策に区分し、実施する。媒介動物対策は、これまでの海港、空港ごとの調査実績、検疫感染症等の侵入の危険性等を評価・解析することで、それぞれの海港、空港における調査の必要性を明確に規定し、全国的に統一された手法により、必要な場所に必要な頻度の調査を実施することとする。

2. 調査対象感染症

港湾衛生業務の対象となる感染症は、検疫感染症のうち、ねずみ族や虫類によって媒介されるラッサ熱、クリミア・コンゴ出血熱、ペスト、黄熱、デング熱、マラリアのほか、検疫感染症に準ずる感染症として日本脳炎、ウエストナイル熱、腎症候性出血熱及びハンタウイルス肺症候群である。また、海水調査等の環境衛生対策の対象感染症は、検疫感染症であるコレラである。これらの感染症の調査対象となる媒介動物等は、下記のとおりであり、調査対象ごとに調査マニュアルを作成した。

ア. ねずみ族

・ねずみ族：ラッサ熱、ペスト、腎症候性出血熱、ハンタウイルス肺症候群

・ノミ類・ペスト

イ. 蚊族

・黄熱、マラリア、デング熱、日本脳炎、ウエストナイル熱

ウ. 海水、飲料水、機内食、汚水、汚物

コレラ

3. 港湾衛生調査の実施について

媒介動物等によって媒介されるラッサ熱、ペスト及び黄熱をはじめとする感染症については、媒介動物の国内侵入、定着を許せば、国内での発生及び流行を招き、国民の健康被害に重大な影響を及ぼす恐れが危惧されることから、港湾衛生対策におけるベクターサーベイランスは極めて重要である。そのため、年間を通じ計画的に調査を実施することにより当該区域に生息する媒介動物の種類、分布状況、季節的変動の把握に努め、外国からの媒介動物の侵入をいち早く察知する必要がある。また、環境衛生対策として海水調査、飲料水調査、汚水・汚物調査及び機内食の調査を行うことにより、コレラの国内への侵入を監視し、まん延を防止することが重要であり、

海外における発生、流行状況に応じて実施する必要がある。

4. 調査結果の活用及び情報提供

港湾衛生調査結果の効果的な活用を図るためには、調査結果を集積・解析することが必要であり、さらにこの情報を全国検疫所の定点情報として集約することが重要である。

(1) 媒介動物対策の調査結果

ア. 各検疫所において、実施した媒介動物調査結果に基づき、その生息状況の把握及び調査結果の評価

マップの作成を行う。さらに調査結果は、調査終了毎ごとに成田空港検疫所媒介動物検査室に電子媒体にて送付する。

イ. 成田空港検疫所媒介動物検査室は、全国検疫所から集約（一元化）されたデータの解析を行い、各検疫所の危害度について検疫所業務管理室に報告するとともに、電子地図へのマッピング等データの加工を実施する。

ウ. 検疫所業務管理室は、危害度の高い検疫所を指定し、各検疫所へ調査頻度及び対策について周知を図るとともに、適切な方法で国民に対し媒介動物に係る情報提供を行う。

(2) 環境衛生対策における調査結果

これまで実施してきた調査結果を解析するとともに、入港する船舶等の発航地、寄港地を調査する。

5. 国内防疫機関との連携

港湾衛生業務は、重篤な感染症の国内への侵入、まん延を防止することを目的としている。そのため、対象感染症の病原体の検出、感染症を媒介する外国産媒介動物の侵入、生息の確認等の緊急時には、国内防疫機関との連携が不可欠であり、協力体制による監視強化、駆除等の防疫措置を講ずる。この連携を確保するためには、各検疫所は、各検疫所で実施した調査結果について得られた情報を各都道府県等に提供し、密に連携を強化することが重要である。

6. 港湾衛生業務における感染予防対策

(1) 港湾衛生調査時の予防対策

調査を行う際には、必ず専用の作業着、手袋、マスク、防護メガネ等を装着し、媒介動物その他の健康被害を及ぼすと考えられる要因から防御する。

(2) 当該感染症発見時の予防対策

当該感染症の病原体を保有する媒介動物を発見した場合には、必要に応じて抗生剤の予防内服、ワクチン接種のほか、健康診断を実施する。

7. 報告書の提出

「港湾区域及び空港区域の衛生対策について」（平成11年生衛発第1415号生活衛生局長通知）に基づく調査結果等の様式は、以下のとおりとする。

(1) 各港湾区域等の概況については、別紙様式第1によること。

(2) ねずみ族調査結果の報告については、別紙様式第2によること。なお、ねずみ族調査において、検疫感染症を媒介すると思われる外部寄生虫が確認された場合の分類結果については、別紙様式第3によること。

(3) 蚊族の調査結果の報告については、別紙様式第4によること。

(4) 蚊族の分類結果の報告については、別紙様式第5によること。

(5) 海水調査結果の報告については、別紙様式第6によること。

(6) 飲料水調査結果に報告については、別紙様式第7によること。

(7) 機内食著佐結果の報告については、別紙様式第8によること。

(8) 汚水汚物調査結果の報告については、別紙様式第9によること。

別添

1. ねずみ族調査マニュアル（抜粋）

はじめに
ねずみ族調査は、検疫感染症及び検疫感染症に準ずる感染症のうち、ねずみ族が媒介するラッサ熱、ペスト、腎症候性出血熱、ハンタウイルス肺症候群（以下、「ねずみ族媒介性感染症」という。）の国内侵入・まん延を防止

するため、検疫港及び検疫飛行場（以下、「検疫港」という。）ごとに政令で定める区域（以下、「港湾区域等」という。）のうち、ねずみ族媒介性感染症の侵入する危険度を有する港湾区域等についてねずみ族媒介性感染症の病原体を保有するねずみ族の侵入状況を調査する。また、ねずみ族媒介性感染症を媒介するねずみ族及びペストを媒介する寄生ノミについて、港湾区域等における定着・発生状況を調査し、我が国に生息しないねずみ族等の定着防止及び在来種の生息域拡大防止を目的とする。

2. ねずみ族調査

ねずみ族調査を定期的に実施することにより、港湾区域等に生息するねずみ族等の種の分布及び移動・拡散等について、経時的な変化を把握することが可能となり、ねずみ族媒介性感染症の流行防止対策を効果的に講じることが出来る。本調査はこの対策を実施するための基礎資料とする。調査対象は、港湾区域等内の外航船舶・航空機が到着する区域及び国際貨物を搬送する上屋・倉庫、コンテナ蔵置場所等のねずみ族が生息・定着する可能性の高い区域とする。ねずみ族調査は、アンケート調査及びねずみ族捕獲調査のほか、ねずみ族媒介性感染症が侵入した可能性が高い場合等に実施する重点調査とする。

(1) 調査対象検疫港

ねずみ族媒介性感染症の流行状況及び流行地域等からの船舶又は航空機の来航数並びに来航者数等を指標として、ねずみ族媒介性感染症が侵入するリスクを評価し、その結果、危険度が一定レベル以上にある検疫港について、調査対象検疫港として検疫所業務管理室より指定する。これらの調査対象港においては、本マニュアルに従い、必要な頻度の調査を確実に実施されたい。また、調査対象検疫港以外の検疫港にあっても、ベクターサーベイランスの重要性から本マニュアルに準拠し、出来る限り調査を実施することとする。

(2) アンケート調査

港湾区域等にある上屋・倉庫等のねずみ族の生息状況等については、事業所毎に専門業者等による調査・駆除が実施されている状況にあることから、関係者の協力を得て、対象区域内の上屋・倉庫等の事

業所宛に別添1の「アンケート調査」を実施し、情報を収集する。

(3) ねずみ族捕獲調査

ねずみ族媒介性感染症の侵入及びねずみ族、寄生ノミの生息・分布を把握するため、ねずみ族は生け捕りを原則とする。この調査を効率的に実施するため、調査区及び調査定点を設定し、一定の頻度・方法でねずみ族の捕獲をする。

ア. 調査頻度・調査定点等

調査対象の検疫港及び頻度は、別表1の「侵入確率分析に基づくねずみ族調査の区分と頻」に従う。また、別添2の「ねずみ族調査における調査区及び調査定点の設定」に従い、調査区及び定点を設定する。設定した定点は、様式第1の1の「ねずみ族調査定点記録表」に必要事項を記載して保存する。

イ. 調査方法

調査区毎に別添3の「ねずみ族の捕獲調査方法」に従い調査する。

ウ. 記録

調査の状況については、様式第1の2の「ねずみ族調査結果表」及び様式第1の3の「ねずみ族検査結果記録表」に必要事項を記載して保存する。

(4) 重点調査

ねずみ族捕獲調査により、捕獲ねずみ族から外来種を確認した場合及びねずみ族媒介性感染症の病原体（特異抗体を含む）を確認した場合、検疫所業務管理室と協議の上、必要に応じて港湾区域等内にある施設、船舶・航空機等に対しアンケート調査及びねずみ族捕獲調査を実施する。

また、海外での検疫感染症等の流行が報告された場合、検疫所業務管理室の指示により重点調査を実施する。調査の状況については、必要に応じて、様式第1の2の「ねずみ族調査結果表」、様式第1の3の「ねずみ族検査結果記録表」、様式第1の4の「船舶・航空機ねずみ族調査表」、及び様式第1の5の「船舶・航空機ねずみ族調査結果表」に必要事項を記載し保存する。検査材料を受理した検査機関では速や

かに検査を実施する。

3. 種の同定及びねずみ族媒介性感染症の病原体検査

ねずみ族捕獲調査で捕獲したねずみ族及びペストを媒介する寄生ノミの種の同定及び病原体検査は、別添4の「ねずみ族調査における種の同定・病原体検査及び検体の送付方法」を参考に実施する。検査は、検疫所業務管理室が指定した検査機関へ様式第1の6の「ねずみ族等検査依頼書」へ必要事項を記入し依頼する。また、種の同定が困難な場合、同様に検査を依頼する。

4. 報告

ねずみ族の捕獲状況及び評価の結果については、調査終了毎ごとに、データベースファイルに必要事項を入力後、電子メール等で成田空港検疫所媒介動物検査室へ送付する。

5. 評価及び対策

調査の結果については、調査の都度、別表2の「ねずみ族調査における評価と対策」に基づき評価し、対策を講じる。なお、ねずみ族媒介性感染症の流行の恐れがある場合には、検疫所業務管理室と協議の上、地域住民等に対する健康等に関する調査、駆除、環境整備等（様式第1の7「駆除及び環境整備実施記録表」参照）の対策を講ずることとする。駆除については、別添5の「ねずみ族の駆除法」を参考にする。

6. その他

(1) 評価マップの作成

「蚊・蚊調査マニュアル」、別図の「評価マップの作成例」を参考として調査区毎に、感染症別の評価結果を表した評価マップを作成する。なお、重点調査を行った調査結果は、速やかに各都道府県及び関係機関等へ報告する。

(2) 関係機関等における捕獲ねずみ族の扱い

港湾区域等に所在する関係機関等及び船舶等から、ねずみ族等（死を含む）の発見等の情報を得た場合には、現場の確認及びねずみ族の回収並びに種の同定、寄生ノミの検査を実施し、病原体の保有状況を検査すること。

ねずみ族調査における評価と対策

別表2

評価	ねずみ媒介性感染症が発生する可能性	調査結果の定義	対 策
A	非常に低い	ねずみ族の捕獲・証拠なし	通常の調査を継続する。
B	低い	ねずみ族の生息(在・外来種)を確認	上記に加え、ねずみ族等について病原体保有調査を実施する。生息状況及び調査結果等について、当該地区を管轄する自治体の衛生主管部局(保健所等)へ情報を提供する。外来種を発見した場合、隣接する調査区について捕獲調査等の重点調査を実施する。
C	中程度	ねずみ族から検疫感染症等の病原体の特異抗体を確認	上記に加え、政令区域内の全ての調査区についてアンケート調査、捕獲調査等の重点調査を実施する。調査結果を検疫所業務管理室へ報告する。また、ねずみ族の駆除対策について検討を行う。
D	高い	ねずみ族から検疫感染症等の病原体を確認	上記に加え、検疫所業務管理室に報告するとともに、重点調査の結果により、流行の恐れがある場合、検疫所業務管理室と協議の上、自治体の衛生主管部局(保健所等)と連携し、地域住民等に対する健康等に関する調査、駆除、環境整備等の国内侵入防止対策を講ずることとする。

別添2

目 蚊族調査マニュアル(抜粋)

1. はじめに
蚊族調査は、検疫感染症及び検疫感染症に準ずる感染症のうち、蚊族が媒介する黄熱、マラリア、デング熱、日本脳炎、ウエストナイル熱(以下、「蚊媒介性感染症」という。)の国内侵入・まん延を防止するため、検疫港及び検疫飛行場(以下、「検疫港」という。)ごとに政令で定める区域(以下、「港湾区域等」という。)のうち、蚊媒介性感染症の侵入する危険度を有する港湾区域等について、蚊媒介性感染症の病原体を保有する蚊族(以下、「感染蚊」という。)の侵入状況を調査する。また、蚊媒介性感染症を媒介する蚊族(以下、「媒介蚊」という。)につ

いて、港湾区域等における定着・発生状況を調査し、我が国に生息しない媒介蚊の定着防止及び在来種の生息域拡大防止を目的とする。

2. 蚊族調査

蚊族調査は、媒介蚊及び感染蚊の侵入状況を把握する目的で蚊族を輸送する可能性が高い航空機を対象とした航空機調査のほか、媒介蚊及び感染蚊の侵入・生息、発生状況を把握する目的で航空機が到着するエプロン等を含む区域及び航空機・船舶(以下、「航空機等」という。)により侵入し、生息・定着する可能性が高い区域を対象とした港湾区域等調査とする。

(1) 調査対象検疫港

蚊族媒介性感染症の流行状況及び流行地域等からの船舶又は航空機の来航数並びに来航者数等を指標として、蚊族媒介性感染症が侵入するリスクを評価し、その結果、危険度が一定レベル以上にある検疫港については、調査対象検疫港として検疫所業務管理室より指定する。これらの調査対象港においては、本マニュアルに従い、必要な頻度の調査を確実に実施されたい。また、調査対象検疫港以外の検疫港にあっても、ベクターサーベイランスの重要性から本マニュアルに準拠し、出来る限り調査を実施することとする。

(2) 航空機調査

ア. 調査対象及び頻度

調査対象の検疫港及び頻度は、別表1の「侵入確率分析に基づく蚊族調査の区分と頻度」に従い、蚊媒介性感染症が発生している地域又は国から来航する航空機を調査の対象とする。また、発航地の蚊媒介性感染症の発生状況及び気候等を考慮して、年間計画を立て調査する。

イ. 調査方法

① 聞き取り調査

航空機調査の対象航空機の乗務員に対して、航行中の蚊族の生息状況を聞き取りにより調査する。

② 採集調査

航空機到着後、機内に入り、別添2の「蚊族の採集方法」、1の捕虫網・吸虫管法に従

い成虫を採集する。

③ 記録

調査及び検査結果は、様式第3の1の「航空機蚊族調査表」に記載し、保存する。

(3) 港湾区域等調査

航空機が頻繁に到着する区域(空港エプロン、ターミナル等)は、媒介蚊及び感染蚊がその生息地あるいは蚊媒介性感染症流行地から航空機を介して直接、侵入する可能性が高いため、重点的な調査が必要となる。また、海港の港湾区域及び空港の前述以外の空港区域については、生息する媒介蚊の発生状況を明らかにすることにより、蚊媒介性感染症の侵入と媒介蚊の国内拡大防止対策に役立てることが出来る。この調査を効率的に実施するため、港湾区域等に調査区及び調査定点を設定し、一定の頻度・方法で蚊族の成虫及び幼虫を捕集する。

ア. 調査頻度及び調査定点

調査対象の検疫港及び頻度は、別表1の「侵入確率分析に基づく蚊族調査の区分と頻度」に従う。また、別添1の「蚊族調査における調査区及び調査定点の設定」に従い、調査区及び定点を設定し調査する。設定した定点は、様式第3の2の「蚊族調査定点記録表」に定点位置等を記載して保存する。

イ. 調査方法成虫調査

成虫調査の調査方法は、別添2の「蚊族の採集方法」、2の炭酸ガス・ライトトラップ法に従い実施する。

① 幼虫調査

幼虫調査の調査方法は、別添2の「蚊族の採集方法」、3のヒシヤク・ピペット法及び4のヤブカ・イエカ属オビトラップ法に従い実施する。

ウ. 記録

調査及び検査結果は、様式第3の3の「蚊族成虫調査結果表」及び様式第3の4の「蚊族幼虫調査結果表」に記載し保存する。

3. 種の同定及び蚊媒介性感染症の病原体検査
採集した蚊族の種の同定は、別添3の「蚊族調査にお

ける種の同定及び病原体検査並びに検体の送付方法」、3の種の同定を参考に実施する。同定の結果、参考資料の「検疫感染症及び検疫感染症に準ずる感染症の主な媒介蚊種」に該当する媒介蚊及び媒介する可能性がある種の成虫、雌について病原体保有検査を実施する。検査は検疫所業務管理室が指定した検査機関へ様式第3の5の「蚊族検査依頼書」へ必要事項を記入し、依頼する。また、種の同定が困難な場合、同様に検査を依頼する。

4. 評価及び対策

調査の結果については、月及び年別に別表2の「蚊族調査における評価と対策」に基づき評し、対策を講じる。

なお、蚊媒介性感染症の流行の恐れがある場合には、検疫所業務管理室と協議の上、地域住民等に対する健康等に関する調査、駆除、環境整備等の対策を講ずることとする。

別表2

蚊族調査における評価と対策

評価	蚊媒介性感染症が発生する可能性	調査結果の定義	対策	
			航空機調査	港湾区域等調査
				成虫・幼虫調査
A	非常に低い	蚊族の採集なし	通常の調査を継続する。	通常の調査を継続する。
B	低い	蚊族を採集（媒介蚊を除く）	上記に加え、当該航空会社へ情報提供し、注意喚起を行う。港湾管理者等及び政令区域内を管轄する自治体の衛生主管部局（保健所等）に対して情報提供を行う。	上記に加え、生息状況及び調査結果等について、港湾管理者等及び政令区域内を管轄する自治体の衛生主管部局（保健所等）に対して情報提供を行う。
C	中等度	媒介蚊を採集	上記に加え、媒介蚊（雌）について病原体保有調査を実施する。発見された路線について航空機調査を強化し、当該航空会社に対して蚊の侵入防止指導を行う。媒介蚊のうち国内に生息しない媒介種を採集した場合、検疫所業務管理室に報告するとともに、隣接する調査区の3次メッシュについて成虫・幼虫調査を実施する。蚊族の駆除対策について検討を行う。	上記に加え、媒介蚊（雌）について病原体保有調査を実施する。当該空港では航空機調査を強化する。媒介蚊のうち国内に生息しない媒介種を採集した場合、検疫所業務管理室に報告するとともに、隣接する調査区の3次メッシュについて成虫・幼虫調査を実施する。蚊族の駆除対策について検討を行う。
D	高い	感染蚊を採集	上記に加え、検疫所業務管理室に報告するとともに、当該航空会社に対して、蚊の侵入防止のための対策を実施するよう指導する。また、政令区域内の全ての3次メッシュについて成虫調査を実施し、調査の結果により、感染蚊が採集された場合、検疫所業務管理室と協議の上、国内侵入防止対策について協議する。	上記に加え、検疫所業務管理室に報告するとともに、政令区域内の全ての3次メッシュについて成虫・幼虫調査を実施する。調査の結果により、流行の恐れがある場合、検疫所業務管理室と協議の上、自治体の衛生主管部局（保健所等）と連携し、地域住民等に対する健康等に関する調査、駆除、環境整備等の国内侵入防止対策を講ずることとする。

5. 報告

蚊族の採集状況及び評価の結果については、調査終了毎ごとに、データベースファイルに必要事項を入力後、電子メール等で成田空港検疫所、媒介動物検査室へ送付する。

6. その他

（1）評価マップの作成

別図の「評価マップの作成例」を参考として調査区毎に、感染症別の評価結果を表した評価マップを作成する。

（2）関係機関等における捕集蚊の扱い

港湾区域等に所在する関係機関等及び航空機等から、蚊族の生息等の情報を得た場合には、現場の確認及び蚊族の回収並びに種の同定を実施し、媒介種及び媒介する可能性のある種を確認した場合、病原体の保有状況を検査すること。

○ 「港湾区域等衛生管理業務の手引きについて」における調査結果の取扱いについて（抜粋）

「食安検発第0925001号平成18年9月25日各検疫所長宛 検疫所業務管理室長通知」
平成17年8月3日付「食安検発第0803001号「港湾区域等衛生管理業務の手引きについて」により、ねずみ族及び蚊族調査マニュアルについて改訂を行い、港湾衛生調査を実施しているところでありますが、標記手引きの別添「「港湾衛生ガイドライン」の4.（2）媒介動物対策の調査結果については、別添のとおり取り扱うこととしたので、御了知の上、その取り扱いに留意いただくようお願いいたします。

記

別添「データの取り扱い及び送付方法等について」

資料1 調査結果報告様式

「蚊族機内調査」
「蚊族捕獲調査（成虫）」
「蚊族捕獲調査（幼虫）」
「ねずみ族捕獲調査」
「蚊族病原体保有検査」
「ねずみ族病原体保有検査」
「蚊族・ねずみ族評価」

資料2 調査結果報告様式への調査結果入力時の留意事項

資料3 感染症別人力対象蚊種（検疫感染症及び検疫感染症に準ずる感染症の主な媒介蚊種）

資料4 感染症別人力対象ねずみ族（検疫感染症及び検疫感染症に準ずる感染症を媒介する主なねずみ族）

資料5 調査結果報告様式記載方法（例示）

資料6 評価マップの作成例

（成田空港における感染症のリスク評価）

別添

データの取り扱い及び送付方法等について

「媒介動物の調査結果及び評価マップの取り扱いについて」
② 調査結果の作成について

ねずみ族及び蚊族調査マニュアルに基づき得られた調査結果のうち、捕獲状況、病原体保有検査の結果並びに評価等については、「蚊族機内調査」②「蚊族捕獲調査」(成虫)③「蚊族捕獲調査」(幼虫)④「ねずみ族捕獲調査」⑤「蚊族病原体保有検査」⑥「ねずみ族病原体保有検査」及び「蚊族」ねずみ族評価⑦の調査結果報告様式(資料①、Microsoft Excelファイル)へ、調査結果報告様式への入力時の留意事項(資料②)を参考にして入力すること。また、入力の対象となる媒介動物については「感染症別人力対象蚊種(検査感染症及び検査感染症に準ずる感染症の主な媒介蚊種)①(資料③)及び「感染症別人力対象ねずみ族(検査感染症及び検査感染症に準ずる感染症を媒介する主なねずみ族)②(資料④)に該当するものを記入すること。記入に際しては、調査結果報告様式記載方法(例示)(資料⑤)を参考にされたい。

② 評価マップの作成について

評価マップは、A4横様式とし、ねずみ族、蚊族各調査マニュアル中の別表②「ねずみ族調査における評価と対策」、「蚊族調査における評価と対策」の調査結果の定義に従い、実施月及び各感染症(蚊族は、黄熱、マラリア、デング熱、日本脳炎、ウエストナイル熱の各感染症について、ねずみ族は、ラッサ熱、ペスト、腎症候性出血熱、ハンタウイルス肺症候群の各感染症)について評価を行い、Microsoft PowerPoint又はWordに貼り付け作成すること。作成にあたっては、資料⑥「評価マップの作成例」(成田空港における感染症発生のリスク評価)を参考にされたい。

③ 送付方法及び送付時の注意事項について

① 調査結果については、「調査結果報告様式」に、調査開始月から順に各月の調査結果を追記入力し送付すること。報告様式(Excelファイル)を取りまとめたファイルには、最初に DATA と付記した後に、検査所名の英名略記号、西暦年の下 2 桁をそれぞれ半角に付記しファイル名として送付する。

② 評価マップについては、調査開始月から順に調査月毎の月別評価マップを「ページごと」に作成し、ファイルに追加してゆき、その年の実績を取りまとめた年間の評価

マップと併せて「ファイル単位とし、さらに各感染症について同様に作成したものを PDF ファイルに変換し、送付することとする。また、送付するファイル名は MAP と付記した後に、検査所名、感染症名の英名略記号、西暦年の下 2 桁をそれぞれ半角に付記しファイル名として送付する。

検査所名:

小樽-OT、千歳空港-CA、仙台-SD、仙台空港-SA、成田空港-MA、千葉-CB、東京-TK、羽田空港-HA、川崎-CS、横浜-YH、清水-SM、新潟-NI、名古屋-NG、中部国際空港-CIA、大阪-OS、関西空港-KA、神戸-KB、広島空港-HSA、広島-HS、門司-MJ、福岡-FO、福岡空港-FA、長崎-NS、鹿児島-KG、那覇-MI、那覇空港-NMA 等

感染症名:

黄熱-Y、マラリア-M、デング熱-D、日本脳炎-J、ウエストナイル熱-E、ラッサ熱-R、ペスト-P、腎症候性出血熱-H、ハンタウイルス肺症候群-W 等

西暦年:

2005 年-05、2006 年-06 等

例示:

① 2005 年における成田空港検疫所の蚊族(デング熱)の評価マップファイル:

MAP-MA-D-05.pdf

② 2005 年における成田空港検疫所のねずみ族(腎症候性出血熱)の評価マップファイル:MAP-MA-H-05.pdf

③ 2005 年における成田空港検疫所のデータベースファイル:DATA-MA-05.xls 等

④ 調査結果及び評価マップは本所において管内分をとります。また、成田空港検疫所媒介動物検査室「電子メールアドレス baika-dobutsu@keneki.go.jp」まで電子メールにファイルを添付し、調査実施の翌月に送付することとする。

Ⅷ 表・グラフ・地図

1 .	表1-①	ベクターサーベイランスの月別実施状況(海港:2010年)
2 .	表1-②	ベクターサーベイランスの月別実施状況(海港:2010年)
3 .	表1-③	ベクターサーベイランスの月別実施状況(空港:2010年)
4 .	表2	航空機調査の月別実績(2010年)
5 .	表3	発航空港別の航空機調査の結果(2010年)
6 .	表4	検疫港・空港別の蚊族政令区域等調査件数及び捕集蚊の実績(成虫調査:2010年)
7 .	表5	検疫港・空港別の蚊族政令区域等調査件数及び捕集蚊の実績(幼虫調査:2010年)
8 .	表6	デング熱媒介種の成虫・幼虫の生息状況(2010年)
9 .	表7	日本脳炎媒介種の成虫・幼虫の生息状況(2010年)
10 .	表8	ウエストナイル熱媒介種の成虫・幼虫の生息状況(2010年)
11 .	表9	マラリア媒介種の成虫・幼虫の生息状況(2010年)
12 .	表10	検疫港・空港別のねずみ族政令区域等調査件数及び捕獲の実績(2010年)
13 .	表11	ペスト媒介種のねずみ及びノミの生息状況(2010年)
14 .	表12	腎症候性出血熱媒介種のねずみの生息状況(2010年)
15 .	表13	ハンタウイルス肺症候群媒介種のねずみの生息状況(2010年)
16 .	表14	ラッサ熱媒介種のねずみの生息状況(2010年)
17 .	表15	南米出血熱媒介種のねずみの生息状況(2010年)
18 .	表16	サーベイランスの結果から見た感染症が発生する評価レベル(2010年)
19 .	表17	港湾衛生調査業務担当者(2010年)
20 .	グラフ1	航空機調査における国別の蚊族捕獲状況(2010年)
21 .	地図1	調査実施検疫港・空港(2010年)
22 .	地図2	航空機調査で捕集された蚊族の種類と発航空港(2010年)
23 .	地図3	デング熱媒介種の捕集及び病原体検査状況(2010年)
24 .	地図4	日本脳炎媒介種の捕集及び病原体検査状況(2010年)
25 .	地図5	ウエストナイル熱媒介種の捕集及び病原体検査の状況(2010年)
26 .	地図6	マラリア媒介種の捕集及び病原体検査状況(2010年)
27 .	地図7	ペスト媒介種のねずみ捕獲及び媒介ノミ並びに病原体検査状況(2010年)
28 .	地図8	腎症候性出血熱媒介種のねずみ捕獲及び病原体検査状況(2010年)
29 .	地図9	ハンタウイルス肺症候群媒介種のねずみ捕獲及び病原体検査状況(2010年)
30 .	地図10	ラッサ熱媒介種のねずみ捕獲及び病原体検査状況(2010年)
31 .	地図11	南米出血熱媒介種のねずみ捕獲及び病原体検査状況(2010年)
32 .	表18	感染症情報(2010年)

表1-① ベクターサーベイランスの月別実施状況(海港:2010年)

月/検査港	小樽検査所																											
	001 小樽港				002 石狩湾新港				003 稚内港				004 留萌港				005 紋別港				006 網走港				007 花咲港			
調査	航空機(機)	成虫(調査区)	幼虫(調査区)	ネズミ(調査区)	航空機(機)	成虫(調査区)	幼虫(調査区)	ネズミ(調査区)	航空機(機)	成虫(調査区)	幼虫(調査区)	ネズミ(調査区)	航空機(機)	成虫(調査区)	幼虫(調査区)	ネズミ(調査区)	航空機(機)	成虫(調査区)	幼虫(調査区)	ネズミ(調査区)	航空機(機)	成虫(調査区)	幼虫(調査区)	ネズミ(調査区)	航空機(機)	成虫(調査区)	幼虫(調査区)	ネズミ(調査区)
1	-				-				-				-				-				-				-			
2	-				-				-				-				-				-				-			
3	-				-				-				-				-				-				-			
4	-			2	-				-				-				-				-				-			
5	-				-				-	1	3		-				-				-				-			
6	-	6	6	2	-	2	1	1	-	2	6		-	1	1	1	-				-				-	2		
7	-	3	6	2	-				-	3	9		-				-	1	1	1	-				-	3		
8	-	9	9		-	2	1	1	-	3	9		-				-				-				-	3		
9	-	9	9	2	-				-	3	5	1	-				-				-	1	1	1	-	2		1
10	-	3	3	2	-				-	1	2		-				-				-				-	1		
11	-			2	-				-				-				-				-				-			
12	-				-				-				-				-				-				-			
年間	0	30	33	12	0	4	2	2	0	13	34	1	0	1	1	1	0	1	1	1	0	1	1	1	0	11	0	1
月/検査港	小樽検査所														仙台検査所													
	008 釧路港				009 苫小牧港				010 室蘭港				011 函館港				012 青森港				013 八戸港				014 宮古港			
調査	航空機(機)	成虫(調査区)	幼虫(調査区)	ネズミ(調査区)	航空機(機)	成虫(調査区)	幼虫(調査区)	ネズミ(調査区)	航空機(機)	成虫(調査区)	幼虫(調査区)	ネズミ(調査区)	航空機(機)	成虫(調査区)	幼虫(調査区)	ネズミ(調査区)	航空機(機)	成虫(調査区)	幼虫(調査区)	ネズミ(調査区)	航空機(機)	成虫(調査区)	幼虫(調査区)	ネズミ(調査区)	航空機(機)	成虫(調査区)	幼虫(調査区)	ネズミ(調査区)
1	-				-				-				-				-				-				-			
2	-				-				-				-				-				-				-			
3	-				-				-				-				-				-				-			
4	-				-				-				-				-				-				-			
5	-				-	2		1	-				-	1			-				-				-			
6	-		1		-				-				-	2		1	-				-				-			
7	-	3			-				-				-	3			-	1		1	-	2			-			
8	-	3			-				-				-	3			-	1			-	2		1	-	1	1	1
9	-	2		1	-				-				-	2			-	1		1	-	2			-	1	1	1
10	-				-			1	-			1	-			1	-	1			-	2		1	-			
11	-				-				-				-				-				-				-			
12	-				-				-				-				-				-				-			
年間	0	8	1	1	0	2	0	2	0	0	0	1	0	11	0	2	0	4	0	2	0	8	0	2	0	2	2	2
月/検査港	仙台検査所																											
	015 釜石港				016 大船渡港				017 気仙沼港				018 石巻港				019 仙台・塩釜港				020 秋田・船川港				021 酒田港			
調査	航空機(機)	成虫(調査区)	幼虫(調査区)	ネズミ(調査区)	航空機(機)	成虫(調査区)	幼虫(調査区)	ネズミ(調査区)	航空機(機)	成虫(調査区)	幼虫(調査区)	ネズミ(調査区)	航空機(機)	成虫(調査区)	幼虫(調査区)	ネズミ(調査区)	航空機(機)	成虫(調査区)	幼虫(調査区)	ネズミ(調査区)	航空機(機)	成虫(調査区)	幼虫(調査区)	ネズミ(調査区)	航空機(機)	成虫(調査区)	幼虫(調査区)	ネズミ(調査区)
1	-				-				-				-				-				-				-			
2	-				-				-				-				-				-				-			
3	-				-				-				-				-				-				-			
4	-				-				-				-				-				-				-			
5	-				-				-				-				-	4	8	3	-				-			
6	-				-				-				-	6	8	3	-	4	8		-	3	3		-		2	
7	-				-	1	1	1	-	1	1	1	-	3	5		-	4	8		-	3	4	2	-	2	2	1
8	-	1	1	1	-	1	1	1	-	1	1	1	-	3	5		-	4	8		-	3	5		-		2	
9	-	1	1	1	-				-				-	3	5		-	4	8	3	-	4	5	2	-	2	2	1
10	-				-				-				-	3	5	3	-	4	8	3	-	3	4	2	-			
11	-				-				-				-				-				-				-			
12	-				-				-				-				-				-				-			
年間	0	2	2	2	0	2	2	2	0	2	2	2	0	18	28	6	0	24	48	12	0	16	21	6	0	4	8	2
月/検査港	仙台検査所				東京検査所								横浜検査所				新潟検査所											
	022 小名浜港				026 千葉港				028 東京港				029 川崎港				030 横浜港				033 直江津港				034 新潟港			
調査	航空機(機)	成虫(調査区)	幼虫(調査区)	ネズミ(調査区)	航空機(機)	成虫(調査区)	幼虫(調査区)	ネズミ(調査区)	航空機(機)	成虫(調査区)	幼虫(調査区)	ネズミ(調査区)	航空機(機)	成虫(調査区)	幼虫(調査区)	ネズミ(調査区)	航空機(機)	成虫(調査区)	幼虫(調査区)	ネズミ(調査区)	航空機(機)	成虫(調査区)	幼虫(調査区)	ネズミ(調査区)	航空機(機)	成虫(調査区)	幼虫(調査区)	ネズミ(調査区)
1	-				-			1	-			2	-			2	-			1	-				-	4	4	4
2	-				-			1	-			3	-				-			1	-			3	-			
3	-				-				-			1	-				-			1	-	3	3		-	4	4	
4	-				-	3	3	1	-	6	6		-	6		3	-			1	-	6	6		-	8	8	5
5	-				-	6	6	1	-	6	6	2	-	6	5	2	-	4		1	-	6	6	3	-	8	8	
6	-	3			-	3	3	1	-	6	6	2	-	10	5	2	-	4		2	-	6	6		-	8	8	
7	-	3	3		-	6	6	1	-	6	6	3	-	7	5	2	-	4		1	-	6	6		-	8	8	5
8	-	3	3	2	-	6	6	1	-	6	6	2	-	7	6	2	-	3		1	-	6	6		-	8	8	
9	-	3	3		-	6	6	1	-	6	6	2	-	4	3		-	4		2	-	6	6	3	-	8	8	
10	-	3	3	2	-	6	6	1	-	6	6	2	-	12	7	4	-	4		1	-	6	6		-	8	8	5
11	-				-	6	6	1	-	6	6	1	-	6	5	3	-	4		1	-	6	6		-	8	8	
12	-				-			1	-				-			2	-				-			3	-	4	4	
年間	0	15	12	4	0	42	42	11	0	48	48	20	0	58	36	22	0	27	0	14	0	51	51	12	0	76	76	19

表1-② ベクターサーベイランスの月別実施状況(海港:2010年)

月/検査港	名古屋検査所												大阪検査所																
	035 伏木富山港				036 金沢・七尾港				040 清水港				045 名古屋港				046 四日市港				048 舞鶴港				051 大阪港				
調査	航空機 (機)	成虫 (調査区)	幼虫 (調査区)	ネズミ (調査区)	航空機 (機)	成虫 (調査区)	幼虫 (調査区)	ネズミ (調査区)	航空機 (機)	成虫 (調査区)	幼虫 (調査区)	ネズミ (調査区)	航空機 (機)	成虫 (調査区)	幼虫 (調査区)	ネズミ (調査区)	航空機 (機)	成虫 (調査区)	幼虫 (調査区)	ネズミ (調査区)	航空機 (機)	成虫 (調査区)	幼虫 (調査区)	ネズミ (調査区)	航空機 (機)	成虫 (調査区)	幼虫 (調査区)	ネズミ (調査区)	
1	-	3	3		-	2	2		-				-				-					-				-			2
2	-	3	3		-	2	2	2	-				-			4	-				-		-			-			2
3	-	3	3	2	-	2	2		-				-			3	-				-							5	2
4	-	6	6		-	4	4		-	1	1	2	-	2	2	3	-				-		-			-	10	10	2
5	-	6	6		-	4	4	2	-	1	1	2	-	2	2	4	-	2	2		-				-		10	10	
6	-	6	6	3	-	4	4		-	1	1	2	-	2	2	3	-	2	2		-	2	1	1	-	11	11	1	
7	-	6	6		-	4	4		-	1	1	2	-				-	2	2	5	-				-	11	10	2	
8	-	6	6		-	4	4	2	-	1	1	2	-		2		-	2	2		-				-	10	10	2	
9	-	6	6	3	-	4	4		-	1	1	2	-				-	2	2		-				-	10	10		
10	-	6	6		-	4	4		-		1		-				-	2	2	5	-				-	5	5		
11	-	6	6	3	-	4	4	2	-	1			-		2	3	-	2	2		-				-	10		2	
12	-				-				-			2	-			4	-				-				-				4
年間	0	57	57	11	0	38	38	8	0	7	7	14	0	6	10	24	0	14	14	10	0	2	1	1	0	82	71	20	

月/検査港	大阪検査所				神戸検査所				広島検査所								福岡検査所												
	052 岸和田港				053 神戸港				059 広島港				065 松山港				069 関門港				070 博多港				075 長崎港				
調査	航空機 (機)	成虫 (調査区)	幼虫 (調査区)	ネズミ (調査区)	航空機 (機)	成虫 (調査区)	幼虫 (調査区)	ネズミ (調査区)	航空機 (機)	成虫 (調査区)	幼虫 (調査区)	ネズミ (調査区)	航空機 (機)	成虫 (調査区)	幼虫 (調査区)	ネズミ (調査区)	航空機 (機)	成虫 (調査区)	幼虫 (調査区)	ネズミ (調査区)	航空機 (機)	成虫 (調査区)	幼虫 (調査区)	ネズミ (調査区)	航空機 (機)	成虫 (調査区)	幼虫 (調査区)	ネズミ (調査区)	
1	-				-			3	-				-				-					-			1	-			
2	-				-			3	-				-				-					-				-			
3	-				-			3	-				-				-					-				-			
4	-				-	24	24	3	-	8	8	1	-				-					-	2	2	1	-	1		
5	-	2	2	1	-	24	24	3	-	8	8	1	-				-					-	2	4	1	-	1		
6	-				-	24	24	3	-	8	8	1	-	2	2		-	2	2			-	2	2	1	-	1		
7	-				-	24	24	3	-	8	8	1	-	2	2		-	2	2			-	2	2	1	-	1		
8	-				-	24	24	3	-	8	8	1	-	2	2		-					-	2	2	1	-	1		
9	-				-	24	24	5	-	8	8	1	-	2	2		-	2	2	1	-	2	2	1	-	1		1	
10	-				-	24	24	2	-	8	8	1	-	2	2		-	2	2	1	-	2	2	1	-	1		1	
11	-				-	22	24	4	-	8	8	1	-	2	2		-	2	2	1	-	2	2	1	-	1			
12	-				-	22	24	3	-				-	2	2		-					-	2	2	1	-			
年間	0	2	2	1	0	212	216	38	0	64	64	8	0	14	14	0	0	10	10	3	0	18	20	10	0	8	0	2	

月/検査港	福岡検査所				那覇検査所							
	086 鹿児島港				90 那覇港				92 石垣港			
調査	航空機 (機)	成虫 (調査区)	幼虫 (調査区)	ネズミ (調査区)	航空機 (機)	成虫 (調査区)	幼虫 (調査区)	ネズミ (調査区)	航空機 (機)	成虫 (調査区)	幼虫 (調査区)	ネズミ (調査区)
1	-	2			-	3	3	1	-	2		
2	-	2			-	3	3	1	-	2		
3	-	2			-	3	3	1	-	2		
4	-	2	2	1	-	3	3	1	-	2		
5	-	2	2	1	-	3	3	1	-	2		
6	-	2	2	1	-	3	3	1	-	2		
7	-	2	2	1	-	3	3	1	-	2		
8	-	2	1		-	3	3	1	-	2		
9	-	2	2	1	-	3	3		-	2		
10	-	2	2	1	-	3	3	1	-	2		
11	-	2	2	1	-	3	3	1	-	2		
12	-	2	2	1	-	3	3		-	2		
年間	0	24	17	8	0	36	36	10	0	24	0	0

表-1 ③ ベクターサーベイランスの月別実施状況(空港:2010年)

月/検査港	小樽検査所																仙台検査所											
	193 新千歳空港				194 旭川空港				195 函館空港				220 釧路空港				221 帯広空港				196 青森空港				197 仙台空港			
調査	航空機 (機)	成虫 (調査区)	幼虫 (調査区)	ネズミ (調査区)	航空機 (機)	成虫 (調査区)	幼虫 (調査区)	ネズミ (調査区)	航空機 (機)	成虫 (調査区)	幼虫 (調査区)	ネズミ (調査区)	航空機 (機)	成虫 (調査区)	幼虫 (調査区)	ネズミ (調査区)	航空機 (機)	成虫 (調査区)	幼虫 (調査区)	ネズミ (調査区)	航空機 (機)	成虫 (調査区)	幼虫 (調査区)	ネズミ (調査区)				
1	4	2			6								2									2			1			
2	4	2			6								1				1					2			1			
3	4	2			1								4									2			1			
4	4	2		1	1								6									2			1			
5	4	4	2	1	3	2	2			1			4									4			1			
6	4	4	2	1	5	4	4	2		2	1	1	3									5	3	3	1			
7	4	6	3	1	12	6	2			3			3						1	1	1	1	6	3	11	1		
8	4	6	3	1	8	6	2			3			6				1		1	1	1	6	6	5	1			
9	4	4	2	1	8	4	2			2			5				2		1	1	1	1	6	6	6	1		
10	4	3		1				2				1	3						1	1	1		6	6	6	1		
11	4	2		1									3									5			1			
12	4	2											4									4			1			
年間	48	39	12	8	50	22	12	4	0	11	1	2	44	0	0	0	4	0	0	0	4	4	4	2	50	24	31	12

月/検査港	仙台検査所				成田空港検査所				東京検査所				新潟検査所															
	198 秋田空港				199 福島空港				200 成田国際空港				201 東京国際空港				202 新潟空港				203 富山空港				204 小松飛行場			
調査	航空機 (機)	成虫 (調査区)	幼虫 (調査区)	ネズミ (調査区)	航空機 (機)	成虫 (調査区)	幼虫 (調査区)	ネズミ (調査区)	航空機 (機)	成虫 (調査区)	幼虫 (調査区)	ネズミ (調査区)	航空機 (機)	成虫 (調査区)	幼虫 (調査区)	ネズミ (調査区)	航空機 (機)	成虫 (調査区)	幼虫 (調査区)	ネズミ (調査区)	航空機 (機)	成虫 (調査区)	幼虫 (調査区)	ネズミ (調査区)				
1									14	16		2		4			15	2	2	2	11	3	3		11	2	2	
2									21	16		2		4			20	2	2		9	3	3		9	2	2	1
3									34	16		2		4			19	2	4		11	3	3	1	11	2	2	
4									33	28	20	2		8	8	2	15	4	4	2	19	6	6		12	4	4	
5									37	28	20	2		8	8	2	16	4	4		26	6	6		14	4	4	1
6	2	2	2		2	3			41	16	14	4	5	8	8	1	16	4	4		15	6	6	1	18	4	4	
7	2	2	2	2	2	3	3	2	45	17	14	4		8	8		14	4	4	2	14	6	6		20	4	4	
8	2	2	3		2	3	3		42	16	14	4					17	4	4		21	6	6		21	4	4	1
9	2	2	2	2	2	3	3	2	41	24	14	5					14	4	4		15	6	6	1	20	4	4	
10	3	2	2		2	3	3		42	16	8	4					14	4	4	2	12	6	6		14	4	4	
11									44	16	14	4					12	4	4		14	6	6	1	14	4	4	1
12									39	16	4	4					13	2	2		11	3	3		10	2	2	
年間	11	10	11	4	10	15	12	4	433	225	122	39	5	44	32	5	185	40	42	8	178	60	60	4	174	40	40	4

月/検査港	名古屋検査所				関西空港検査所				広島検査所				福岡検査所				那覇検査所											
	205 中部国際空港				206 関西国際空港				209 広島空港				211 松山空港				212 福岡空港				219 那覇空港							
調査	航空機 (機)	成虫 (調査区)	幼虫 (調査区)	ネズミ (調査区)	航空機 (機)	成虫 (調査区)	幼虫 (調査区)	ネズミ (調査区)	航空機 (機)	成虫 (調査区)	幼虫 (調査区)	ネズミ (調査区)	航空機 (機)	成虫 (調査区)	幼虫 (調査区)	ネズミ (調査区)	航空機 (機)	成虫 (調査区)	幼虫 (調査区)	ネズミ (調査区)								
1				1	7	20	6							5	4		1	4	4	4	1							
2				1	10	20	6	4						5	4		1	4	4	4								
3				1	18	20	12	8	4					6	4		1	4	4	4								
4	4	8	8	1	33	26	12		5					11	2	9	1	4	4	4								
5	10	8	8	1	53	26	12		9					10	4	11	1	4	4	4	1							
6	8	8	8	1	60	29	12	8	7	1	2	1		8	4	8	1	4	4	4	1							
7	6	8	8	1	63	29	12		9	1	2	1		12	4	10	1	4	4	4	1							
8	13	8	8	1	63	29	12		7	2	2			7	4	9	1	4	4	4								
9	33	8	8	2	50	29	12	8	8	2	2			10	4	5	1	4	4	4								
10	21	8	8	1	58	29	12		8	2	2			8	2	7	1	4	4	4								
11	13	8	8	1	60	29	12	8	9	2	2	1		6	4	5	1	4	4	4	1							
12	7				40	26	12		9			1		2	2		6	4	10	1	6	4	4					
年間	115	64	64	12	515	312	132	32	79	10	12	4	0	14	14	0	94	44	74	12	50	48	48	5				

表2 航空機調査の月別実績(2010年)

検疫所	データ	月						
		1	2	3	4	5	6	7
193新千歳空港	捕集機数(個体数)							
	調査機数	4	4	4	4	4	4	4
194旭川空港	捕集機数(個体数)							
	調査機数	6	6	1	1	3	5	12
196青森空港	捕集機数(個体数)							
	調査機数							1
197仙台空港	捕集機数(個体数)							
	調査機数	2	2	2	2	4	5	6
198秋田空港	捕集機数(個体数)							
	調査機数						2	2
199福島空港	捕集機数(個体数)							
	調査機数						2	2
200成田国際空港	捕集機数(個体数)		2 (15)	5 (20)	1 (1)	1 (2)		1 (1)
	調査機数	14	21	34	33	37	41	45
201東京国際空港	捕集機数(個体数)							
	調査機数						5	
202新潟空港	捕集機数(個体数)							
	調査機数	15	20	19	15	16	16	14
203富山空港	捕集機数(個体数)							
	調査機数	11	9	11	19	26	15	14
204小松飛行場	捕集機数(個体数)							
	調査機数	11	9	11	12	14	18	20
205中部国際空港	捕集機数(個体数)							
	調査機数				4	10	8	6
206関西国際空港	捕集機数(個体数)				2 (5)		3 (4)	2 (24)
	調査機数	7	10	18	33	53	60	63
209広島空港	捕集機数(個体数)							
	調査機数		4	4	5	9	7	9
212福岡空港	捕集機数(個体数)						1 (1)	
	調査機数	5	5	6	11	10	8	12
219那覇空港	捕集機数(個体数)							
	調査機数	4	4	4	4	4	4	4
220釧路空港	捕集機数(個体数)							
	調査機数	2	1	4	6	4	3	3
221帯広空港	捕集機数(個体数)							
	調査機数		1					
合計	捕集機数(個体数)	0 (0)	2 (15)	5 (20)	3 (6)	1 (2)	4 (5)	3 (25)
	調査機数	81	96	118	149	194	203	217

ANC: アンカレッジ、BKK: バンコック、BOM: ボンベイ、DOH: ドーハ、HAN: ハノイ、HKG: 香港、ICN: ソウル、KHI: カラチ、KUL: クアラルンプール、MFM: マカオ、SGN: ホーチミン、SFO: サンフランシスコ

月					合計	捕集率 (%)	病原体保有検査 (Flavivirusまたは マラリア) 陽性/ 個体数	最終空港
8	9	10	11	12				
					0 (0)	0.00		
4	4	4	4	4	48			
					0 (0)	0.00		
8	8				50			
					0 (0)	0.00		
1	1	1			4			
					0 (0)	0.00		
6	6	6	5	4	50			
					0 (0)	0.00		
2	2	3			11			
					0 (0)	0.00		
2	2	2			10			
	1 (1)		1 (1)		12 (41)	2.77	0 40	BOM,KUL,SGN,KHI
42	41	42	44	39	433			
					0 (0)	0.00		
					5			
					0 (0)	0.00		
17	14	14	12	13	185			
					0 (0)	0.00		
21	15	12	14	11	178			
					0 (0)	0.00		
21	20	14	14	10	174			
					0 (0)	0.00		
13	33	21	13	7	115			
4 (14)	3 (12)	4 (5)	1 (3)	1 (1)	20 (68)	3.88	0 35	BKK,KUL,NOU,DOH, HKG,MFM,ANC,SFO, O,ICN
63	50	58	60	40	515			
					0 (0)	0.00		
7	8	8	9	9	79			
					1 (1)	1.06	0 1	HAN
7	10	8	6	6	94			
					0 (0)	0.00		
4	4	4	4	6	50			
					0 (0)	0.00		
6	5	3	3	4	44			
					0 (0)	0.00		
1	2				4			
4 (14)	4 (13)	4 (5)	2 (4)	1 (1)	33 (110)	1.61	0 76	BOM,KUL,SGN,KHI, BKK,,NOU,DOH,HK G,MFM,ANC,SFO,I CN ,HAN
225	225	200	188	153	2,049			

表3 発航空港別の航空機調査の結果(2010年)

[illegible]

AKL: オークランド, ALA: アルタル, AMS: アムステルダム, ANC: アンカレッジ, AUH: アブダビ, BKK: バンコック, BOM: ボンベイ, CAI: カイロ, CAN: 広州, CDG: パリ, CGK: ジャカルタ, CGO: 長春, CJJ: 清州, CJU: 済州, CMB: コロンボ, CNS: ケアンズ, CTU: 成都, DAD: ダナン, DEL: デリー, DFW: ダラス, DLR: 大連, DOH: ドーハ, DPS: デンパサール, DTW: デトロイト, DXB: ドバイ, FCO: ローマ, FOK: 福岡, FRA: フランクフルト, GMP: 金浦, GUN: ゴアム, HAN: ハワイ, HEL: ヘルシンキ, HGH: 杭州, HKG: 香港, HNL: ホノルル, HRC: ハルビン, IAH: ヒューストン, ICN: ソウル, IST: イスタンブール, JKB: ニューヨーク, KHH: 高雄, KHI: カラチ, KHV: ハノイ, KUL: クアラルンプール, LAX: ロサンゼルス, LUX: ルクセムブルク, MEN: メンフィス, MEX: メキシコシティ, MFM: マカオ, MNL: マニラ, NKG: 南京, NOU: ノムア, OOL: ゴールドコースト, ORD: シカゴ, PEK: 北京, POM: ポートモレスビー, PPT: パペーテ, PUS: プサン, PVG: 上海虹桥, RMQ: 台中, SEA: シアトル, SFO: サンフランシスコ, SGN: ホーチミン, SHA: 上海, SHE: 瀋陽, SIN: シンガポール, SPN: サイパン, SZX: 深圳, TAO: 青島, TNA: 済南, TPE: 台北, ULN: ウラハートル, VVO: ウラジオストク, WUX: 無錫, XMM: 厦門, YNT: 煙台, YVR: バンクーバー, YYZ: トロント

D:デング熱、W:ウエストナイル熱、J:日本脳炎、M:マラリア

表4 検疫港・空港別の蚊族政令区域等調査件数及び捕集蚊の実績(成虫調査:2010年)

検疫港・空港	年間延べ調査区数	属、亜属及び種													
		Aedes			Ochlerotatus			Armigeres	Culex						
		Ae. albopictus (ヒトスジシマカ)	Ae. vexans nipponii (キンイロヤブカ)	Ae. imprimens (コガタキンイロヤブカ)	Och. japonicus japonicus (ヤマトヤブカ)	Och. togoi (トウゴウヤブカ)	Och. dorsalis (セムシヤブカ)	Ar. subbalbus (オオクロヤブカ)	Cx. pipiens Complex				Cx. tritaeniorhynchus (コガタフカイエ)	Cx. inatomi (イナトミノオカ)	Cx. bitaeniorhynchus (カラツイエカ)
									Cx. pipiens quinquefasciatus (ネンタイエカ)	Cx. pipiens molestus (チカイエカ)	Cx. pipiens pallens (アカイエカ)	その他の Culex pipiens Complex			
D.W	W	-	J.W	W	W	W	W	W	W	W	W	J.W	J.W	-	
001小樽港	30	-	-	-	8	8	-	-	-	-	67	-	-	-	-
002石狩湾港	4	-	-	-	-	1	51	-	-	-	234	-	-	-	-
003稚内港	13	-	73	-	-	-	1	-	-	-	10	-	-	-	-
004留萌港	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
005紋別港	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
006網走港	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	14	-	-	-	-
007花咲港	11	-	8	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-
008釧路港	8	-	36	1	-	-	18	-	-	-	6	-	-	-	-
009苫小牧港	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
011函館港	11	-	-	-	5	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
012青森港	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	-	1	-	-
013八戸港	8	-	-	-	-	1	1	-	-	-	52	-	-	-	-
014宮古港	2	1	-	-	1	-	-	-	-	-	16	-	-	-	-
015釜石港	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-
016大船渡港	2	7	-	-	-	-	-	1	-	-	17	-	-	-	-
017気仙沼港	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-
018石巻港	18	15	-	-	-	-	-	-	-	-	2,114	-	-	-	-
019仙台塩釜港	24	245	-	-	2	-	-	2	-	-	265	-	-	-	-
020秋田船川港	16	51	-	-	-	-	-	-	-	-	25	-	-	-	1
021酒田港	4	9	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
022小名浜港	15	3	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	1	-	-
026千葉港	42	19	-	-	-	-	-	-	-	-	57	-	-	-	-
028東京港	48	83	-	-	-	-	-	-	-	-	54	-	4	-	-
029川崎港	58	339	-	-	-	-	-	-	-	-	1,330	-	-	-	-
030横浜港	27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	270	-	-	-
033直江津港	51	70	-	-	-	-	-	-	-	-	-	55	-	-	-
034新潟港	76	35	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22	-	-	-
035伏木富山港	57	153	-	-	20	-	-	-	-	-	-	276	15	-	-
036金沢・七尾港	38	63	-	-	-	-	-	-	-	-	66	-	1	-	-
040清水港	7	54	-	-	-	-	-	-	-	-	40	-	-	-	-
045名古屋港	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29	-	-	-	-
046四日市港	14	-	-	-	-	2	-	-	-	-	44	-	-	-	-
048舞鶴港	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	200	-	4	-	-
051大阪港	82	519	-	-	-	-	-	2	-	-	1,759	-	112	27	8
052岸和田港	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-
053神戸港	212	183	-	-	-	-	-	1	-	1,112	346	402	41	-	3
059広島港	64	108	-	-	-	-	-	1	-	16	20	177	4	-	-
065松山港	14	1	-	-	-	-	-	-	-	-	60	-	-	-	-
069関門港	10	11	-	-	1	-	-	-	-	-	21	-	2	-	-
070博多港	18	2	-	-	-	-	-	-	-	-	33	-	1	-	-
075長崎港	8	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
086鹿児島港	24	53	-	-	-	-	-	-	-	-	42	-	-	-	-
090那覇港	36	106	-	-	-	-	-	-	286	-	-	-	-	-	-
092石垣港	24	73	-	-	-	-	-	-	139	-	-	-	-	-	-
193新千歳空港	39	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	-	-	-	-
194旭川空港	22	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
195函館空港	11	-	-	-	3	2	-	-	-	-	6	-	-	-	-
196青森空港	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	-	-	-	-
197仙台空港	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	24	-	-
198秋田空港	10	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
199福島空港	15	-	4	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-
200成田国際空港	225	32	24	-	1	-	-	-	-	-	-	53	229	-	-
201東京国際空港	44	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
202新潟空港	40	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-
203富山空港	59	57	-	-	-	-	-	-	-	-	-	28	49	-	-
204小松飛行場	40	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25	12	-	-
205中部国際空港	64	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	-	12	-	-
206関西国際空港	312	9	-	-	-	-	-	-	-	1	1	196	26	-	2
209広島空港	10	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	39	-	-
211松山空港	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	3	-	-
212福岡空港	44	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
219那覇空港	48	13	4	-	-	-	-	-	59	-	-	-	9	-	3
合計	2,124	2,341	150	1	47	14	72	7	484	1,129	6,985	1,577	590	27	17

D:デング熱、W:ウエストナイル熱、J:日本脳炎、M:マラリア
 病原体の検査:RT-PCR法

属、亜属及び種											合計	フラビウイルス病原体の検査（陽性／検査数）		マラリア原虫病原体の検査（陽性／検査数）	
Culex						Anopheles		Mansonia	Culiseta	Species UK					
Cx. sitensis (ヨシホシイカ)	Cx. orientalis (ハマダライエカ)	Cx. halifaxi (トラフカケイカ)	Cx. Lophoceraomyia rubithoracis(アカンノフサカ)	Cx. infantulus(フトシマンソフサカ)	Cx. ryukyuensis(リュウキュウケンシナダガ)	An. sinensis (シナハマダガ)	その他 Anopheles sp	Ma. uniformis (アシマダガ)	Culiseta nipponica (ヤマトノボシカ)						
-	-	-	-	-	-	M.W	M	W	-	-		陽性	検体数	陽性	検体数
	1										84		84		
	5										291		113		
											84		61		
											0		0		
											0		0		
											16		16		
											19		19		
											64		64		
											0		0		
											6		6		
											18		18		
							7				60		53		7
	1						2				21		18		2
											10		10		
							1				26		25		1
											6		6		
											2,132		2,128		
	2						1				520		508		3
	3						3				77		71		
											11		9		
											9		8		
											76		76		
											141		127		
											1,669		1,669		
											270		270		
											125		125		
							10				67		65		7
											464		439		
											130		128		
											94		71		
											29		29		
											46		46		
											205		205		
											2,429		2,425		
											6		6		
											2,088		2,086		
											326		320		
											63		49		
											33		27		
											36		36		
											2		2		
											95		14		
											392		392		
											212		212		
											18		18		1
							10				19		15		10
											5		5		
											7		6		
							15				55		39		14
	1						1				10		3		1
	4						2				9		6		2
											339		338		
											0		0		
											8		8		
											134		128		
											59		59		
											26		26		
											238		98		
							2				43		43		
											14		28		
											3		2		
	2										95		89		
2	17	3	3	1	1	54	1	2	3	6	13,534	0	12,947	0	48

表5 検疫港・空港別の蚊族政令区域等調査件数及び幼虫が生息していた調査区の実績(幼虫調査:2010年)

検疫港・空港	年間延べ調査区数 (A)	属、亜属及び種										
		Aedes				Armigeres	Ochlerotatus		Culex			
		Ae. albopictus (ヒトスジシマカ)	Ae. Galoisii (ミスジシマカ)	Ae. Flavopictus (ヤマダシマカ)	Ae. vexans nipponi (キンイロヤブカ)	Armigeres subulatus (オオウロヤブカ)	Och. japonicus japonicus (ヤマトヤブカ)	Och. togoi (トウゴウヤブカ)	Cx. pipiens Complex			
									Cx. pipiens quinquefasciatus (ネツタイエカ)	Cx. pipiens molestus (チカイエカ)	Cx. pipiens pallens (アカイエカ)	Cx. pipiens Complex
D.W	D	D	W	W	J.W	W	W	W	W	W	W	
001小樽港	33		1				15	1			21	
002石狩湾港	2			1			1				1	
003稚内港	34						1	2				
004留萌港	1						1					
005紋別港	1						1					
006網走港	1						1					
008釧路港	1						1					
014宮古港	2	1					2				2	
015釜石港	2	2					2				1	
016大船渡港	2	2					2	1			1	
017気仙沼港	2	2					2					
018石巻港	28	11					1				10	
019仙台塩釜港	48	38					24	9			26	
020秋田船川港	21										4	
021酒田港	8	2						1			3	
022小名浜港	12	7						1			1	
026千葉港	42											
028東京港	48	20								1	12	11
029川崎港	36	12										
033直江津港	51	20										4
034新潟港	76	34										4
035伏木富山港	57	11			1		1					12
036金沢・七尾港	38	16		1			7					8
040清水港	7	4										
045名古屋港	10										2	
046四日市港	14										1	
048舞鶴港	1	1										
051大阪港	71	38						6			12	
052岸和田港	2											
053神戸港	216	93					1	2		6	5	45
059広島港	64	43					2			9	8	22
065松山港	14	6									9	
069関門港	10	5				1	1	1			2	
070博多港	18	4									4	
086鹿児島港	17	2										
090那覇港	36	19							7			
193新千歳空港	12						6				2	
194旭川空港	12						5					
195函館空港	1						1					
196青森空港	4						3					
197仙台空港	31	9					1					
198秋田空港	11						8					2
199福島空港	12	5					7				1	
200成田国際空港	122	40					23					10
201東京国際空港	32											
202新潟空港	41	19										3
203富山空港	60	27										6
204小松飛行場	40	15		1			4					13
205中部国際空港	64	12									2	
206関西国際空港	132	55					2					13
209広島空港	12	1					1					
211松山空港	14	1									2	
212福岡空港	74	8									26	
219那覇空港	48	3							4			
合計	1,748	588	1	3	1	1	127	24	11	16	158	153

D:デング熱、W:ウエストナイル熱、J:日本脳炎、M:マラリア

属、亜属及び種												合計
Culex							Anopheles		Tripteroides	Uranotaenia	Species UK	
Cx. Tritaeniorhynchus (コガタアカイエカ)	Cx. sasai(ヤマトクンビゲカ)	Cx. Hufflei(トコフカウイカ)	Cx. Inatonii (イナトミシオカ)	Cx. orientalis (ハマダライエカ)	Culex vagans(スジアシエカ)	Cx. culicomya sp.(クンビゲカ亜属)	An. sinensis (シナハマダラカ)	An. Indesai/Japonicus(ヤマトハマダラカ)	Tr. lambesa (キンハラナガハシカ)	Uranotaenia bimaculata(フタクロホシカ)		
J.W	-	-	J.W	-	-	-	M.W	-	-	-	-	
				1					3			42
												3
												3
												1
												1
												1
												1
									1			6
1												6
									1			7
												4
	1		1				1					29
1			1							1		100
			1									6
												6
												9
												0
			4									48
								1				13
												24
												38
1												26
												32
												4
												2
												1
												1
		2										62
												0
6			3		1	1					4	167
	2		7			1			3			97
												15
											1	11
												8
												2
												26
												8
												5
												1
												3
												10
1					2							13
										4		17
4												77
												0
												22
	2											35
1												34
												16
2							2					83
10												3
1												3
												36
2												8
31	6	22	4	6	1	1	3	1	12	1	5	1,176

表6 デング熱媒介種*)の成虫・幼虫の生息状況(2010年)

検疫港・空港	月												年間評価
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
001小樽港						■		○					C
002石狩湾新港						○							C
003稚内港								■					B
004留萌港													B
005紋別港													B
006網走港													B
007花咲港													B
008釧路港													B
009苫小牧港													A
011函館港													B
012青森港													B
013八戸港													B
014宮古港								○					C
015釜石港								○					C
016大船渡港							○	○					C
017気仙沼港							○	○					C
018石巻港						○	○	○	○	○			C
019仙台塩釜港					○	○	○	○	○	○			C
020秋田船川港						○	○	○	○	○			C
021酒田港							○	○	○	○			C
022小名浜港							○	○	○	○			C
026千葉港							○	○	○	○			C
028東京港				○		○	○	○	○	○	○		C
029川崎港				○		○	○	○	○	○	○		C
030横浜港													B
033直江津港					○	○	○	○	○	○	○		C
034新潟港					○	○	○	○	○	○	○		C
035伏木富山港					○	○	○	○	○	○	○		C
036金沢・七尾港				○	○	○	○	○	○	○	○		C
040清水港					○	○	○	○	○	○			C
045名古屋港													B
046四日市港													B
048舞鶴港						○	○	○	○	○	○		C
051大阪港					○	○	○	○	○	○	○		C
052岸和田港													B
053神戸港				○	○	○	○	○	○	○	○	○	C
059広島港				○	○	○	○	○	○	○	○	○	C
065松山港					○	○	○	○	○	○	○	○	C
069関門港						○	○	○	○	○	○	○	C
070博多港							○	○	○	○	○	○	C
075長崎港								○					C
086鹿児島港							○	○	○	○	○	○	C
090那覇港		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	C
092石垣港			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	C
193新千歳空港													B
194旭川空港													B
195函館空港													B
196青森空港													B
197仙台空港							○	○	○	○			C
198秋田空港													B
199福島空港							○	○	○	○			C
200成田国際空港				○	○	○	○	○	○	○			C
201東京国際空港													A
202新潟空港					○	○	○	○	○	○	○	○	C
203富山空港				○	○	○	○	○	○	○	○	○	C
204小松飛行場					○	○	○	○	○	○	○	○	C
205中部国際空港						○	○	○	○	○	○	○	C
206関西国際空港				○	○	○	○	○	○	○	○	○	C
209広島空港							○	○	○	○	○	○	C
211松山空港													C
212福岡空港				○	○	○	○	○	○	○	○	○	C
219那覇空港								○	○	○	○	○	C

成虫調査のみ実施月
 幼虫調査のみ実施月
 成虫・幼虫調査実施月
 媒介種(成虫)捕集
 媒介種(幼虫)捕集
 蚊を捕集

*) *Aedes albopictus*, *Ae. galloisi*, *Ae. flavopictus*

表7 日本脳炎媒介種^{*)}の成虫・幼虫の生息状況(2010年)

検疫港・空港	月												年間評価
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
001小樽港						○	○	●	○	○			C
002石狩湾新港						○		○	○	○			C
003稚内港								○					C
004留萌港						○							C
005紋別港							○						C
006網走港									○				C
007花咲港													B
008釧路港						○							C
009苫小牧港													A
011函館港								○	○				C
012青森港							○						C
013八戸港													B
014宮古港								○	○				C
015釜石港								○	○				C
016大船渡港							○	○					C
017気仙沼港							○	○					C
018石巻港							○	○	○				C
019仙台塩釜港					○	○	○	○	○	○			C
020秋田船川港													B
021酒田港													B
022小名浜港									○				C
026千葉港													B
028東京港													C
029川崎港													B
030横浜港													B
033直江津港													B
034新潟港													B
035伏木富山港						○	○	○	○				C
036金沢・七尾港			○	○	○	○	○			○			C
040清水港													B
045名古屋港													B
046四日市港													B
048舞鶴港						○							C
051大阪港				○			○	○	○				C
052岸和田港													B
053神戸港				○	○	○	○	○	○	○	○		C
059広島港				○	○		○	○	○				C
065松山港							○						C
069関門港						○					○		C
070博多港							○						C
075長崎港													B
086鹿児島港													B
090那覇港													B
092石垣港													B
193新千歳空港						○	○	○	○				C
194旭川空港						○	○	○	○				C
195函館空港						○	○	○	○				C
196青森空港							○	○	○				C
197仙台空港							○	○	○				C
198秋田空港						○	○	○	○				C
199福島空港							○	○	○				C
200成田国際空港				○	○	○	○	○	○				C
201東京国際空港													A
202新潟空港													B
203富山空港								○	○	○			C
204小松飛行場			○	○	○		○	○	○	○			C
205中部国際空港							○	○	○	○			C
206関西国際空港				○	○	○	○	○	○	○	○	○	C
209広島空港						○	○	○	○	○			C
211松山空港							○	○	○	○			C
212福岡空港									○	○			C
219那覇空港			○			○			○				C

成虫調査のみ実施月
 幼虫調査のみ実施月
 ○ 媒介種(成虫)捕集
 ● 蚊族を捕集

*) *Culex tritaeniorhynchus*, *Cx.inatomii*, *Ochlerotatus japonicus japonicus*

表8 ウエストナイル熱媒介種^{*}の成虫・幼虫の生息状況(2010年)

検疫港・空港	月												年間評価
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
001小樽港						○	○	○	○	○			C
002石狩湾新港						○	○	○	○				C
003稚内港							○	○	○				C
004留萌港						○							C
005紋別港							○						C
006網走港									○				C
007花咲港								○	○				C
008釧路港						○	○	○	○				C
009苫小牧港							○	○	○				A
010函館港							○	○	○				C
012青森港							○	○	○				C
013八戸港							○	○	○				C
014宮古港								○	○				C
015金石港								○	○				C
016大船渡港							○	○	○				C
017気仙沼港							○	○	○				C
018石巻港						○	○	○	○	○			C
019仙台釜港					○	○	○	○	○	○			C
020秋田船川港						○	○	○	○	○			C
021酒田港							○	○	○	○			C
022小名浜港							○	○	○	○			C
026千葉港					○	○	○	○	○	○	○		C
028東京港				○	○	○	○	○	○	○	○		C
029川崎港				○	○	○	○	○	○	○	○		C
030横浜港				○	○	○	○	○	○	○	○		C
033直江津港				○	○	○	○	○	○	○	○		C
034新潟港				○	○	○	○	○	○	○	○		C
035伏木富山港				○	○	○	○	○	○	○	○		C
036金沢・七尾港				○	○	○	○	○	○	○	○		C
040清水港				○	○	○	○	○	○	○	○		C
045名古屋港				○	○	○	○	○	○	○	○		C
046四日市港				○	○	○	○	○	○	○	○		C
048舞鶴港				○	○	○	○	○	○	○	○		C
051大阪港				○	○	○	○	○	○	○	○		C
052岸和田港				○	○	○	○	○	○	○	○		C
053神戸港				○	○	○	○	○	○	○	○		C
059広島港				○	○	○	○	○	○	○	○		C
065松山港				○	○	○	○	○	○	○	○		C
069関門港				○	○	○	○	○	○	○	○		C
070博多港				○	○	○	○	○	○	○	○		C
075長崎港				○	○	○	○	○	○	○	○		C
086鹿児島港				○	○	○	○	○	○	○	○		C
090那覇港	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		C
092石垣港	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		C
193新千歳空港							○	○	○	○			C
194旭川空港							○	○	○	○			C
195函館空港						○	○	○	○	○			C
196青森空港							○	○	○	○			C
197仙台空港							○	○	○	○			C
198秋田空港						○	○	○	○	○			C
199福島空港							○	○	○	○			C
200成田国際空港				○	○	○	○	○	○	○			C
201東京国際空港				○	○	○	○	○	○	○			A
202新潟空港				○	○	○	○	○	○	○			C
203富山空港				○	○	○	○	○	○	○			C
204小松飛行場				○	○	○	○	○	○	○			C
205中部国際空港				○	○	○	○	○	○	○			C
206関西国際空港				○	○	○	○	○	○	○			C
209広島空港				○	○	○	○	○	○	○			C
211松山空港				○	○	○	○	○	○	○			C
212福岡空港				○	○	○	○	○	○	○			C
219那覇空港				○	○	○	○	○	○	○			C

成虫調査のみ実施月
 幼虫調査のみ実施月
 成虫・幼虫調査実施月
 媒介種(成虫)捕集
 媒介種(幼虫)捕集
 蚊族を捕集

^{*}*Aedes albopictus*, *Ae. vexans nipponii*, *Ochlerotatus japonicus japonicus*, *Och. togai*, *Och. dorsalis*, *Ar. subalbatus*, *Culex pipiens* Complex, *Cx. tritaeniorhynchus*, *Cx. inatomii*, *Cx. pipiens quinquefasciatus*, *Cx. pipiens molestus*, *Cx. pipiens pallens*, *Cx. pipiens* ,Complex, *Anopheles sinensis*, *Mansonia uniformis*

表9 マラリア媒介種^{*)}の成虫・幼虫の生息状況(2010年)

検疫港・空港	月												年間評価
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
001小樽港						■		■		■			B
002石狩湾新港						■		■		■			B
003稚内港						■		■		■			B
004留萌港						■		■		■			B
005紋別港						■		■		■			B
006網走港						■		■		■			B
007花咲港						■		■		■			B
008釧路港						■		■		■			B
009苫小牧港						■		■		■			A
011函館港						■		■		■			B
012青森港						■		■		■			B
013八戸港						■		○		■			C
014宮古港						■		○		○			C
015釜石港						■		○		■			B
016大船渡港						■		○		■			C
017気仙沼港						■		○		■			B
018石巻港						■		○		○			C
019仙台塩釜港						■		○		■			C
020秋田船川港						■		○		■			B
021酒田港						■		○		■			B
022小名浜港						■		○		■			B
026千葉港						■		■		■			B
028東京港						■		■		■			B
029川崎港						■		■		■			B
030横浜港						■		■		■			B
033直江津港						■		■		■			B
034新潟港						■		○		○			C
035伏木富山港						■		○		○			B
036金沢・七尾港						■		○		○			B
040清水港						■		○		○			B
045名古屋港						■		○		○			B
046四日市港						■		○		○			B
048舞鶴港						■		○		○			B
051大阪港						■		○		○			B
052岸和田港						■		○		○			B
053神戸港						■		○		○			B
059広島港						■		○		○			B
065松山港						■		○		○			B
069関門港						■		○		○			B
070博多港						■		○		○			B
075長崎港						■		○		○			B
086鹿児島港						■		○		○			B
090那覇港						■		○		○			B
092石垣港						■		○		○			B
193新千歳空港						■		○		○			B
194旭川空港						■		○		○			C
195函館空港						■		○		○			B
196青森空港						■		○		○			B
197仙台空港						○		○		○			C
198秋田空港						○		○		○			C
199福島空港						○		○		○			C
200成田国際空港						■		○		○			B
201東京国際空港						■		○		○			A
202新潟空港						■		○		○			B
203富山空港						■		○		○			B
204小松飛行場						■		○		○			B
205中部国際空港						■		○		○			B
206関西国際空港						■		○		○			C
209広島空港						■		○		○			C
211松山空港						■		○		○			B
212福岡空港						■		○		○			B
219那覇空港						■		○		○			B

成虫調査のみ実施月
 幼虫調査のみ実施月
 成虫・幼虫調査実施月
 媒介種(成虫)捕集
 媒介種(幼虫)捕集
 蚊族を捕集

^{*)} *Anopheles sinensis*

表10 検疫港・空港別のねずみ族政令区域等調査件数及び捕獲の実績(2010年)

検疫所名	年間延べ調査区数 (A)	ノミ				ねずみ											
		属、亜属及び種			Fleas 合計	属、亜属及び種								合計 (B)	1調査区 の平均捕獲数 (B/A)	ペスト、 HFRS 病原体の検査 (検査数)	
		Nosopsyllus fasciatus (ヨーロッパハネズミ)	Monopsyllus anisus (ヤマトハネズミ)	Fleas Other		Rattus		Mus (ハツカネズミ)	Apodemus		Clethrionomys (エゾヤチネズミ)						
						R. rattus (クマネズミ)	R. norvegicus (ドブネズミ)		A. speciosus (アカネズミ)	A. sinu (エゾアカネズミ)							
		P	-	-		P、HF	P、HF	P	P、HF	P、HF	P、HF			陽性	検体数		
001小樽港	12	39	8		47	33	36					69	5.8	0	69		
002石狩湾新港	2	1		30	31		1		1		26	28	14.0	0	28		
003稚内港	1				0							0	0.0				
004留萌港		3	1		4		2					2	2.0	0	2		
005紋別港	1				0		5					5	5.0	0	5		
006網走港		11			11		5					5	5.0	0	5		
007花咲港	1				0		4					4	4.0	0	2		
008釧路港	1				0		3					3	3.0	0	3		
009苫小牧港	2	13			13		15					15	7.5	0	15		
010室蘭港	1	2			2		6		1			7	7.0	0	7		
011函館港	2	3			3		5					5	2.5	0	1		
012青森港	2	5	1		6		10					10	5.0	0	10		
013八戸港	2				0		5					5	2.5	0	5		
014宮古港	2				0		5					5	2.5	0	5		
015釜石港	2				0		2					2	1.0	0	2		
016大船渡港	2				0		2					2	1.0	0	2		
017気仙沼港	2				0		2					2	1.0	0	2		
018石巻港	6	2	2		4		10					10	1.7	0	10		
019仙台塩釜港	12	3			3		12	1				13	1.1	0	11		
020秋田船川港	6				0		1					1	0.2	0	1		
021酒田港	2				0		4					4	2.0	0	4		
022小名浜港	4				0		1					1	0.3	0	1		
026千葉港	11				0		6					6	0.5	0	6		
028東京港	20				0		17					17	0.9	0	17		
029川崎港	22	8		2	10		10	6				16	0.7	0	16		
030横浜港	14				0		9	2				11	0.8	0	10		
033直江津港	11				0		12	1	1			14	1.3	0	14		
034新潟港	19				0		1	5	1			7	0.4	0	7		
035伏木富山港	11				0		5					5	0.5	0	5		
036金沢・七尾港	8				0			1				1	0.1	0	1		
040清水港	14				0		3					3	0.2	0	3		
045名古屋港	24				0		3					3	0.1	0	2		
046四日市港	10				0		2					2	0.2	0	2		
048舞鶴港	1				0							0	0.0				
051大阪港	20				0			8				8	0.4	0	8		
052岸和田港	1				0			2				2	2.0	0	2		
053神戸港	38				0	4	39	1				44	1.2	0	34		
059広島港	8				0			2				2	0.3	0	2		
069関門港	3				0			3				3	1.0	0	2		
070博多港	10				0		1	4				5	0.5	0	4		
075長崎港	2				0							0	0.0				
086鹿児島港	8				0			2				2	0.3	0	1		
090那覇港	10				0	3	21					24	2.4	0	22		
193新千歳空港	8				0		3				2	1	6	0.8	0	5	
194旭川空港	4				0				1			1	0.3	0	1		
195函館空港	2				0						2	2	1.0	0	2		
196青森空港	2				0				1			1	0.5	0	1		
197仙台空港	12				0			2				2	0.2	0	1		
198秋田空港	4				0							0	0.0				
199福島空港	4				0				2			2	0.5	0	2		
200成田国際空港	39				0			6				6	0.2	0	6		
201東京国際空港	5				0							0	0.0				
202新潟空港	8				0			1				1	0.1	0	1		
203富山空港	4				0							0	0.0				
204小松飛行場	4				0			2				2	0.5	0	2		
205中部国際空港	12				0		8					8	0.7	0	8		
206関西国際空港	32				0		5	21				26	0.8	0	26		
209広島空港	4				0			4	3			7	1.8	0	7		
212福岡空港	12				0							0	0.0				
219那覇空港	5				0	3		7				10	2.0	0	10		
合計	493	90	12	32	134	43	281	81	11	2	29	447	0.9	0	420		

媒介種の感染症の種類(P: ペスト、HF: 腎症候性出血熱(HFRS))

ペスト病原体の検査: 解剖、抗体検査またはPCR法

HFRSの検査: IFA抗体検査

表11 ペスト媒介種のねずみ及びノミ^{*}の生息状況(2010年)

検疫港・空港	月												年間評価
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
001小樽港				●		●	●		●	●	●		B
002石狩湾新港						○		●					B
003稚内港													A
004留萌港						●							B
005紋別港							●						B
006網走港									●	●			B
007花咲港									○	○			B
008釧路港									○	○			B
009苫小牧港					●						●		B
010室蘭港										●			B
011函館港						●							B
012青森港							●		●				B
013八戸港								○		○			B
014宮古港								○	○				B
015釜石港									○	○			B
016大船渡港							○	○					B
017気仙沼港							○	○					B
018石巻港						●				●			B
019仙台塩釜港					○				●	●			B
020秋田船川港							○						B
021酒田港							○		○				B
022小名浜港										○			B
026千葉港							○				○		B
028東京港		○					○						B
029川崎港					●	○				○	○		B
030横浜港	○				○	○		○	○				B
033直江津港					○				○			○	B
034新潟港	○			●			○			●			B
035伏木富山港			○			○			○		○		B
036金沢・七尾港		○											B
040清水港				○			○		○				B
045名古屋港		○										○	B
046四日市港							○						B
048舞鶴港													A
051大阪港	○	○		○			○					○	B
052岸和田港					○								B
053神戸港	○				○		○		○		○		B
059広島港					○				○				B
069関門港										○			B
070博多港						○					○	○	B
075長崎港													A
086鹿児島港						○							B
090那覇港	○	○				○	○	○		○	○		B
193新千歳空港							○	○			○		B
194旭川空港						○							B
195函館空港						○				○			B
196青森空港									○				B
197仙台空港							○						B
198秋田空港													A
199福島空港							○		○				B
200成田国際空港				○			○	○				○	B
201東京国際空港													A
202新潟空港										○			B
203富山空港													A
204小松飛行場		○									○		B
205中部国際空港									○	○			B
206関西国際空港			○			○			○		○		B
209広島空港						○	○				○	○	B
212福岡空港													A
219那覇空港	○				○	○					○		B

○: 媒介種ネズミを捕獲 ●: ペスト媒介種のノミの寄生があったネズミを捕獲 ●: 特異抗体を確認 ●: 病原体を確認

*) Rodents, *Nosopsyllus fasciatus*

表12 腎症候群出血熱媒介種^{*)}のねずみの生息状況(2010年)

検疫港・空港	月												年間評価
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
001小樽港				◎		●	◎		◎	◎	◎		B
002石狩湾新港						◎		◎					B
003稚内港													A
004留萌港						◎							B
005紋別港							◎						B
006網走港									◎	◎			B
007花咲港									◎	◎			B
008釧路港									◎	◎			B
009苫小牧港					◎						◎		B
010室蘭港										◎			B
011函館港						◎							B
012青森港							◎		◎				B
013八戸港								◎		◎			B
014宮古港								◎	◎				B
015釜石港									◎	◎			B
016大船渡港							◎	◎					B
017気仙沼港							◎	◎					B
018石巻港						◎				◎			B
019仙台塩釜港				◎					◎	◎			B
020秋田船川港							◎						B
021酒田港							◎		◎				B
022小名浜港										◎			B
026千葉港	◎						◎				◎		B
028東京港		◎					◎						B
029川崎港				◎	◎	◎				◎	◎		B
030横浜港	◎			◎	◎				◎				B
033直江津港									◎			◎	B
034新潟港	◎						◎						B
035伏木富山港			◎			◎			◎		◎		B
036金沢・七尾港													B
040清水港			◎				◎		◎				B
045名古屋港		◎										◎	B
046四日市港							◎						B
048舞鶴港													A
051大阪港	◎												B
052岸和田港													B
053神戸港	◎				◎		◎		◎		◎		B
059広島港													B
069関門港													B
070博多港											◎		B
075長崎港													A
086鹿児島港													B
090那覇港	◎					◎	◎			◎	◎		B
193新千歳空港							◎	◎			◎		B
194旭川空港						◎							B
195函館空港						◎				◎			B
196青森空港									◎				B
197仙台空港													B
198秋田空港													A
199福島空港							◎		◎				B
200成田国際空港													B
201東京国際空港													A
202新潟空港													B
203富山空港													A
204小松飛行場													B
205中部国際空港									◎	◎			B
206関西国際空港			◎			◎			◎				B
209広島空港						◎	◎				◎		B
212福岡空港													A
219那覇空港	◎										◎		B

調査実施月 ネズミを捕獲
 ◎: 媒介種ネズミを捕獲 ●: 特異抗体を確認 ●: 病原体を確認

^{*)} *Rattus norvegicus*, *Rattus rattus*, *Clethrionomys* sp., *Apodemus agrarius*

表13 ハンタウイルス肺症候群媒介種^{*}のねずみの生息状況(2010年)

検疫港・空港	月												年間評価
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
001小樽港													B
002石狩湾新港													B
003稚内港													A
004留萌港													B
005紋別港													B
006網走港													B
007花咲港													B
008釧路港													B
009苫小牧港													B
010室蘭港													B
011函館港													B
012青森港													B
013八戸港													B
014宮古港													B
015釜石港													B
016大船渡港													B
017気仙沼港													B
018石巻港													B
019仙台塩釜港													B
020秋田船川港													B
021酒田港													B
022小名浜港													B
026千葉港													B
028東京港													B
029川崎港													B
030横浜港													B
033直江津港													B
034新潟港													B
035伏木富山港													B
036金沢・七尾港													B
040清水港													B
045名古屋港													B
046四日市港													B
048舞鶴港													A
051大阪港													B
052岸和田港													B
053神戸港													B
059広島港													B
069関門港													B
070博多港													B
075長崎港													A
086鹿児島港													B
090那覇港													B
193新千歳空港													B
194旭川空港													B
195函館空港													B
196青森空港													B
197仙台空港													B
198秋田空港													A
199福島空港													B
200成田国際空港													B
201東京国際空港													A
202新潟空港													B
203富山空港													A
204小松飛行場													B
205中部国際空港													B
206関西国際空港													B
209広島空港													B
212福岡空港													A
219那覇空港													B

調査実施月 ネズミを捕獲
 ◎: 媒介種ネズミを捕獲 ● 特異抗体を確認 ● 病原体を確認

^{*}) *Mastomys eucushuberti*, *Mastomys huberti*, *Mastomys natalensis*

表14 ラッサ熱媒介種*)のねずみの生息状況(2010年)

検疫港・空港	月												年間評価
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
001小樽港													B
002石狩湾新港													B
003稚内港													A
004留萌港													B
005紋別港													B
006網走港													B
007花咲港													B
008釧路港													B
009苫小牧港													B
010室蘭港													B
011函館港													B
012青森港													B
013八戸港													B
014宮古港													B
015釜石港													B
016大船渡港													B
017気仙沼港													B
018石巻港													B
019仙台塩釜港													B
020秋田船川港													B
021酒田港													B
022小名浜港													B
026千葉港													B
028東京港													B
029川崎港													B
030横浜港													B
033直江津港													B
034新潟港													B
035伏木富山港													B
036金沢・七尾港													B
040清水港													B
045名古屋港													B
046四日市港													B
048舞鶴港													A
051大阪港													B
052岸和田港													B
053神戸港													B
059広島港													B
069関門港													B
070博多港													B
075長崎港													A
086鹿児島港													B
090那覇港													B
193新千歳空港													B
194旭川空港													B
195函館空港													B
196青森空港													B
197仙台空港													B
198秋田空港													A
199福島空港													B
200成田国際空港													B
201東京国際空港													A
202新潟空港													B
203富山空港													A
204小松飛行場													B
205中部国際空港													B
206関西国際空港													B
209広島空港													B
212福岡空港													A
219那覇空港													B

調査実施月 ネズミを捕獲
 ◎: 媒介種ネズミを捕獲 ● 特異抗体を確認 ● 病原体を確認

*) *Mastomys* sp

表15 南米出血熱媒介種^{*)}のねずみの生息状況(2010年)

検疫港・空港	月												年間評価
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
001小樽港													B
002石狩湾新港													B
003稚内港													A
004留萌港													B
005紋別港													B
006網走港													B
007花咲港													B
008釧路港													B
009苫小牧港													B
010室蘭港													B
011函館港													B
012青森港													B
013八戸港													B
014宮古港													B
015釜石港													B
016大船渡港													B
017気仙沼港													B
018石巻港													B
019仙台塩釜港													B
020秋田船川港													B
021酒田港													B
022小名浜港													B
026千葉港													B
028東京港													B
029川崎港													B
030横浜港													B
033直江津港													B
034新潟港													B
035伏木富山港													B
036金沢・七尾港													B
040清水港													B
045名古屋港													B
046四日市港													B
048舞鶴港													A
051大阪港													B
052岸和田港													B
053神戸港													B
059広島港													B
069関門港													B
070博多港													B
075長崎港													A
086鹿児島港													B
090那覇港													B
193新千歳空港													B
194旭川空港													B
195函館空港													B
196青森空港													B
197仙台空港													B
198秋田空港													A
199福島空港													B
200成田国際空港													B
201東京国際空港													A
202新潟空港													B
203富山空港													A
204小松飛行場													B
205中部国際空港													B
206関西国際空港													B
209広島空港													B
212福岡空港													A
219那覇空港													B

調査実施月 ネズミを捕獲
 ◎: 媒介種ネズミを捕獲 ● 特異抗体を確認 ● 病原体を確認

^{*)} *Calomys musculus*, *Ca. musculus*, *Ca. callosus*, *Ca. laucha*, *Zygodontomys brevicauda*

表16 サーベイランスの結果から見た感染症が発生する評価レベル(2010年)

検疫所/検疫感染症	デング熱 (チクングニア熱)	日本脳炎	ウエストナ イル熱	マラリア	ペスト	HFRS	HPS	ラッサ熱	南米出血 熱
001小樽港	C	C	C	B	B	B	B	B	B
002石狩湾新港	C	C	C	B	B	B	B	B	B
003稚内港	B	C	C	B	A	A	A	A	A
004留萌港	B	C	C	B	B	B	B	B	B
005紋別港	B	C	C	B	B	B	B	B	B
006網走港	B	C	C	B	B	B	B	B	B
007花咲港	B	B	C	B	B	B	B	B	B
008釧路港	B	C	C	B	B	B	B	B	B
009苫小牧港	A	A	A	A	B	B	B	B	B
010室蘭港	-	-	-	-	B	B	B	B	B
011函館港	B	C	C	B	B	B	B	B	B
012青森港	B	C	C	B	B	B	B	B	B
013八戸港	B	B	C	C	B	B	B	B	B
014宮古港	C	C	C	C	B	B	B	B	B
015釜石港	C	C	C	B	B	B	B	B	B
016大船渡港	C	C	C	C	B	B	B	B	B
017気仙沼港	C	C	C	B	B	B	B	B	B
018石巻港	C	C	C	C	B	B	B	B	B
019仙台塩釜港	C	C	C	C	B	B	B	B	B
020秋田船川港	C	B	C	B	B	B	B	B	B
021酒田港	C	B	C	B	B	B	B	B	B
022小名浜港	C	C	C	B	B	B	B	B	B
026千葉港	C	B	C	B	B	B	B	B	B
028東京港	C	C	C	B	B	B	B	B	B
029川崎港	C	B	C	B	B	B	B	B	B
030横浜港	B	B	C	B	B	B	B	B	B
033直江津港	C	B	C	B	B	B	B	B	B
034新潟港	C	B	C	C	B	B	B	B	B
035伏木富山港	C	C	C	B	B	B	B	B	B
036金沢・七尾港	C	C	C	B	B	B	B	B	B
040清水港	C	B	C	B	B	B	B	B	B
045名古屋港	B	B	C	B	B	B	B	B	B
046四日市港	B	B	C	B	B	B	B	B	B
048舞鶴港	C	C	C	B	A	A	A	A	A
051大阪港	C	C	C	B	B	B	B	B	B
052岸和田港	B	B	C	B	B	B	B	B	B
053神戸港	C	C	C	B	B	B	B	B	B
059広島港	C	C	C	B	B	B	B	B	B
065松山港	C	C	C	B	-	-	-	-	-
069関門港	C	C	C	B	B	B	B	B	B
070博多港	C	C	C	B	B	B	B	B	B
075長崎港	C	B	C	B	A	A	A	A	A
086鹿児島港	C	B	C	B	B	B	B	B	B
090那覇港	C	B	C	B	B	B	B	B	B
092石垣港	C	B	C	B	-	-	-	-	-
193新千歳空港	B	C	C	B	B	B	B	B	B
194旭川空港	B	C	C	C	B	B	B	B	B
220釧路空港 ^{※)}	-	-	-	-	-	-	-	-	-
221帯広空港 ^{※)}	-	-	-	-	-	-	-	-	-
195函館空港	B	C	C	B	B	B	B	B	B
196青森空港	B	C	C	B	B	B	B	B	B
197仙台空港	C	C	C	C	B	B	B	B	B
198秋田空港	B	C	C	C	A	A	A	A	A
199福島空港	C	C	C	C	B	B	B	B	B
200成田国際空港	C	C	C	B	B	B	B	B	B
201東京国際空港	A	A	A	A	A	A	A	A	A
202新潟空港	C	B	C	B	B	B	B	B	B
203富山空港	C	C	C	B	A	A	A	A	A
204小松飛行場	C	C	C	B	B	B	B	B	B
205中部国際空港	C	C	C	B	B	B	B	B	B
206関西国際空港	C	C	C	C	B	B	B	B	B
209広島空港	C	C	C	C	B	B	B	B	B
211松山空港	C	C	C	B	-	-	-	-	-
212福岡空港	C	C	C	B	A	A	A	A	A
219那覇空港	C	C	C	B	B	B	B	B	B
評価対象検疫港数	62				60				
評価	A	2	2	2	2	7	7	7	7
	B	18	18	0	46	53	53	53	53
	C	42	42	60	12	0	0	0	0
	D	0	0	0	0	0	0	0	0

蚊族評価基準(A:蚊族の採集なし、B:蚊族を採集(媒介蚊を除く)、C:媒介蚊を採集、D:感染蚊を採集)

ねずみ族評価基準(A:ねずみ族の捕獲・証跡なし、B:ねずみ族の生息を確認、C:病原体の特異抗体を確認、D:病原体を確認)

感染症が流行する可能性の評価(A:非常に低い、B:低い、C:中程度、D:高い)

赤字:2009年と比較して評価レベルが上がった検疫港・空港。青字:2009年と比較して評価レベルが下がった検疫港・空港。

※):航空機調査のみであったため評価対象とならなかった。

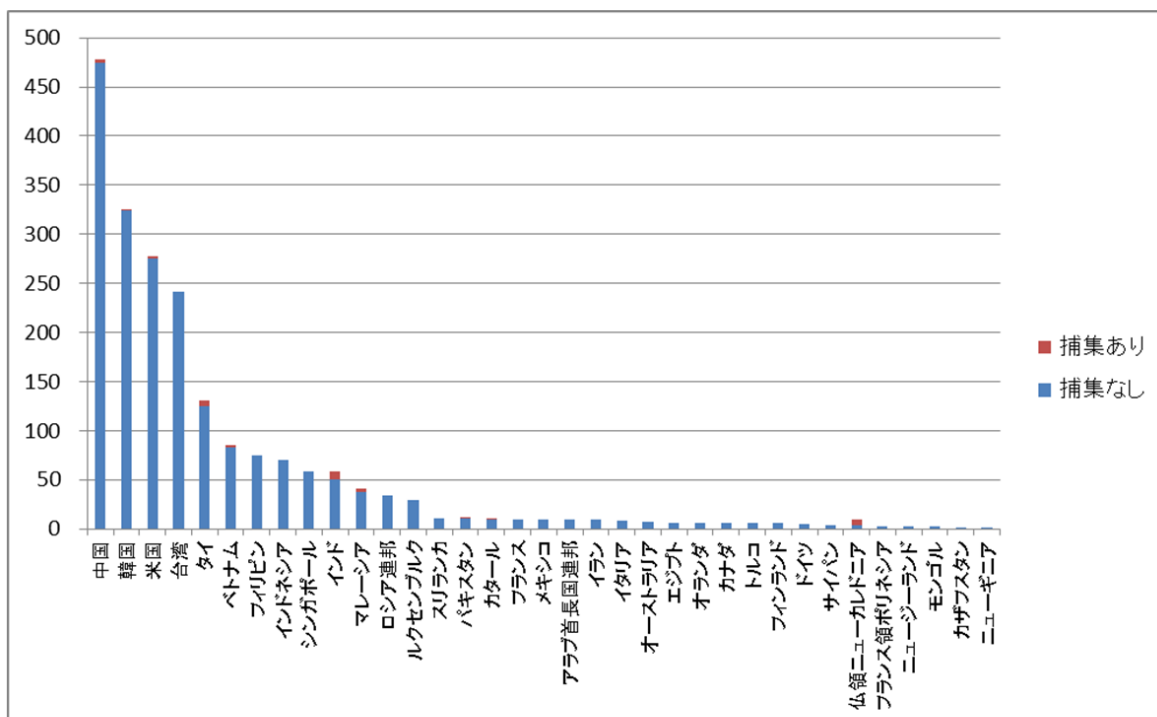
表17 港湾衛生調査業務担当者(2010年)

職 名	氏 名
小樽検疫所検疫衛生課衛生管理官	齋藤 邦宏 ¹⁾
小樽検疫所検疫衛生課衛生係長	村上 隆行
仙台検疫所検疫衛生課衛生管理官	山内 繁
仙台検疫所検疫衛生課衛生係長	奥山 弘幸 ¹⁾ 、永野 美緒子 ²⁾
成田空港検疫所衛生課検疫専門官	馬場 大輔
成田空港検疫所衛生課衛生係長	津曲 淳 ¹⁾ 、魚住 英晴 ²⁾
成田空港検疫所検査課媒介動物検査室長	長谷山 路夫
東京検疫所検疫衛生課衛生管理官	新妻 淳
東京検疫所検疫衛生課衛生係長	石井 和喜 ¹⁾ 、溝内 興一 ²⁾
横浜検疫所検疫衛生課衛生係長	近藤 尚久 ¹⁾ 、加藤 敦久 ²⁾
新潟検疫所検疫衛生課衛生管理官	松野 健太郎
新潟検疫所検疫衛生課衛生係長	大前 宮男
名古屋検疫所検疫衛生課衛生管理官	高橋 直樹
名古屋検疫所検疫衛生課衛生係長	藤井 崇史
大阪検疫所検疫衛生課衛生管理官	岩本 恭幸
大阪検疫所検疫衛生課衛生係長	岡野 範子 ¹⁾ 、蓼川 渉 ²⁾
関西空港検疫所衛生課検疫専門官	上田 泰史
関西空港検疫所衛生課衛生係長	蓼川 渉 ¹⁾ 、奥村 幸二 ²⁾
神戸検疫所検疫衛生課衛生管理官	牧鶴 耕司
神戸検疫所検疫衛生課衛生係長	岡 茂樹 ¹⁾ 、堀越 宏幸 ²⁾
広島検疫所検疫衛生課衛生係長	奥村 幸二 ¹⁾ 、幸 英治 ²⁾
広島検疫所検疫衛生課食品衛生専門職	小西 京介
福岡検疫所検疫衛生課衛生管理官	鈴木 一郎
福岡検疫所検疫衛生課衛生係長	石井 博文
那覇検疫所検疫衛生課衛生係長	森 明彦

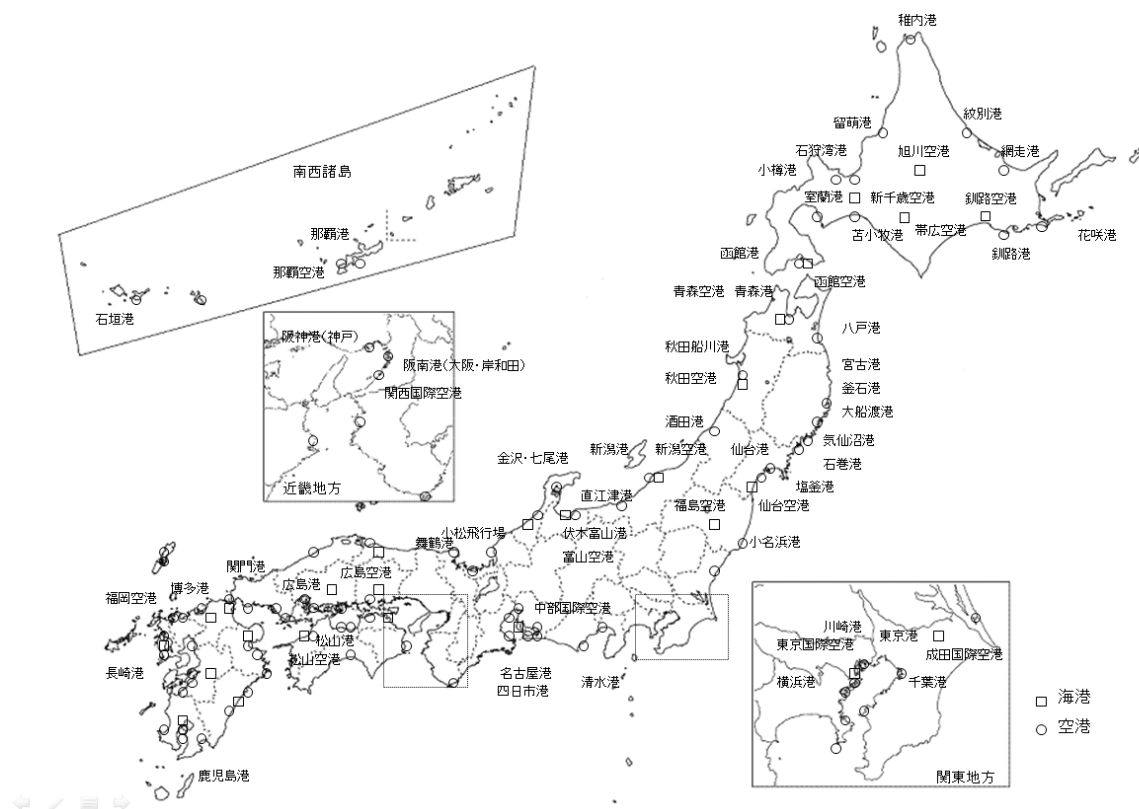
1)～2010年3月31日

2)2010年4月1日～

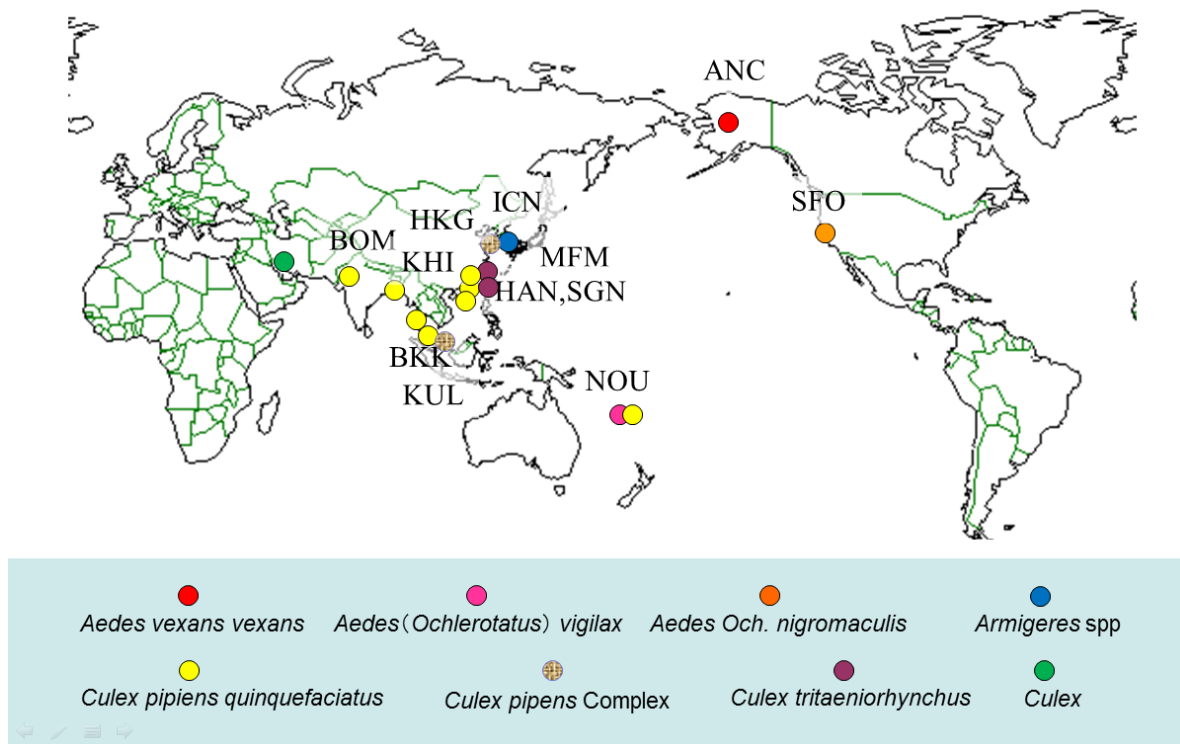
グラフ1 最終発航国別の蚊族の捕集状況(2010年)



地図1 調査実施検疫港・空港(2010年)

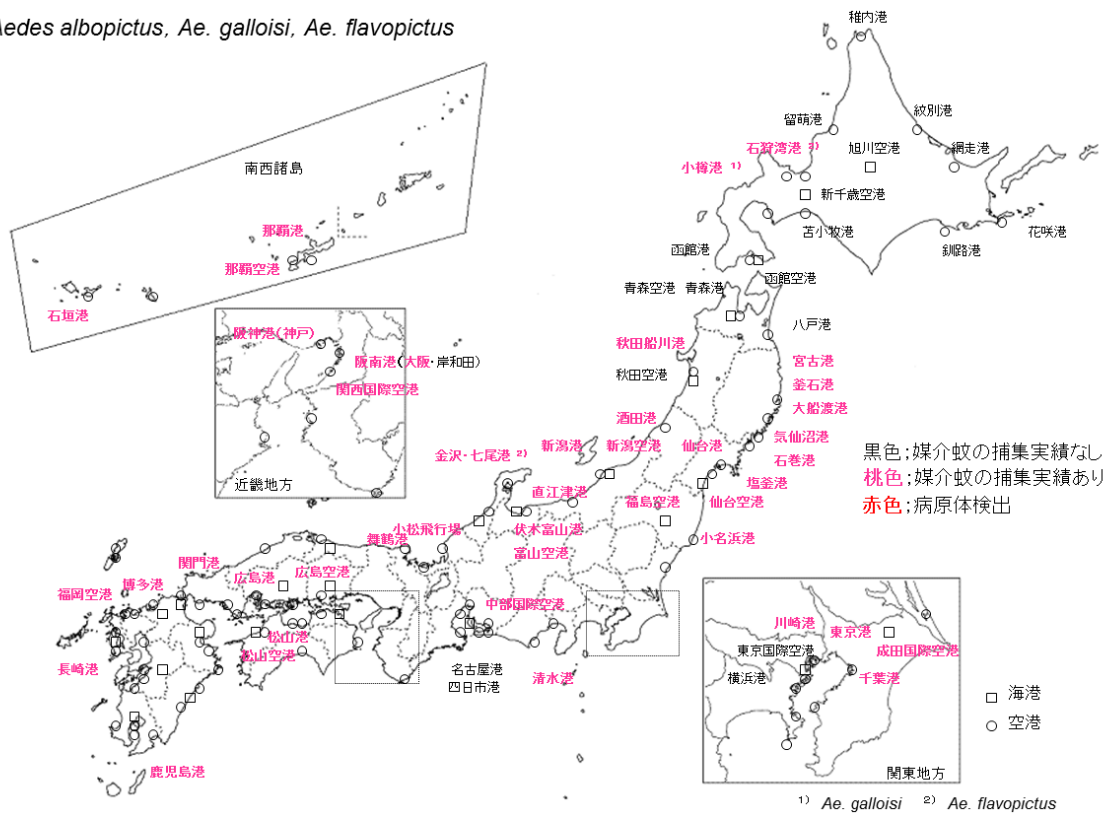


地図11 航空機調査で捕集された蚊族の種類と路線(2010年)



地図3 デング熱媒介種の捕集及び病原体検査状況(2010年)

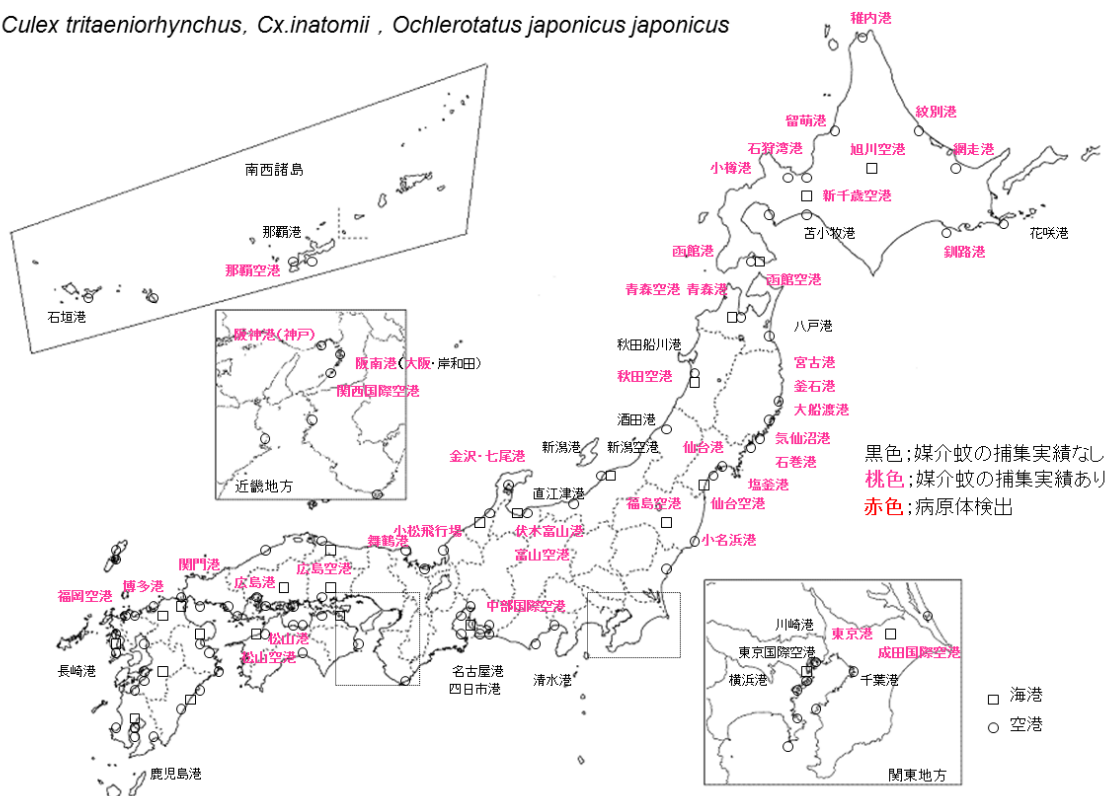
Aedes albopictus, *Ae. galloisi*, *Ae. flavopictus*



1) *Ae. galloisi* 2) *Ae. flavopictus*

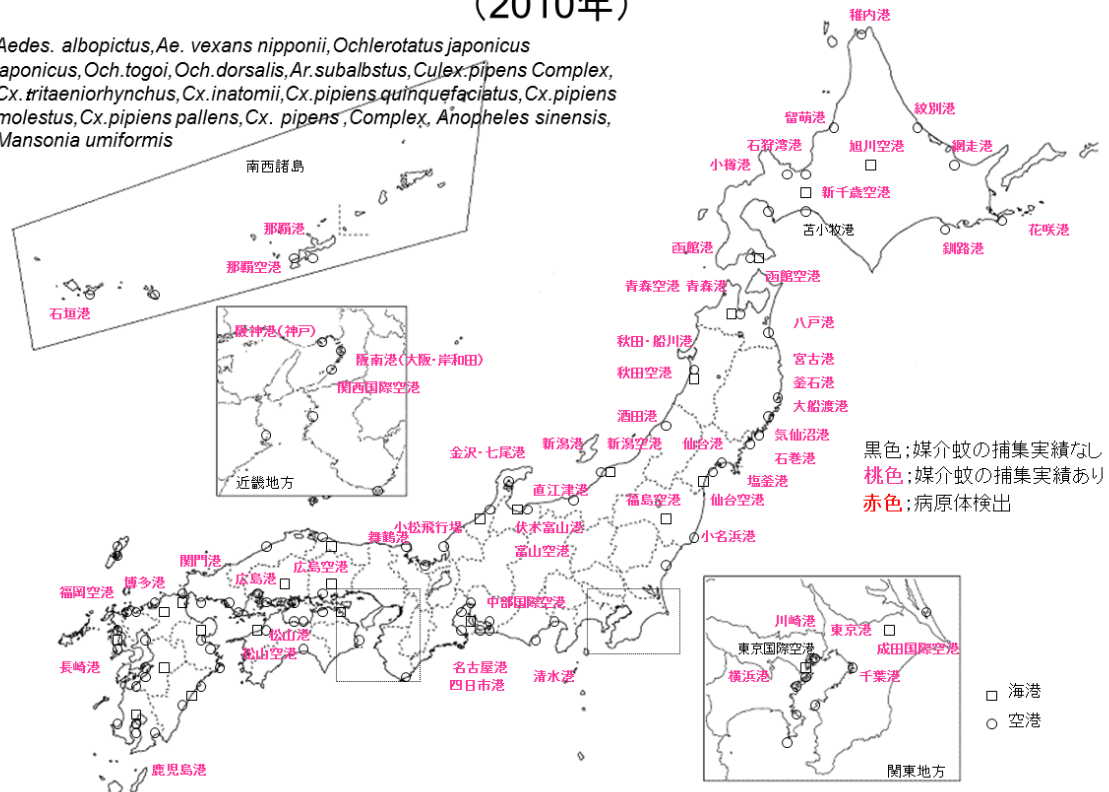
地図4 日本脳炎媒介種の捕集及び病原体検査状況(2010年)

Culex tritaeniorhynchus, *Cx.inatomii*, *Ochlerotatus japonicus japonicus*



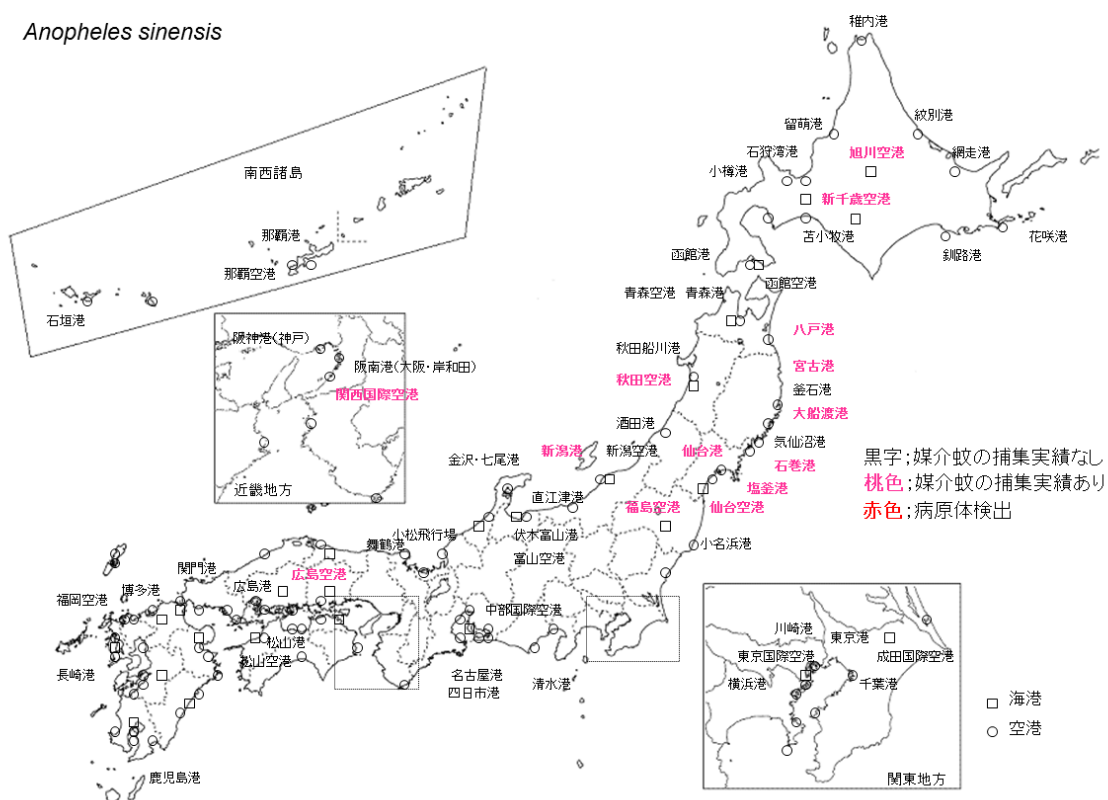
地図5 ウエストナイル熱媒介種の捕集及び病原体検査状況(2010年)

Aedes albopictus, *Ae. vexans nipponii*, *Ochlerotatus japonicus japonicus*, *Och.togoi*, *Och.dorsalis*, *Ar.subalbstus*, *Culex pipiens Complex*, *Cx. tritaeniorhynchus*, *Cx.inatomii*, *Cx.pipiens quinquefasciatus*, *Cx.pipiens molestus*, *Cx.pipiens pallens*, *Cx. pipiens*, *Complex*, *Anopheles sinensis*, *Mansonia uniformis*



地図6 マラリア媒介種の捕集及び病原体検査状況(2010年)

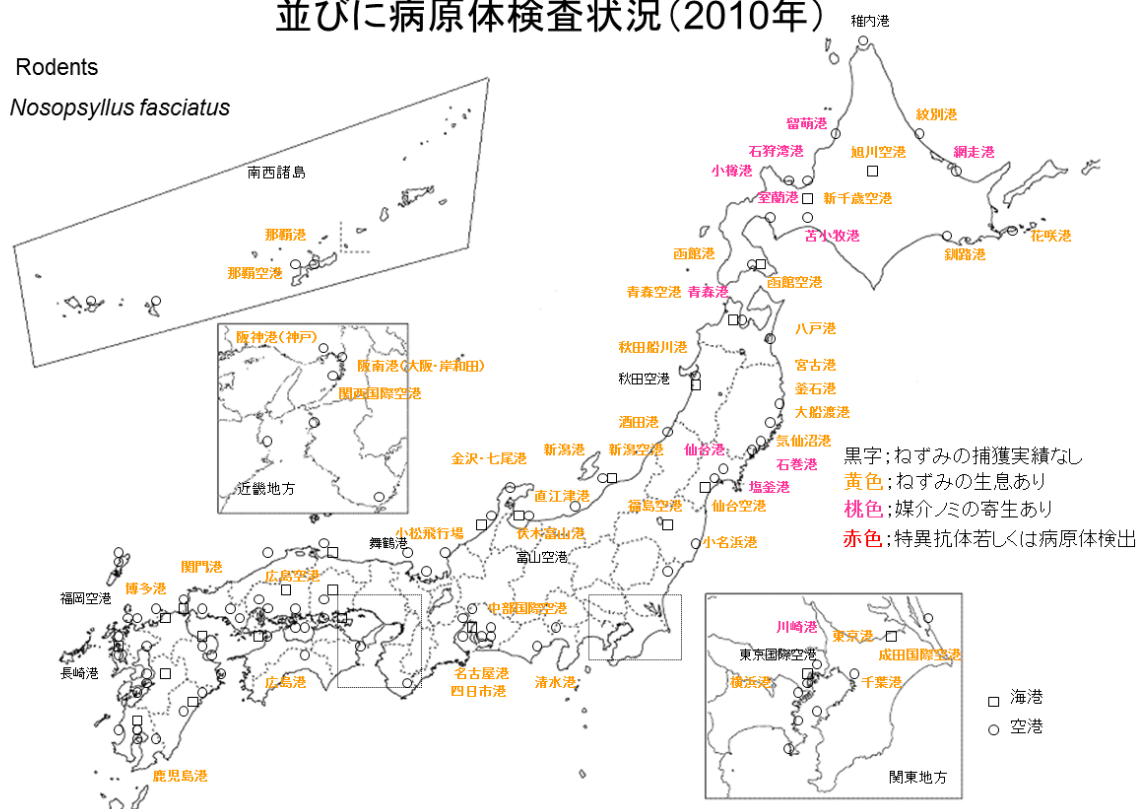
Anopheles sinensis



地図7 ペスト媒介種のねずみ捕獲及び媒介ノミ並びに病原体検査状況(2010年)

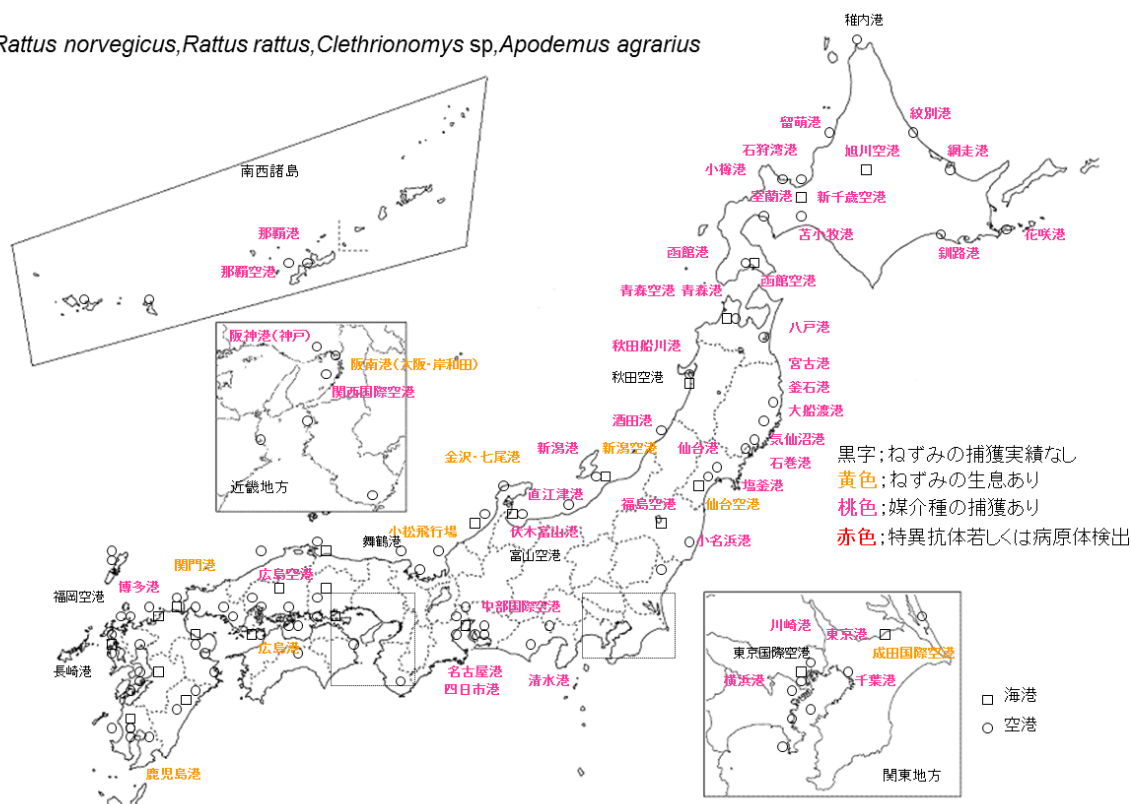
Rodents

Nosopsyllus fasciatus

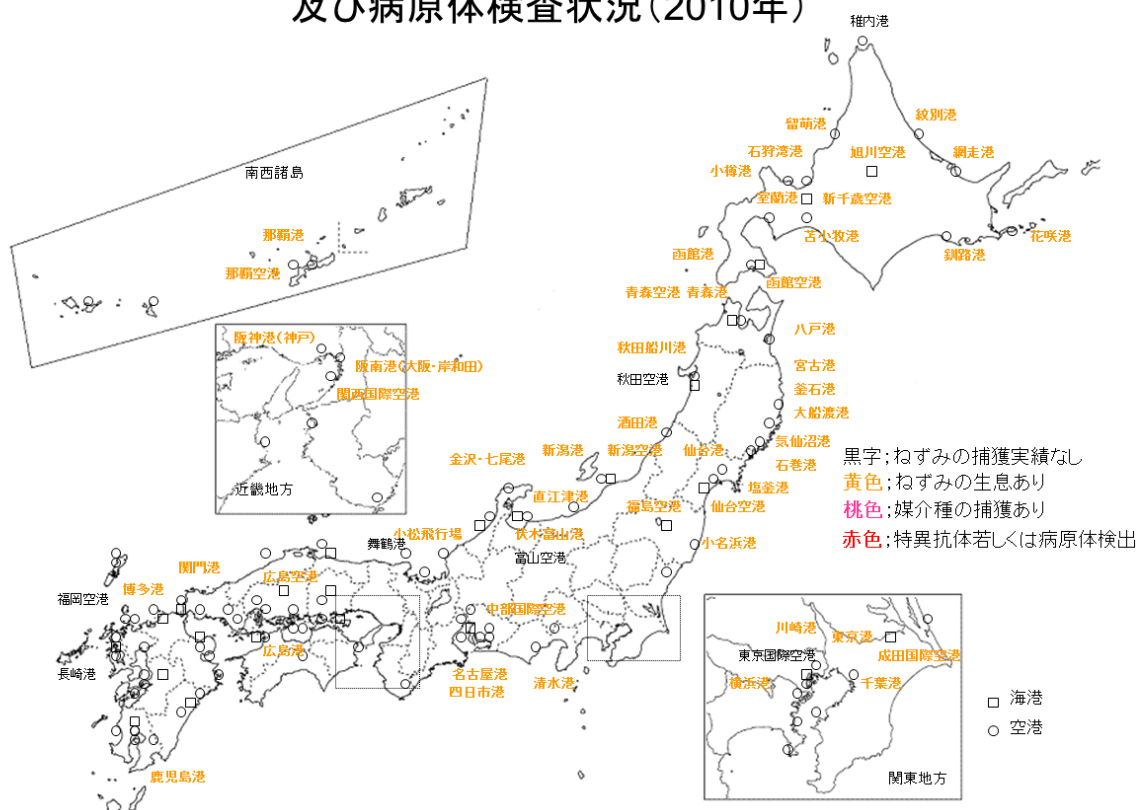


地図8 腎症候性出血熱の媒介種及び病原体検査状況(2010年)

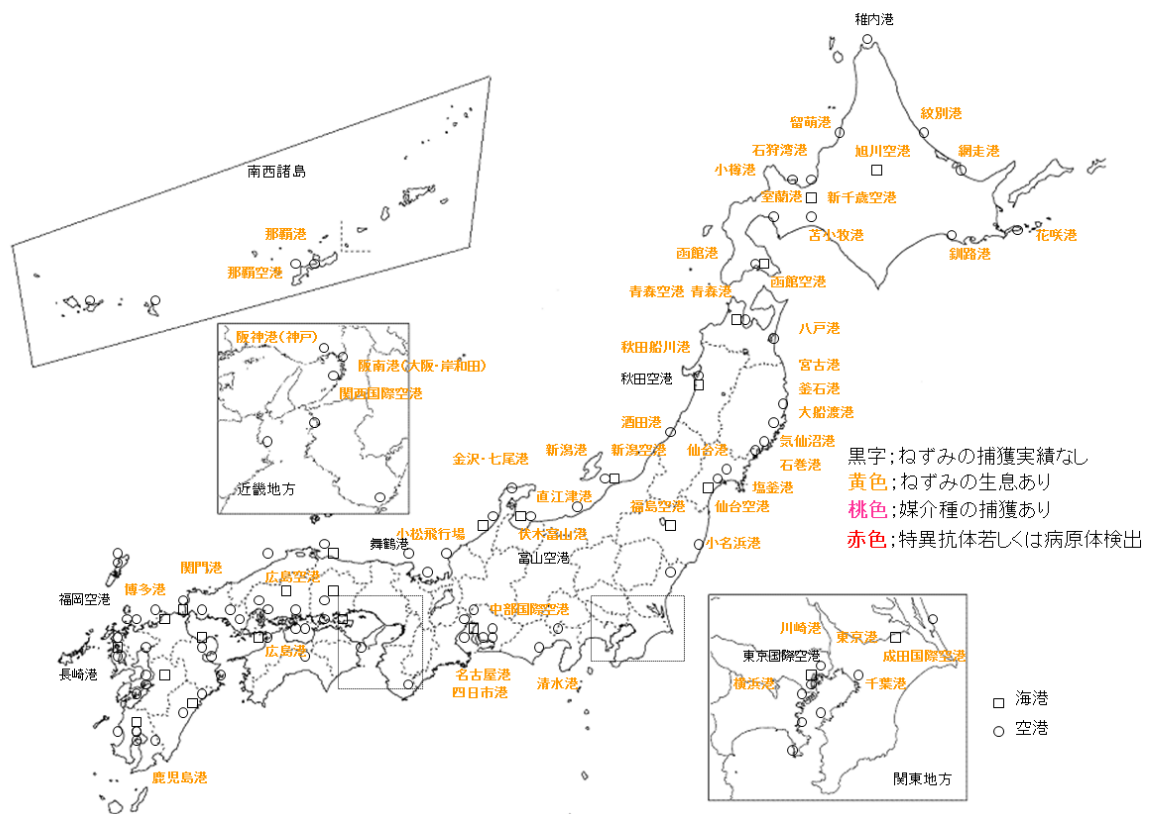
Rattus norvegicus, Rattus rattus, Clethrionomys sp., Apodemus agrarius



地図9 ハンタウイルス肺症候群の媒介種捕獲及び病原体検査状況(2010年)



地図10 ラッサ熱の媒介種の捕獲及び病原体検査状況(2010年)



地図11 南米出血熱の媒介種捕獲及び病原体検査状況(2010年)

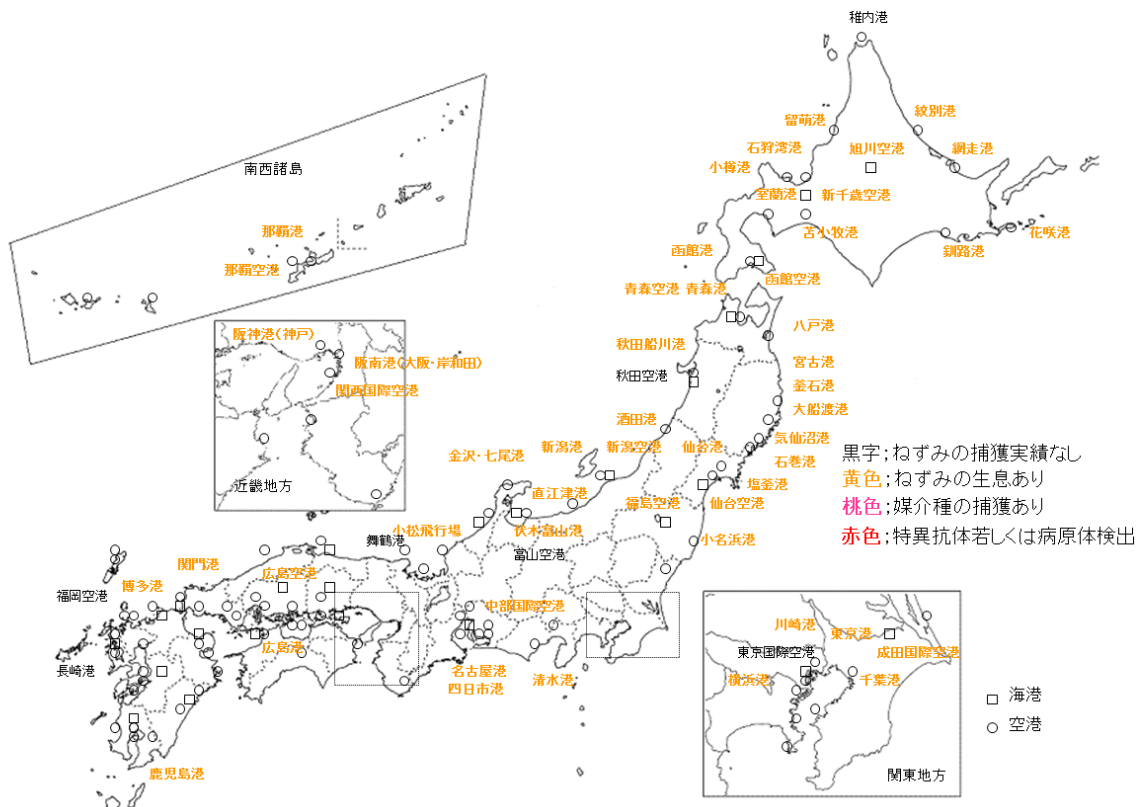


表18 主な感染症情報(2010年)

感染症	発生国	概要	情報源
デング熱	米国領サモア	メディア報道によると、米国領サモアで2010/11に42例のデング熱症例が認められた。	ProMED, 2010/2/22
マラリア	米国(ハイチ)	米国CDCによると、米国は1/12-2/25間にハイチからの11例の悪性マラリア確定症例を報告、そのうちの7例はアメリカ国籍の災害救助者(6人は米軍人)、3人は米国を旅行するハイチ住民および1例はハイチを旅行した米国人観光客。米国は2008年に1,298例のマラリアを報告、そのうちの527例(40.6%)は悪性マラリア、2例を除き残はすべて輸入例、多数はアフリカ、アジアからのアメリカ帰国旅行者。ハイチは毎年マラリアピークの11-1月と5-6月におよそ3万例のマラリアを確定症例を報告しているが、しかし毎年20万例が発生しているものと見積もられている。	MMWR, 2010/3/5
チクングニア熱	インドネシア	ここ数ヶ月の間にチクングニア熱が各地に広がり、ランパン州では1-2月の間に2万人近い感染を報告している。	The Jakarta Globe, 2010/3/9
デング熱	フランス領サンバルテルミー島	全米保健組織(Pan American Health Organization)2010/2/4発表、フランス領サンバルテルミー島(Saint-Barthelemy)は2009/11/26-2010/1/24の間に370例のデング熱を報告、そのうちの270例は確定診断された。	PAHO, 2010/2/4
デング熱	サルバドル	2010年これまでに28例のデング出血熱と1,294例のデング熱症例があり、昨年同期間のデング出血熱4例、デング熱症例126例に比べ918%の増加となっている。	ProMED, 2010/2/22
デング熱	米国領プエルトリコ	米国領プエルトリコは今年第1-8週の間に1,490例のデング熱を報告、このうち627例は最終的に確定診断され、1例は死亡。	PAHO, 2010/3/25
マラリア	アンゴラ	メディア報道によると、アンゴラKwanza クワンザ・バルデ州アンバカ市の病院は1-2月に1,526例のマラリアを報告、10例が死亡、入院者数は各疾病の第1位を占める。	AllAfrica.com, 2010/3/30
黄熱	カメルーン	2/17に西部のBanjounとFantun地区で3例の黄熱患者の発生を報告した。最初の症例はBandjoun地区Bandrefan村の28歳の男性で黄熱病ワクチンの接種歴はない。2009/12末に発病し2010/1/4に受診、1/7に死亡した第2例は19歳の男性で2010/1/20に受診し、1/23に死亡した。3例目はFantun地区の40歳の男性で2009/12の調査で発見、2009/10に死亡していた。	WHO, 2010/2/24
チクングニア熱	タイ	今年3/30までに累計で771例を報告	タイ公衆衛生省, 2010/4/21
チクングニア熱	マダガスカル	マダガスカルでは嵐によりチクングニア熱が爆発的に増加し、フィアナランツウア州・ナンジャリでは少なくとも2,000例の疑い症例が発生した。	ProMED, 2010/3/23
デング熱	コモロ	デング熱疑い症例が発生し、17例の血液検査の結果3/25に6例が陽性、9例が陰性、2例が再検査という結果が出た。	ProMED, 2010/4/5
デング熱	サウジアラビア	マッカ州ジェッダではここ2週間に200数人がデング熱に感染、ここ16週間に750例が最終的に確定診断された。ジェッダでは4月末まで156例のデング熱があり、患者はSamtahとJizan地区に分布。	ProMED, 2010/5/10
エボラ出血熱	コンゴ民主共和国	東部州バタ・キトウレで3/2-3/14にかけ6例のエボラ出血熱疑い症例が発生。	ProMED, 2010/3/30
チクングニア熱	ガボン共和国	4月から累計で303例のチクングニア熱症例を確定	International Federation of Red Cross And Red Crescent Societies, 2010/6/22
デング熱	プエルトリコ	全米保健組織(Pan American Health Organization)によると、米領プエルトリコは3/28までに2,273例のデング熱を報告、そのうちの1,016例は最終的に確定診断された。重症例は13例、2例が死亡、流行型はDEN-1、2および4。	PAHO, 2010/4/22
デング熱	ブルネイ	メディア報道によると、ブルネイは今年4月の第1週までに77人がデング熱に感染、昨年同期間発症例数の37例を上回った。4月の第1週の間に24例が新たに発生、このうち2例はデング出血熱。86%の患者はカンボン・アイールの住人。	Brunei Times, 2010/4/29
デング熱	スーダン	スーダンの紅海州は第14週(4/3-4/9)の間に175例のデング熱疑い症例を報告、今年症例数は2142例に達し、9例が死亡、致死率は0.42%。	WHO, 2010/4/18
腎症候性出血熱	台湾	4/9に台北県五股郷の36歳の男性が腎症候性出血熱に感染したことを確認した。	ProMED, 2010/4/12
日本脳炎	ベトナム	ベトナム保健省予防衛生局によると、5月に7人が日本脳炎で死亡した。今日までにハノイ市とホーチミン市そしてナムディン省、バクザン省、ゲアン省、タインホア省、ダクラク省、ドンナイ省を含む15の市と省で累計120人が感染した。通常ベトナムでは5-8月に急速に感染は南北に広まり、特に北の省では最も高い発生率を示す。	ProMED, 2010/6/17
デング熱	ガボン共和国	オートオゴウエ州の州都フランスビル市で82例のデング熱確定例が認められた。このうち15例はチクングニアとの混合感染であった。	ProMED, 2010/6/1
デング熱	タンザニア	ProMED mail個人情報によると、タンザニアのダルエスサラーム州では4月から少なくとも17例のデング熱の疑い症例が発生し、8例は迅速診断で陽性であった。	ProMED, 2010/5/17
ラッサ熱	ナイジェリア	メディア報道によると、ナイジェリア北部のケビ州でラッサ熱の新たな大発生があり、過去1ヶ月の間に何十人もの人々が感染し、17人が死亡し、12人が確定診断された。大発生は3つの地方地区に記録された。	ProMED, 2010/5/19
デング熱	エクアドル	5/8までにデング熱症例1,042例(死亡例1例)を報告。	(PAHO, 2010/5/30)
ハンタウイルス肺症候群	ボリビア	ボリビアでは2010/1/1-4/30の間に、5例のハンタウイルス肺症候群陽性例がコチャバン県(Villa Tunari市1例)、サンタクルス県(Pailon市1例とSan Julian市1例)、およびタリハ県(Padcaya市2例)の4つの市で検出された。ボリビアではこれまでに疑い症例は14例に達し、San Julian市の39歳の女性が2010年の初めに死亡している。	ProMED
チクングニア熱	マレーシア	5/9-5/16の間に合計3例のチクングニヤウイルス感染が報告された。	ProMED, 2010/5/20
デング熱	ニカラグア	5/22までにデング熱症例6,261例(死亡例3例)を報告。	(PAHO, 2010/5/30)
デング熱	アルゼンチン	5/29までにデング熱症例1,185例(死亡例0例)を報告。	(PAHO, 2010/5/30)
デング熱	ペルー	全米保健組織(Pan American Health Organization)によると、ペルーは5/29までにデング熱症例7,647例(死亡例3例)を報告。	(PAHO, 2010/5/30)
デング熱	フランス領ギアナ	全米保健組織(Pan American Health Organization)によると、フランス領ギアナには第23週末までに6,300例のデング熱疑い症例を報告、そのうちの1,920例は確定診断され、1例が死亡、主たるウイルス型はDEN-1、2および4型。	(PAHO, 2010/7/7)
デング熱	ミャンマー	メディア報道によると、ミャンマーの首都ヤンゴンでは1-5月末までに910人がデング熱に感染して、6例が死亡、昨年一年間では3,129例を報告、37例が死亡。	(ProMED, 2010/7/5)
マラリア	インドネシア	メディア報道によると、インドネシア・パプア州インタンジャヤ県でマラリアが多発し、4月に発生し、ここ3ヶ月で40人が死亡した。	(ProMED, 2010/6/11)
チクングニア熱	南アフリカ共和国	6/7までに累計で22例の死亡を含む215例のチクングニア熱症例を確定した。	(The National Institute for Communicable Diseases, 2010/6/7)
クリミア・コンゴ出血熱	カザフスタン共和国	クズロルダ州で1例のクリミア・コンゴ出血熱確定症例が発生。	ProMED, 2010/6/12
クリミア・コンゴ出血熱	コンゴ共和国	4/26-6/9の間に、4例の死亡を含む累計75人の入院を報告した。	ProMED, 2010/6/16
腎症候性出血熱	モルドバ共和国	ロシア、モルドバ共和国では腎症候性(HFRS)の症例が増加、先週(6/7-6/13)の間に7人がHFRSの診断で入院した。5/31-6/6の間では2人が感染。	ProMED, 2010/6/19
ハンタウイルス	ドイツ	ドイツでは2010/1-4の間に396例の腎症候性出血熱があり昨年に比べ大幅増加となった(2001-2009年の1-4月の平均83例、このうち2007年は232例)。	Eurosurveillance, Volume 15, Issue 20, 20 May 2010
ペスト	中国	中国衛生部は2010年6月12日、甘肅省は、アクサイカザフ族自治州、酒泉市で鼠ペストの疑い例の場合を発見し、疫学的調査、臨床症状と臨床検査の結果によると、敗血症型鼠ペストを確認した。	甘 肅 省 生 口

マラリア	ジンバブエ	メディア報道によると、ジンバブエは今年6/30までに累計で183例の死亡を含む117,038例のマラリアを報告、致死率は0.16%。最も深刻な地方は西マシオナランド州のカロイ(フルングウェ?)、カドマ、マコンデ、ズビンバ、チェグツおよびカリバである。	(Zimbabwe Daily News, 2010/8/1)
チクングニア熱	ミャンマー	今年チクングニア熱症例数が明らかに増加し、特にエーヤワディ管区、ヤンゴン管区、ラカイン州とシャン州が増加が大きい。	ProMED, 2010/8/3
マラリア	フィリピン	メディア報道によると、フィリピンのカマリネスノルテ州では182例のマラリア症例を記録した。症例の多くはホセ・バンガニバン市から報告。	(ProMED, 2010/7/27)
マラリア	マレーシア	メディア報道によると、マレーシアのパラム河沿岸の7つの村(Long San, Long Selatong, Tanjong Tepalit, Long Apu, Long Julian, Long Anap, Long Palai)とシラット河沿岸のプナン村で近頃少なくとも5例がマラリアと確定診断され、そのうちの60歳の男性は7/21に死亡。	(ProMED, 2010/7/5)
デング熱	モルジブ	7/3までに473例のデング熱が報告され、死亡者はなし。	(ProMED, 2010/7/27)
ベスト	ペルー	8/9から今日までに27例のベストを報告。25例はラリベルタ県Ascope郡、2例はラリベルタ県Trujillo郡から報告。	Pan American Health Organization
ベスト	ミャンマー	ミャンマーの首都ヤンゴンでは6月にベストの病例を発見、ここ10年初めての発見。	ProMED
デング熱	日本	海外でデング熱に罹患する日本人が、例年にない早いペースで増加している。	国立感染症研究所
デング熱	フランス	世界保健機関(WHO)によると、フランスのニース市で初めての本土感染によるデング熱症例を通告、患者は成人男性で、8/21に発病、8/27に入院、患者はすでに全快した。フランスは5/1から今日までに108例の輸入デング熱を報告、そのうちニース市では7/24-8/23の間に4例の輸入例を発見。	(WHO Event Information Site for IHR National Focal Point, 2010/9/17)
クリミア・コンゴ出血熱	ロシア	ロシア連邦南部のスタヴロポリ地方ではクリミア・コンゴ出血熱症例が継続発生しており、今年は今までのところ25例の発生があった。また、アストラハン州では6例、ヴォルゴグラード州では3例、ロストフ州では11例とロシア南部地方では計45例の発生を見た。	ProMED, 2010/7/18
黄熱	コンゴ民主共和国	6/25に北部のオリエンタル州Base Ouele地区Tituleで黄熱の疑い症例1例発生を報告。3-6月の間に2例の死亡を含む別11例疑い症例を発見、初発例は43歳の男性農民でワクチン未接種者、3/15に発病、数日後に死亡、すでに確定診断されている。	ProMED, 2010/7/19
デング熱	ボリビア	全米保健組織(Pan American Health Organization)によると、ボリビアは7/24までにデング熱症例5,191例(死亡例0例)を報告。	(PAHO, 201/9/30)
黄熱	コートジボアール	5/3からラギューヌ州アビジャン県で2人の死者が報告され、この他南コモエ州グランバッサム県とバンドマ運谷州アベケ県との3県から少なくとも19人の患者が報告された。	ProMED, 2010/7/30
デング熱	セントビンセント	今年第30週(7/31)までに86例のデング熱確定診断症例を報告。	(PAHO, 2010/10/28)
デング熱	フランス領セントマーティン	全米保健組織(Pan American Health Organization)によると、フランス領セントマーティンは今年第30週(7/31)までに2,450例のデング熱を通告、322例は確定診断された。	(PAHO, 2010/9/17)
ウエストナイル熱	ギリシャ	北ギリシャでこれまで164例のウエストナイル熱と14例の死亡を報告した。患者の大部分は8月に発生した。	(ProMED, 2010/9/7)
ウエストナイル熱	ハンガリー	ハンガリーで3例の可能性症例を認めた。ここ数年患者が認められている。	(ProMED, 2010/9/7)
デング熱	イエメン	イエメンの首都サマワの東474km東シャブワ県で2,200例のデング熱があり、309例が確定診断された。	(ProMED, 2010/8/26)
日本脳炎	パキスタン	メディア報道によると、ネパールのジャナクプール県マホッタリ郡ダマウラ村の5歳の男児は7/16に日本脳炎で死亡した。この村は別に20歳の女性の感染1例あった。	(ProMED, 2010/7/18)
日本脳炎	ネパール連邦民主共和国	メディア報道によると、ネパール西部地区は最近日本脳炎患者がが多数発生し、カンチャンプル郡の1つの村で9人が死亡、カイラリ郡では4人が死亡。日本脳炎は2005年にネパールで100人近い死亡者をたらした。	(ProMED, 2010/8/25)
ベスト	モンゴル	8/24にバヤンウルギー県 ツェンゲル郡でマーマットに接しベストに感染した。またゴビ・アルタイ県エルデネ郡とチャンドマニ郡で8/26にベスト症例を発見。	人民日報ネット
マラリア	ベトナム	ベトナム衛生省によると、ベトナムは8月に4,481例のマラリアを報告、1例は死亡、今年累計で7省から24,682例を報告、7例が死亡、症例数は昨年同時期(累計で25,972例、死亡7例)より低い。	(ベトナム衛生省, 2010/8/20)
腎症候性出血熱	ドイツ	7月末にバーデン・ヴュルテンベルク州エッツト郡プフォルツハイム市でブーマラウイルス感染による腎症候性出血熱で死亡した。エッツト郡では近年ウイルス拡大の勢いは強く、報告例は2007年の28人から2010年は52人と増加した。	ProMED, 2010/8/9
ハンタウイルス肺症候群	カナダ	サスカチュワン州の男性はハンタウイルス、2年ぶりの症例だと州保健当局。	地元紙
クリミア・コンゴ出血熱	ナミビア	ナミビアのカラス州でクリミア・コンゴ出血熱が発生。	ProMED, 2010/8/10
デング熱	トリニダード	今年第32週(8/14)までに1,408例のデング熱を報告、3例は死亡。	(PAHO, 2010/10/28)
デング熱	メキシコ	8/14までにデング熱症例57,971例(死亡例20例)を報告。	(PAHO, 201/9/30)
デング熱	ブラジル	全米保健組織(Pan American Health Organization)によると、ブラジルは8/18までにデング熱症例942,153例(死亡例0例)を報告。	(PAHO, 201/9/30)
デング熱	中国	中国本土は今年第34週(8/28)までに30例のデング熱を報告、死亡者なし。	(WPRO, 2010/10/11)
デング熱	インドネシア	1/1-8/31の間に80,065例のデング熱を報告。	(AFP, 2010/10/7)
ウエストナイル熱	ルーマニア	ルーマニアの累計症例数を4例の死亡を含む41例とした。	(ProMED, 2010/9/22)
ウエストナイル熱	ロシア	感染者総数は480人。	ProMED
チクングニア熱	インド	マハラシュトラ州は今年9/30までに4,624例のチクングニア熱を報告、死亡者0例、9/30までの症例数は昨年1年間の症例数(1,594例)の3倍。	India Ministry of Health and Family Welfare, 2010/10/21)
デング熱	アジア	アジアにおけるデング熱は入院例や重症例が引き続き増加し、一部の国では昨年に比べ症例が大幅に増加した。世界中で25億人がデング熱のリスクを負っており、その70%以上はアジア太平洋地域に居住し、そのうちラオス、マレーシア、フィリピンそしてベトナムは特に深刻で、WHOはアジアにデング熱警告を出した。シンガポールの症例数は徐々に減少しているが、しかしここ数ヶ月症例数は昨年同時期より高い。年間症例数は持続的に減少しているが、これはいくつかの効果的な予防対策によるものと思われる。WHOは今年の高温多雨が症例数の増加を導いており、人口や国際旅行者の増加は、一部の国において高い意識レベルと監視システムの改善が望まれる。症例の増加は地球温暖化によるものという確固たる証拠はないが、気候変動はデング熱の空間と時間分布における重要な役割を果たしている。媒介蚊は韓国とバブアニューギニアの高地を含む今まで一般的でなかった領域で見つけられている。次のアジアの国等は輸入例を含むデング熱症例(死亡数)を報告している。ブルネイ:37例、カンボジア:7,477例(19)、香港:34例、日本:126例、韓国:23例、ラオス:15,838例(41)マカオ:2例、マレーシア:32,688例(103)、フィリピン:77,012例(534)、シンガポール:3,110例、ベトナム:42,314例(3)。	(WPRO, 2010/9/16)
デング熱	米国領ヴァージン諸島	メディア報道によると、米国領ヴァージン諸島セントジョン郡セントトーマス地区は少なくとも1例の死亡を含む19例のデング熱症例を9/17に報告した。衛生局は19例の疑い症例のうち9例を確定症例とした。セントクロウチックでは4例の疑い症例がある。	(ProMED, 2010/9/21)
デング熱	フランス領マヨット島	メディア報道によると、フランス領マヨット島地域保健局は3月から9/1までに914例のデング熱を報告、25例は確定症例であり、は31例(ここ2か月間)の可能性例を確認した。9例は入院した。	(ProMED, 2010/9/6)
マラリア	中国	メディア報道によると、江蘇省南京市の第二病院感染症科は最近1例のマラリアを受け入れた。患者はインド国籍の22歳の女性留學生で、インドから学校に帰った後に発病、9/14に受診し、検査の結果マラリア原虫が検出された。	(新華ネット, 2010/9/20)
デング熱	フランス領グアドループ	全米保健組織(Pan American Health Organization)によると、フランス領グアドループでは今年第35週(9/5)までに41,100例のデング熱を報告、51,69例は確定診断され、5例が死亡。	(PAHO, 2010/9/17)
デング熱	カボベルデ	ProMED個人情報によると1/1-9/5間に累計で355例デング熱疑い症例が認められた。	(ProMED, 2010/9/13)
ウエストナイル熱	トルコ	ウエストナイルウイルスにより3人が死亡し、4人以上が感染した。	トルコ保健省
ウエストナイル熱	米国	米国は今年11/16までに39州で944例のウエストナイルウイルス感染症例を報告、39例が死亡、患者のうちで、575例は脳炎、脳膜炎あるいは急性弛緩性麻痺症例、369例はウエストナイル熱。	CDC
デング熱	イギリス領バージン諸島	今年第36週(9/11)までに5例のデング熱を報告。	(PAHO, 2010/10/28)
デング熱	香港	香港は今年第36週(9/11)までに59例のデング熱を報告、発生率は0.84/人口10万、59例は確定診断された。	(WPRO, 2010/10/11)
デング熱	ホンジュラス	全米保健組織(Pan American Health Organization)によると、ホンジュラスは9/11までにデング熱症例60,258例(死亡例68例)を報告。	(PAHO, 201/9/30)
デング熱	フランス領マルティニク島	全米保健組織(Pan American Health Organization)によると、フランス領マルティニクは今年第36週(9/12)までに37,100例のデング熱を報告、1,593例は確定診断され、14例は死亡。	(PAHO, 2010/9/17)

マラリア	パキスタン	メディア報道によると、世界保健機関(WHO)はパキスタンから9/17現在、195,000例のマラリア疑い症例が報告されたと語った。	(ProMED, 2010/9/24)
デング熱	イギリス領アングラ島	今年第37週(9/18)までに1例のデング熱を報告。	(PAHO, 2010/10/28)
デング熱	イギリス領バミューダ	今年第37週(9/18)までに2例のデング熱を報告。	(PAHO, 2010/10/28)
デング熱	ガイアナ	今年第37週(9/18)までに8,100例のデング熱を報告、2,200例は確定診断され、1例は死亡。	(PAHO, 2010/10/28)
デング熱	フランス領ニューカレドニア	WHO西太平洋地域事務局によると、フランス領ニューカレドニアは今年第37週(9/18)までに113例のデング熱を報告、発生率は44.51/人口10万。	(WPRO, 2010/10/11)
デング熱	フランス領ポリネシア	WHO西太平洋地域事務局によると、フランス領ポリネシアは今年第37週(9/18)までに1,000例のデング熱を報告、発生率は366.98/人口10万、36例は確定診断された、ウイルス型はDEN-1およびDEN-4で、死亡者はない。	(WPRO, 2010/10/11)
マラリア	インド	インド保健家族福祉省によると、インドは今年9/20までに634,712例のマラリアを報告、そのうちの336例は死亡。症例は主に東部のオリッサ州(188,812例)、ジャールカンド州(82,994例)と西ベンガル州(44,137例)から報告。	(India Ministry of Health and Family Welfare, 2010/10/21)
マラリア	ソマリア	国際保健機関(WHO)によると、ソマリアのローワ・ジュバとミドル・ジュバ地域は第37週(9/18-9/24)の間に合計264例のマラリア疑い症例を報告、死亡者0。リワー・シャベラ地域は第37週の間に144例のマラリアを報告、69例は確定診断され、死亡者は0。	(WHO, 2010/9/28)
デング熱	イギリス領カイマン諸島	今年第38週(9/25)に4例のデング熱確定症例があった。	(PAHO, 2010/10/28)
デング熱	オランダ領アンティル群島	今年第38週(9/25)までに852例のデング熱を報告、240例は確定診断され、1例は死亡。	(PAHO, 2010/10/28)
デング熱	グレナダ	今年第38週(9/25)までに106例のデング熱を報告、92例は確定診断された。	(PAHO, 2010/10/28)
デング熱	スリナム	今年第38週(9/25)までに54例のデング熱を報告、22例は確定診断された。	(PAHO, 2010/10/28)
デング熱	セントクリストファー	今年第38週(9/25)までに1例のデング熱確定症例を報告。	(PAHO, 2010/10/28)
デング熱	セントルシア	今年第38週(9/25)までに37例のデング熱確定症例を報告。	(PAHO, 2010/10/28)
デング熱	トンガ	今年第38週(9/25)までに30例のデング熱を報告、発生率は28.70/人口10万、5例は確定診断された。	(WPRO, 2010/10/11)
デング熱	バハマ	今年第38週(9/25)までに5例のデング熱確定症例を報告。	(PAHO, 2010/10/28)
デング熱	パラオ	今年第38週(9/25)までに7例のデング熱を報告、発生率は34.18/人口10万、4例は確定診断された。	(WPRO, 2010/10/11)
デング熱	バルバドス	今年第38週(9/25)までに221例のデング熱を報告、43例は確定診断された。	(PAHO, 2010/10/28)
デング熱	ペリーズ	全米保健組織(Pan American Health Organization)によると、ペリーズは今年第38週(9/25)までに936例のデング熱を報告、758例は確定診断された。	(PAHO, 2010/10/28)
腎臓慢性出血熱	ロシア	モスクワ州では2010年の前半期(1-6月)に10例の腎臓慢性出血熱(HFRS)が記録された。これは昨年期間の3倍である。この10例のうち7例は感染源として齧歯動物が確認された。	ProMED, 2010/9/26
チクングニア熱	フランス	9/26、ニースのフリュススの町でチクングニア熱の症例2例を今週末に検出した。患者は2人とも12歳の少女で、汚染地域の旅行はしてなかったと語った。リビエラ地域のイタリアの領域では2カ月の期間に240人のチクングニアの発生があった。	ProMED, 2010/9/26
ハンタウイルス肺症候群	パラグアイ	パラグアイのサンペドロ県で59歳の男性がハンタウイルス肺症候群と確定された。	ProMED
デング熱	香港	香港は9/30にデング熱本土感染例が新たに3例確定された。9/30までに4例の本土感染確定例を報告。	(香港政府新聞ネット, 2010/9/30)
デング熱	ベトナム	WHO西太平洋地域事務局によると、ベトナムは9月末までに42,314例と33の死亡例を報告、致死率0.08%。昨年同時は44,571例を報告。	(WPRO, 2010/10/20)
デング熱	インドネシア	バリ島は10月に10,230人のデング熱感染があり、11/10までに29人が死亡。	(ProMED, 2010/11/15)
デング熱	パキスタン	今年までに1,500例のデング熱を報告、15例は死亡。メディア情報によると、スペインのアラゴン州ウエスカ県で9月末に1961年来初めてマラリアの本土感染症例が発生、10/1に確定診断、患者はすでに回復した。スペインは毎年およそ500例の輸入マラリアがある。	(WHO, 2010/10/25)
マラリア	スペイン	メディア情報によると、セネガルのダカール近郊地区で7-10月の間に13,813例のマラリアが発生、疑い症例の50%は陽性、87%患者は5歳以上、11%は5歳以下、1.25%は妊婦、死亡者はなし。	(ProMED, 2010/10/9)
マラリア	セネガル	メディア情報によると、ベネズエラ南部アマソナス州のアマゾン熱帯雨林に住む先住民族ヤノマインディアン3つの村でマラリアが発生し、過去3か月間で子供を含む17人が死亡。60人がマラリアと診断された。	(ProMED, 2010/11/06)
マラリア	ベネズエラ	メディア情報によると、シエラレオネでは1-9月の間に45人の死亡を含む152人のラッサ熱患者があり、ネズミ肉レストランの経営者も感染している。152人はヤブネズミ(bush rats;ヤブネズミ属Aethomys?)、ラッサ熱ウイルスの宿主は一般的にヤブゲネズミ属Mastomys、混同か)から感染。	(ProMED, 2010/11/05)
ラッサ熱	シエラレオネ	WHO西太平洋地域事務局によると、マレーシアではデング熱症例報告数が1週間あたり760-1159例にまで変化した。9/26-10/2の間に1913例を報告、1/1-10/2の間に累計で37,419例を報告、117例は死亡、致死率0.31%。昨年同時期は32,008例が報告。	(ProMED, 2010/10/8)
デング熱	マレーシア	フランス領レユニオン島で10/4現在、153人がチクングニアに感染。	(ProMED, 2010/10/8)
チクングニア熱	フランス領レユニオン島	今年第40週(10/09)までに435例のデング熱を報告、83例は確定診断された。	(PAHO, 2010/10/28)
デング熱	オランダ領アルバ島	今年10/9までに10,812例のデング熱を報告、30例が死亡、致死率は0.28%。	(WPRO, 2010/10/20)
デング熱	カンボジア	WHO西太平洋地域事務局によると、フィリピンは今年10/9までにデング熱病例を累計で676例の死亡を含む110,235例を報告、致死率は0.61%、8月のピーク以降に次第に下降、昨年の年間症例数は57,819例を報告。	(WPRO, 2010/10/28)
デング熱	フィリピン	バキスタンは10/28までに29例のクリミア・コンゴ出血熱(CCHF)を報告、3例は死亡。	(ProMED)
クリミア・コンゴ出血熱	パキスタン	広東省東莞市は10/13現在、累計で275例のチクングニア熱を報告。	中国疾病预防控制中心, 2010/10/19
チクングニア熱	中国	今年第45週(11/13)までに146,388例のデング熱を報告、69,619例は確定診断され、186例は死亡。	(PAHO, 2010/11/18)
デング熱	コロンビア	今年第41週(10/16)までに16,058例のデング熱を報告、3,078例は確定診断され、40例は死亡。	(PAHO, 2010/11/18)
デング熱	グアテマラ	今年第41週(10/16)までに2,507例のデング熱を報告、340例は確定診断され、1例は死亡。	(PAHO, 2010/10/28)
デング熱	ジャマイカ	WHO西太平洋地域事務局によると、ラオスは今年10/16までに21,509例のデング熱を報告、45例は死亡、致死率は0.21%、症例数は8/8-8/14のピーク後に次第に下降、昨年の年間症例数7,810例を報告。	(WPRO, 2010/10/28)
デング熱	ラオス	南部ロスサントス県Guareane地区で1歳の男児がハンタウイルス肺症候群(HPS)に感染した。男児はラスタブラス市の病院に10/3の週に入院しHPSと診断された。	ProMED
ハンタウイルス肺症候群	パナマ	今年10月までに692例のデング熱を報告、毎週の症例数は7月のピーク後次第に下がっている。	(WPRO, 2010/10/20)
デング熱	オーストラリア	今年第42週(10/23)までに10,909例のデング熱を報告、6,826例は確定診断され、50例は死亡。	(PAHO, 2010/11/18)
デング熱	ドミニカ共和国	今年第42週(10/23)までに13,681例のデング熱確定症例があり、15例は死亡。	(PAHO, 2010/10/28)
デング熱	パラグアイ	全米保健組織(Pan American Health Organization)によると、米国領プエルトリコは今年第42週(10/23)までに18,385例のデング熱を報告、8,942例は確定診断され、29例は死亡。	(PAHO, 2010/11/18)
デング熱	米国領プエルトリコ	台湾は10/17-27の間に週間デング熱症例数が最高となり、全国で156例、南部の高雄市、台南市でそれぞれ139例を記録した。台北市では3例目のデング熱症例が発生した。	(ProMED, 2010/11/01)
デング熱	台湾	国際連合人道問題調整事務所によると、ニジェールは今年第43週(10/21-10/27)の間に累計で2,727,063例のマラリアがあり、昨年同時期(1,566,436例)より74%高い、しかし流行状況はすでに下降を始めた。	(OCHA, 2010/11/9)
マラリア	ニジェール	デリー首都圏ではデング熱症例が上昇し続け、10/28に75例の新たな症例報告があり、9月までの4半期の累計は5,363例となった。	(ProMED, 2010/11/01)
デング熱	インド	10/10/18-24に腎臓慢性出血熱(HFRS)症例が17例記録された。ほとんどが首都カザンで記録された。	ProMED, 2010/10/29
腎臓慢性出血熱	タタルスタン共和国	アルゼンチン東部メノボタミア地方エントレ・リオス州の南西部 Victoria 市の43歳男性漁師がハンタウイルス肺症候群症状を呈し10/16に入院、10/18に死亡した。	ProMED
ハンタウイルス肺症候群	アルゼンチン	世界保健機関(WHO)によると、スーダン南コルドファン州は10/23-10/29の間に3,194例のマラリアを報告、3例は死亡。10/16-10/22の間に別にマラリアの死亡症例があった。西スル州3例、カッサラ州1例、ゲダレフ州2例。	(WHO's Emergency Preparedness and Humanitarian Action in Sudan, 2010/11/10)
マラリア	スーダン	全米保健組織(Pan American Health Organization)によると、ベネズエラは今年第43週(10/30)までに106,725例のデング熱を報告。	(PAHO, 2010/11/18)
デング熱	ベネズエラ		

ハンタウイルス肺症候群	米国	米国コロラド州キンゼスマ郡で35歳の男性が10/19にハンタウイルス肺症候群で死亡した。	ProMED
マラリア	インド	メディア情報によると、インド西海岸ゴア州北ゴア県Bicholim市で熱帯熱マラリア患者が22人発生。多くの患者は一次医療センター施設の新築工事現場で認められた。	(ProMED, 2010/11/22)
日本脳炎	インド	メディア情報によると、インドのウッタルプラデーシュ州ゴークラクル県で11/3-4の間に14例の新たな脳炎患者が発生し2人が死亡した。ウッタルプラデーシュ州東部の死者数は469人となった。死者はマハーラジガンジ県とデーオリヤー県の住民。現在216人が脳炎で入院している。	(ProMED, 2010/11/05)
デング熱	ネパール連邦民主共和国	ネパール西部州ルンビニ県バイラ市は11/4までに累計127例のデング熱を報告。	(ProMED, 2010/11/10)
デング熱	米国	全米保健組織(Pan American Health Organization)によると、米国は今年第44週(11/6)までに55例のデング熱確定症例を報告。	(PAHO, 2010/11/18)
デング熱	ハイチ	11/9までに6州で累計11,125例のコレラ入院症例があり、このうち724例が死亡。症例は主にアルティボニット県(7,352例、うち450例が死亡)に集中、首都ポルトープランスでは278例が入院し、10例が死亡。	(PAHO, 2010/11/11)
デング熱	シンガポール	今年第45週(11/7-11/13)の間に117例(去年同時期の74例)のデング熱が新たに発生、21週連続して昨年同時期を上回っている。しかし流行警戒値(202例)に達していない。今年これまでに4,715例のデング熱および32例のデング出血熱を累計。	(シンガポール衛生省, 2010/11/15)
デング熱	エルサルバドル	今年第45週(11/13)までに21,635例のデング熱を報告、8,769例は確定診断され、2例は死亡。	(PAHO, 2010/11/18)
デング熱	タイ	今年11/13までに累計で105,797例のデング熱を報告、発生率は166.54/人口10万、そのうちの129例は死亡、至死率の0.12%、症例数はバンコク(8,673例)が最も多く、死亡例数はナコーンシータンマラート県が18例と最も多い。	(タイ公衆衛生省, 2010/11/19)
ハンタウイルス肺症候群	チリ	チリは今日まで17人の死亡を含む50人以上のアンデスウイルスによるハンタウイルス肺症候群症例があった。媒介動物はオナガコメネズミ。	(ProMED)
デング熱	フランス領レユニオン島	メディア情報によると、フランス領レユニオン島は今日まで53例のデング熱を報告、そのうちの29例(2例は確定症例)は本土症例で、24例(9例は確定症例)は輸入例。	(ProMED, 2010/11/15)
デング熱	コスタリカ	今年第44週(11/6)までに29,392例のデング熱を報告。	(PAHO, 2010/11/18)
デング熱	ネパール連邦民主共和国	ネパール。全国、11/29、3地域で患者888人、死者5人。	(ProMED, 2010/12/6)
デング熱	スリランカ	今年11/23までに累計で230例の死亡を含む32,976例のデング熱病例を報告。	(スリランカ衛生省, 2010/11/23)